

双葉町 住民意向調査 報告書

平成28年3月

復興庁
福島県
双葉町

双葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-2 復興公営住宅の入居意向	27
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	27
3-2-2 復興公営住宅へ入居を希望する自治体と世帯構成	31
3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス	36
3-2-4 復興公営住宅へ入居を現時点で判断できない理由	38
3-2-5 復興公営住宅へ入居の判断時期	40
3-2-6 復興公営住宅へ入居を希望しない理由	42
3-2-7 復興公営住宅へ入居を希望しない場合の今後の住居	44
3-2-8 現在の住居で継続して暮らしたい理由	46
3-2-9 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、 今後の住居を判断できない理由	49
3-2-10 避難期間中に転居を希望する自治体	52

3-2-11	避難期間中、転居する場合の住居形態	54
3-3	将来の意向	55
3-3-1	双葉町への帰還意向	55
3-3-2	帰還まで待てる年数	60
3-3-3	双葉町へ戻る場合の家族	61
3-3-4	双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	63
3-3-5	双葉町へ帰還する場合の住居形態	67
3-3-6	双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	69
3-3-7	双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報	70
3-3-8	双葉町との“つながり”を保ちたいか	75
3-3-9	現時点で戻らないと決めている理由	77
3-3-10	帰還しない場合に今後の生活において必要な支援	80
3-3-11	帰還しない場合に居住を希望する自治体	82
3-3-12	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	85
3-3-13	避難指示解除準備区域内の農地の所有・借用 及び管理方法の希望	87
3-3-14	農業復興組合の必要性および参加意向	88
3-3-15	双葉町内での震災発生以前と現在の営農状況	89
3-3-16	双葉町の避難指示が解除された場合の営農意向	90
3-3-17	営農を再開または就農する場合の試験栽培への興味	91
3-3-18	双葉町内での新しい墓地の取得意向	92
3-3-19	双葉町内に墓地の取得を希望する理由	93
3-3-20	双葉町内に墓地を取得してから墓石建立までの期間	94
3-3-21	町営墓地が新設される場合の要望	95
3-3-22	双葉町内での墓地の取得を現時点で判断できない理由	96
3-3-23	双葉町内に墓地の取得を希望しない理由	97
3-3-24	双葉町復興まちづくり長期ビジョンに関する意見	98
3-4	意見・要望	99
IV	参考資料	111
4-1	使用調査票	113

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、双葉町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	双葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,377 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成27年12月14日（月）～平成27年12月28日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、双葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,672 世帯（有効回収率 49.5%）

1-5 報告書の見方

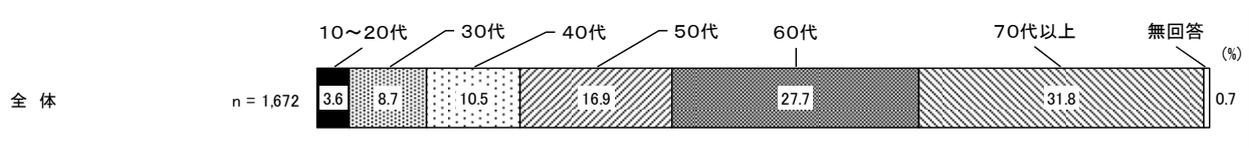
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

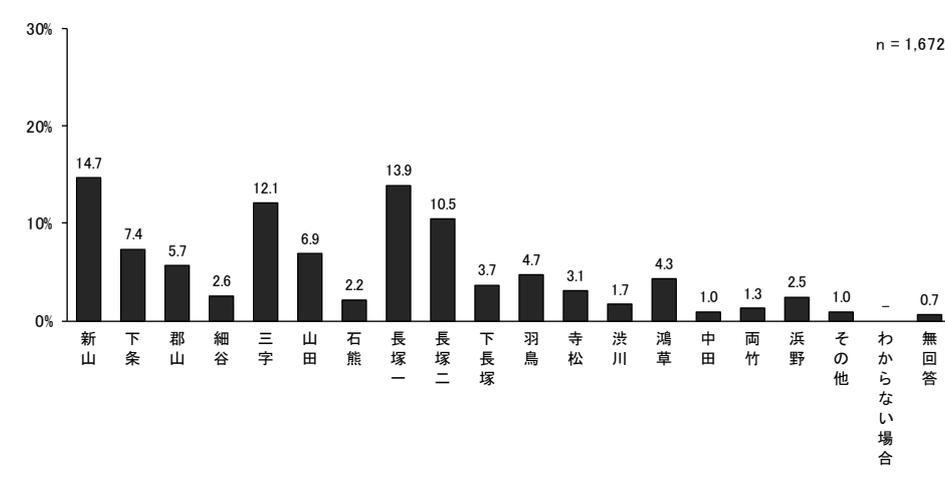
(1) 年齢

<図表2-1-1>



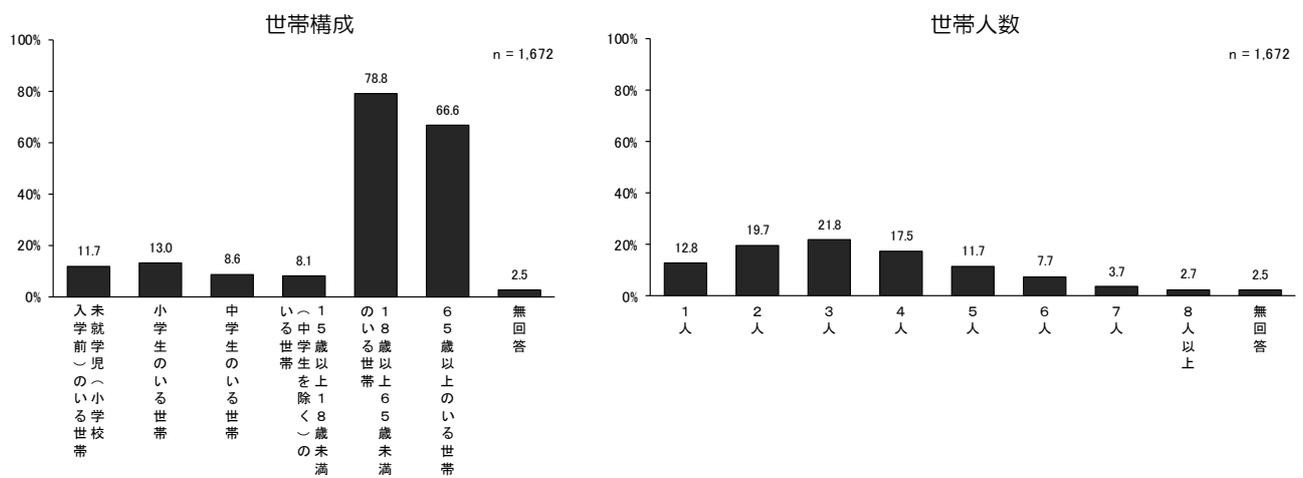
(2) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-2>



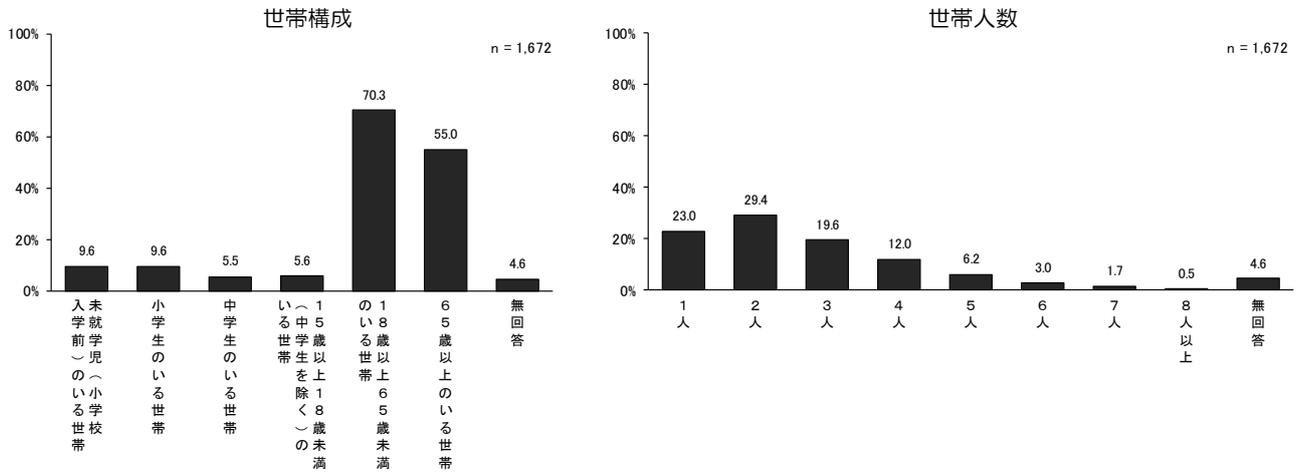
(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-3>



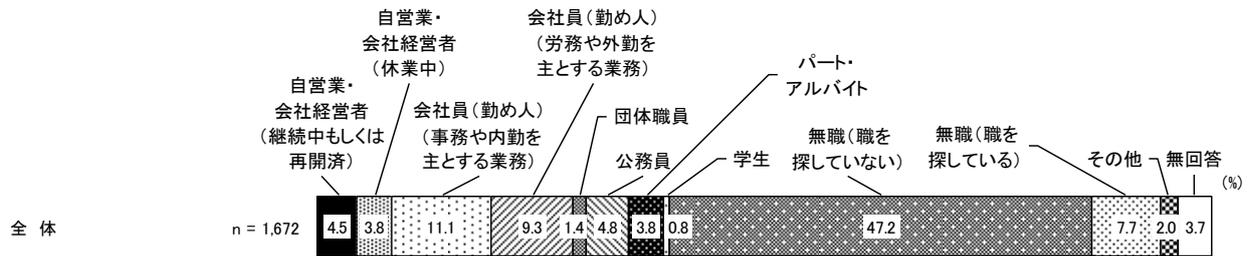
(4) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



(5) 現在の職業 (就業形態)

<図表2-1-5>



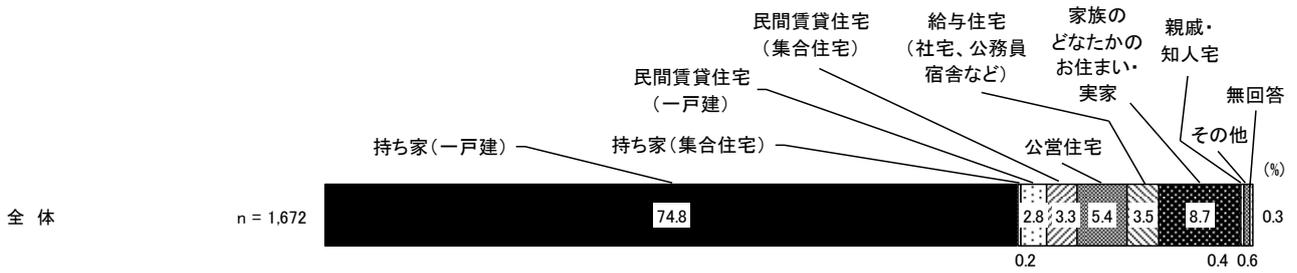
(6) 現在の職業 (業種)

<図表2-1-6>



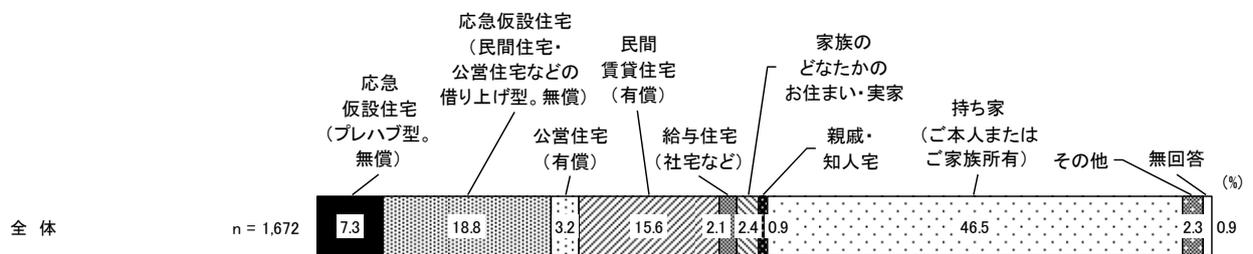
(7) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-7>



(8) 現在の住居形態

<図表2-1-8>



III 調査結果

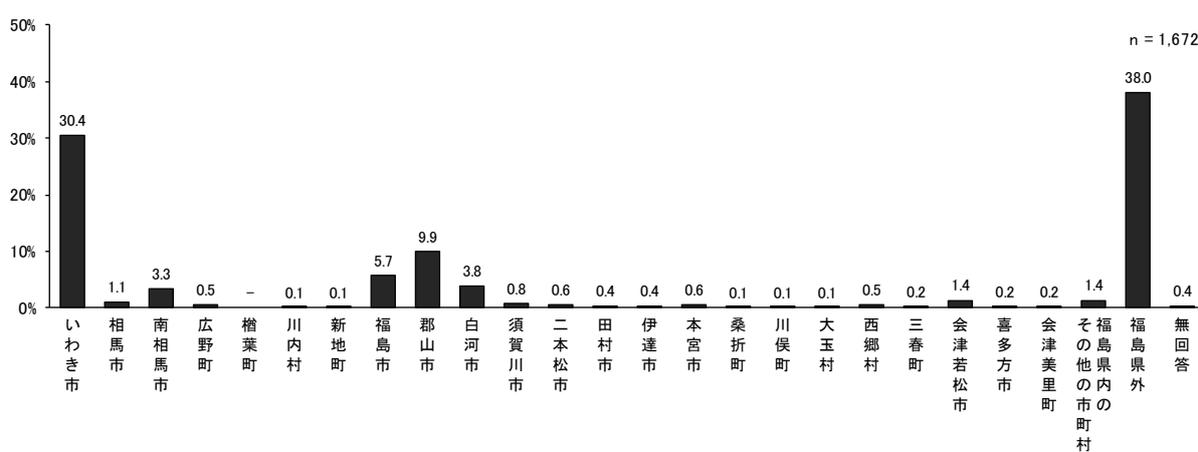
3-1 現在の状況

3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(〇は1つ)

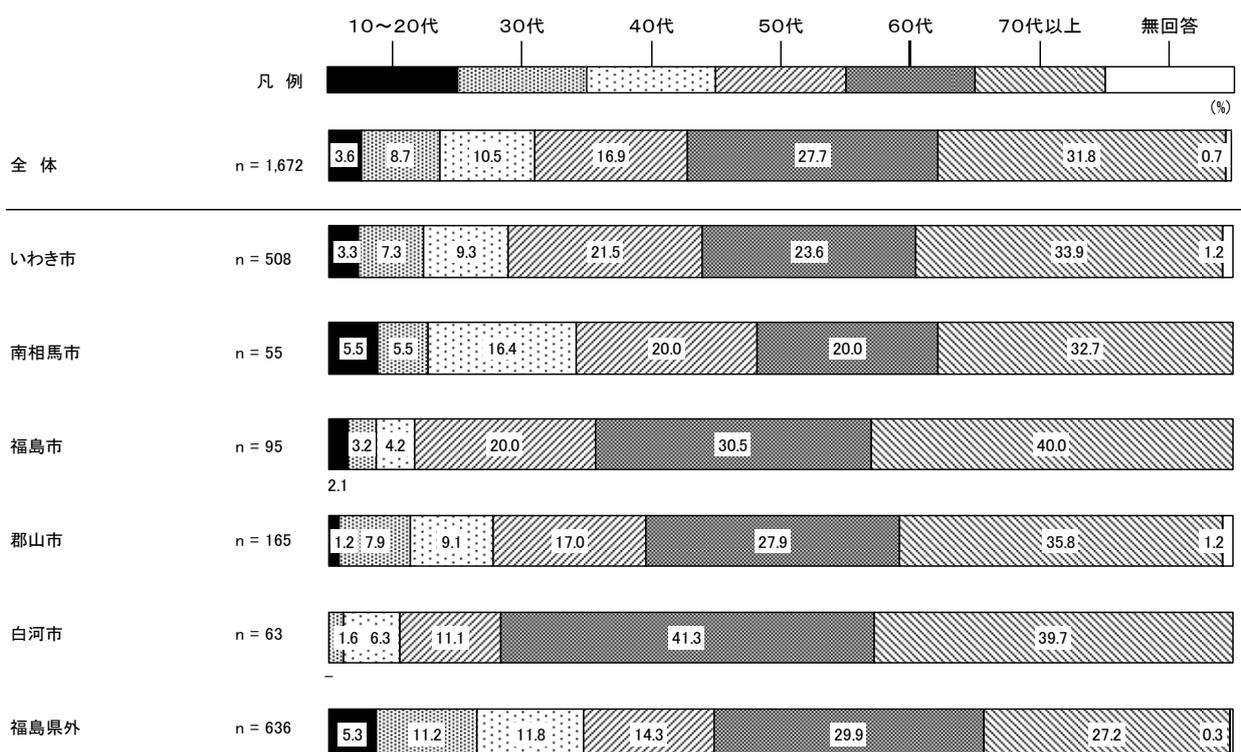
現在の避難先自治体については、「福島県内」が61.9%、「福島県外」が38.0%となっている。自治体で見ると「いわき市」が30.4%と最も高く、「郡山市」が9.9%となっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



主な避難先自治体について、回答者の年齢別にみると、60代以上は「白河市」で81.0%、「福島市」で70.5%と7割以上を占める。一方、40代は「南相馬市」で16.4%と高くなっている。

<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、新山、下条、細谷、三字、石熊、羽鳥、寺松、渋川、鴻草、浜野では「いわき市」が3割以上となっている。また、下長塚では「福島市」が16.1%となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	(%)					
		いわき市	南相馬市	福島市	郡山市	白河市	福島県外
全体	1,672	30.4	3.3	5.7	9.9	3.8	38.0
新山	245	34.3	1.2	2.9	11.0	4.5	35.5
下条	124	30.6	1.6	8.1	12.1	2.4	36.3
郡山	96	29.2	3.1	6.3	7.3	1.0	42.7
細谷	44	31.8	2.3	2.3	9.1	6.8	36.4
三字	202	36.6	1.5	6.4	10.9	2.0	36.1
山田	116	24.1	3.4	5.2	13.8	4.3	37.1
石熊	36	30.6	5.6	2.8	16.7	-	38.9
長塚一	233	28.8	3.9	6.0	10.3	6.4	37.3
長塚二	176	22.7	3.4	4.5	7.4	3.4	47.7
下長塚	62	25.8	9.7	16.1	9.7	1.6	32.3
羽鳥	79	34.2	8.9	5.1	5.1	3.8	32.9
寺松	51	39.2	5.9	3.9	13.7	5.9	29.4
渋川	29	31.0	-	3.4	3.4	13.8	37.9
鴻草	72	31.9	5.6	6.9	5.6	1.4	40.3
中田	17	17.6	-	5.9	11.8	-	41.2
両竹	21	23.8	4.8	9.5	4.8	4.8	52.4
浜野	42	45.2	-	2.4	7.1	-	38.1
その他	16	12.5	6.3	6.3	12.5	6.3	50.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

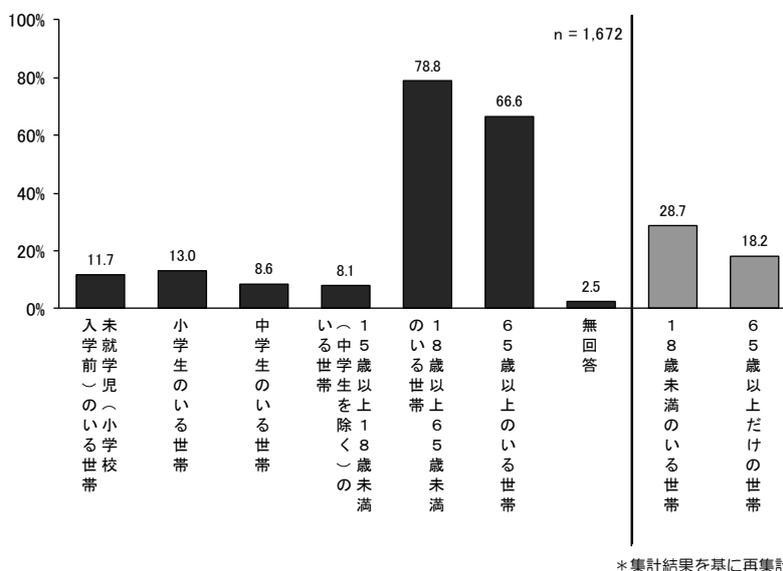
(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

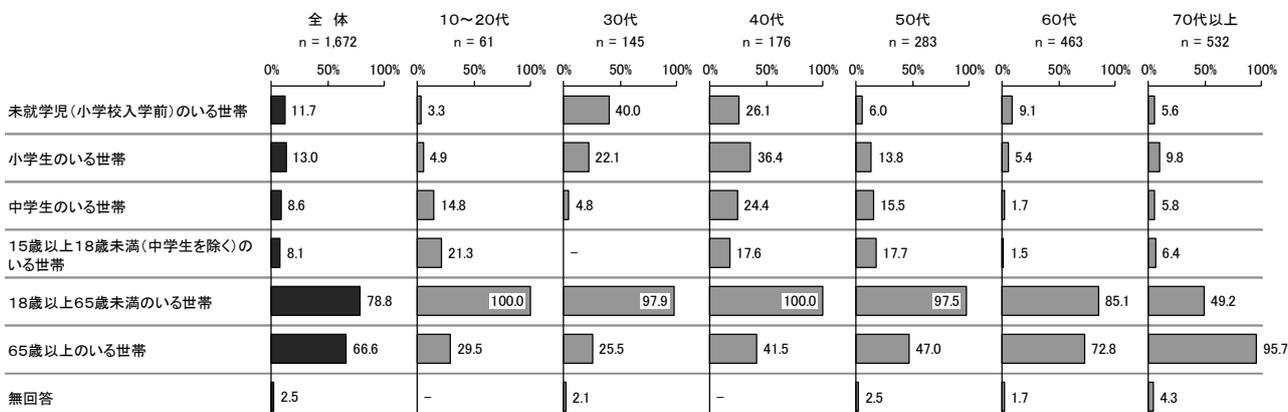
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が78.8%、「65歳以上のいる世帯」が66.6%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(11.7%)、「小学生のいる世帯」(13.0%)、「中学生のいる世帯」(8.6%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(8.1%)はいずれも概ね1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

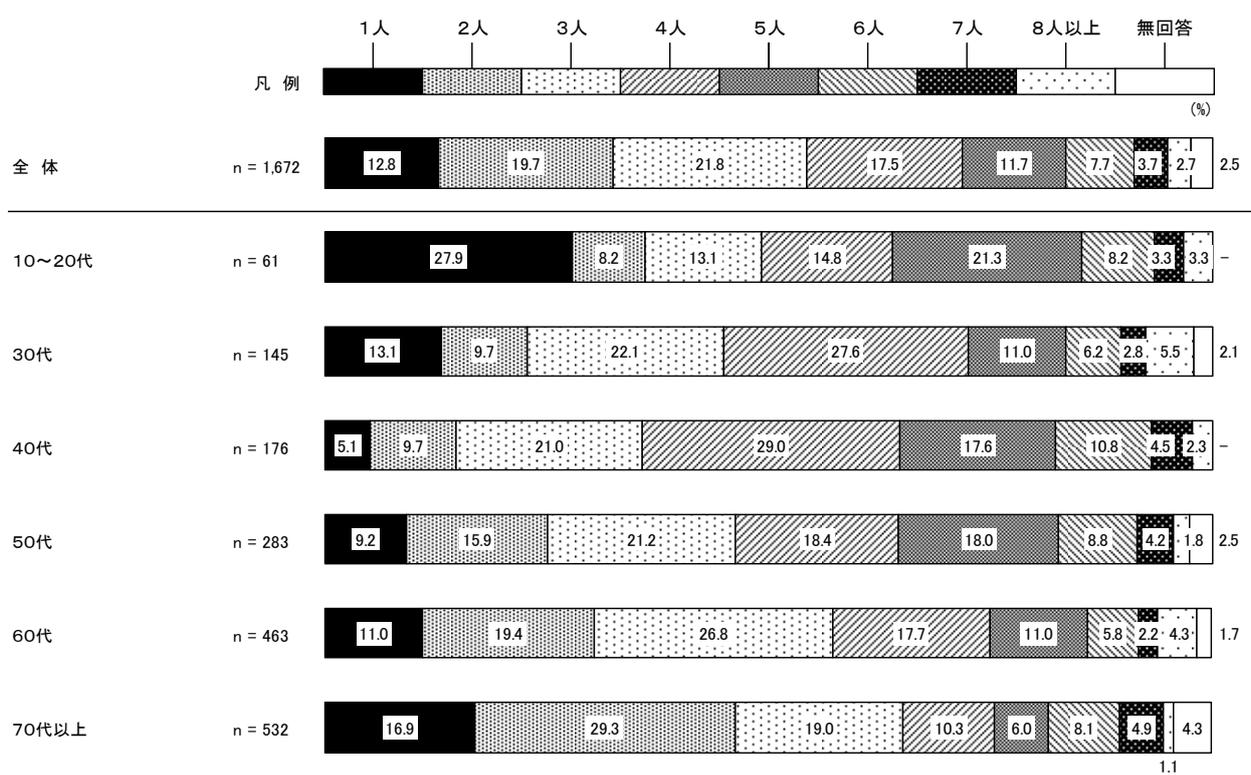


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「3人」が21.8%と最も高く、次いで「2人」が19.7%、「4人」が17.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、70代以上で29.3%と最も高くなっている。「3人」は60代で26.8%、「4人」は40代で29.0%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

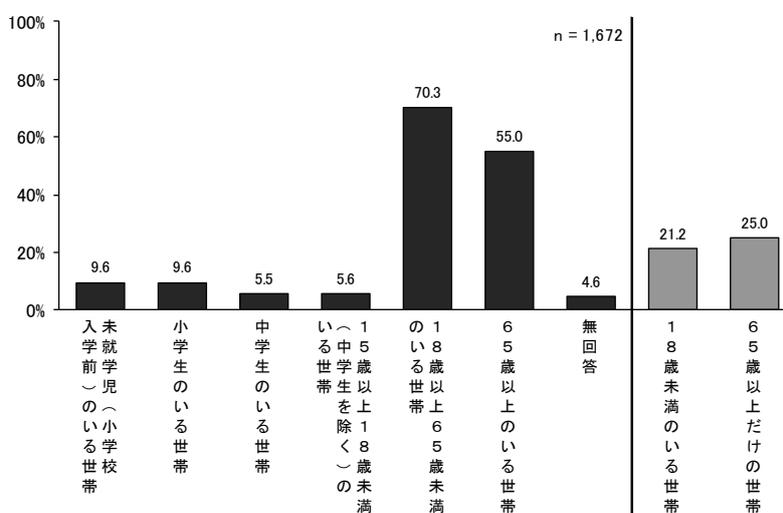
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

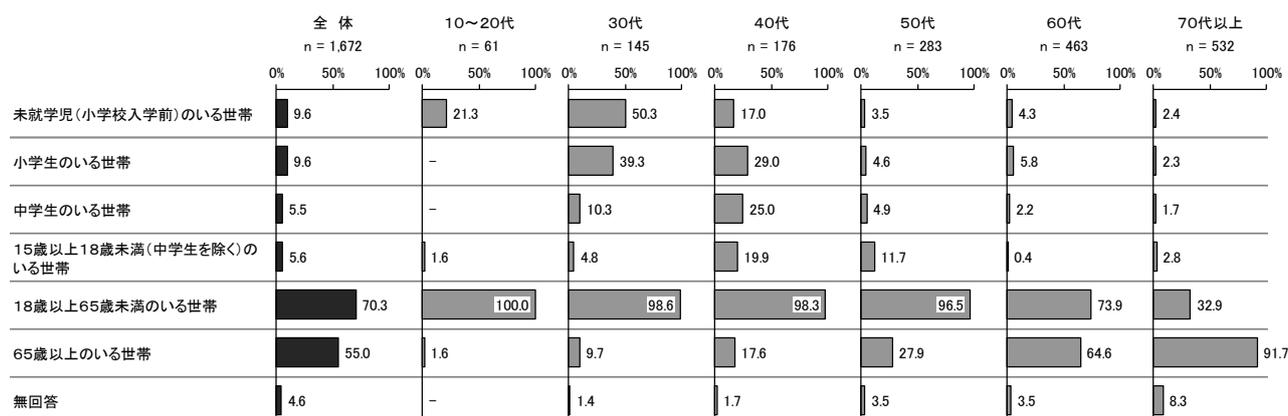
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が70.3%、「65歳以上のいる世帯」が55.0%となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

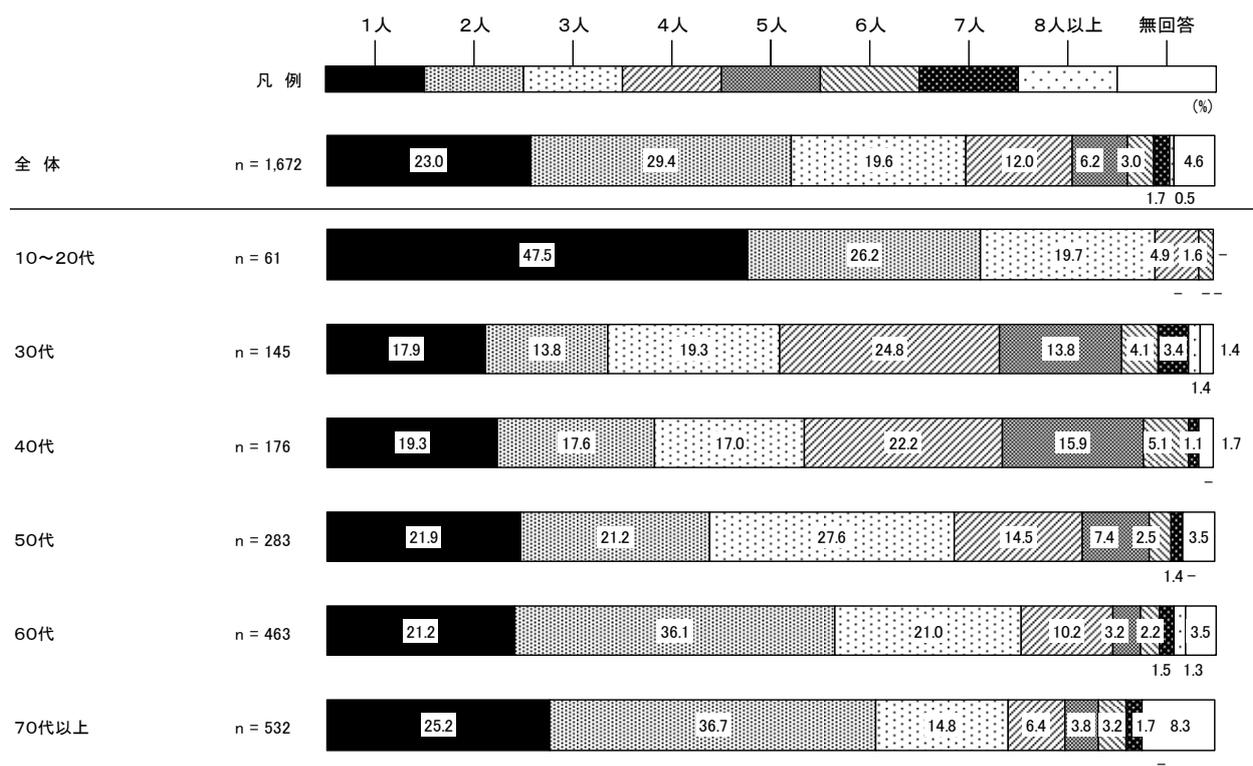


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が29.4%と最も高く、次いで「1人」が23.0%、「3人」が19.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は30代以降、年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、70代以上で36.7%と最も高くなっている。「1人」は10～20代で47.5%と半数弱を占める。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（年齢別）>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

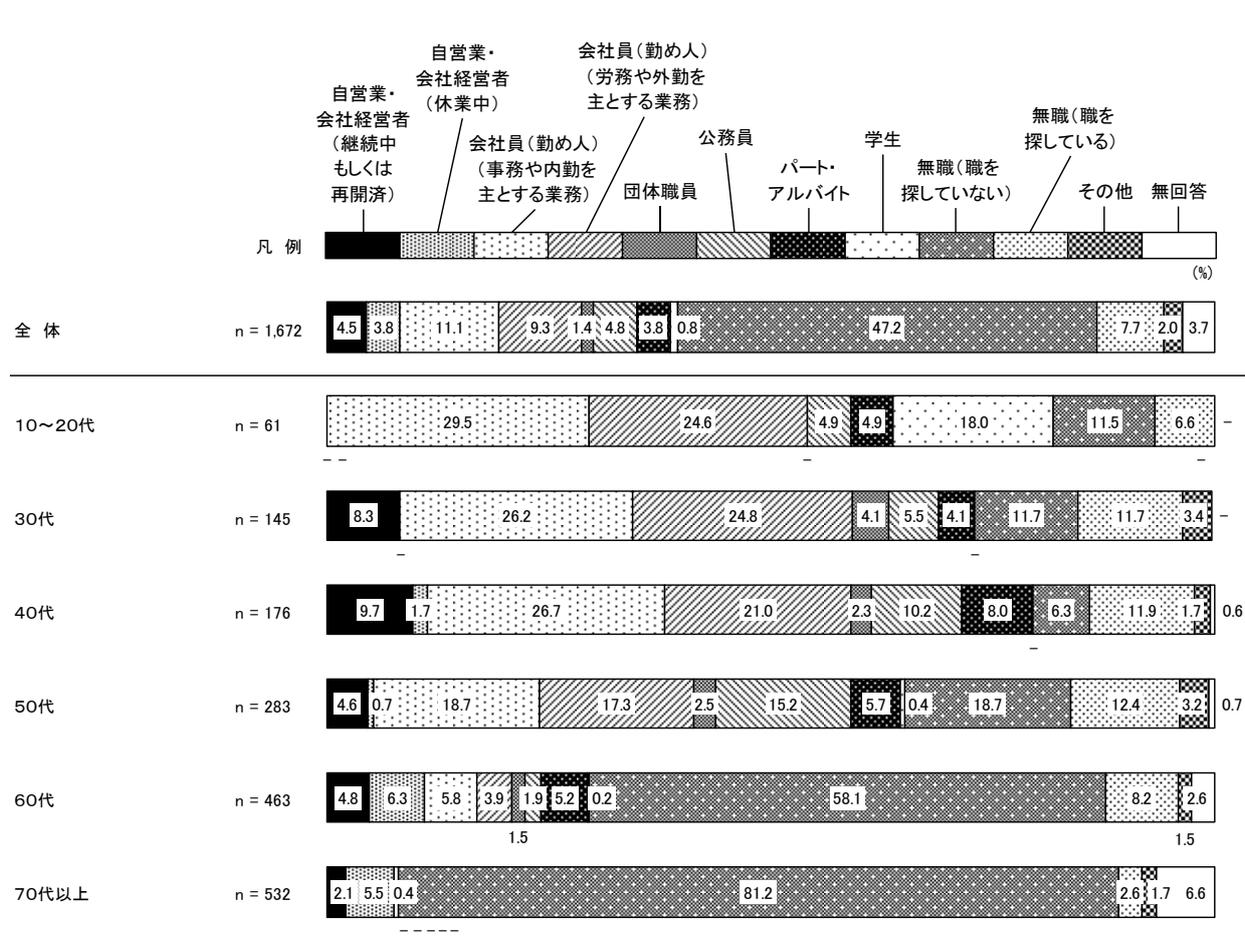
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職」（職を探していない・職を探している）以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が11.1%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が9.3%、「公務員」が4.8%となっている。

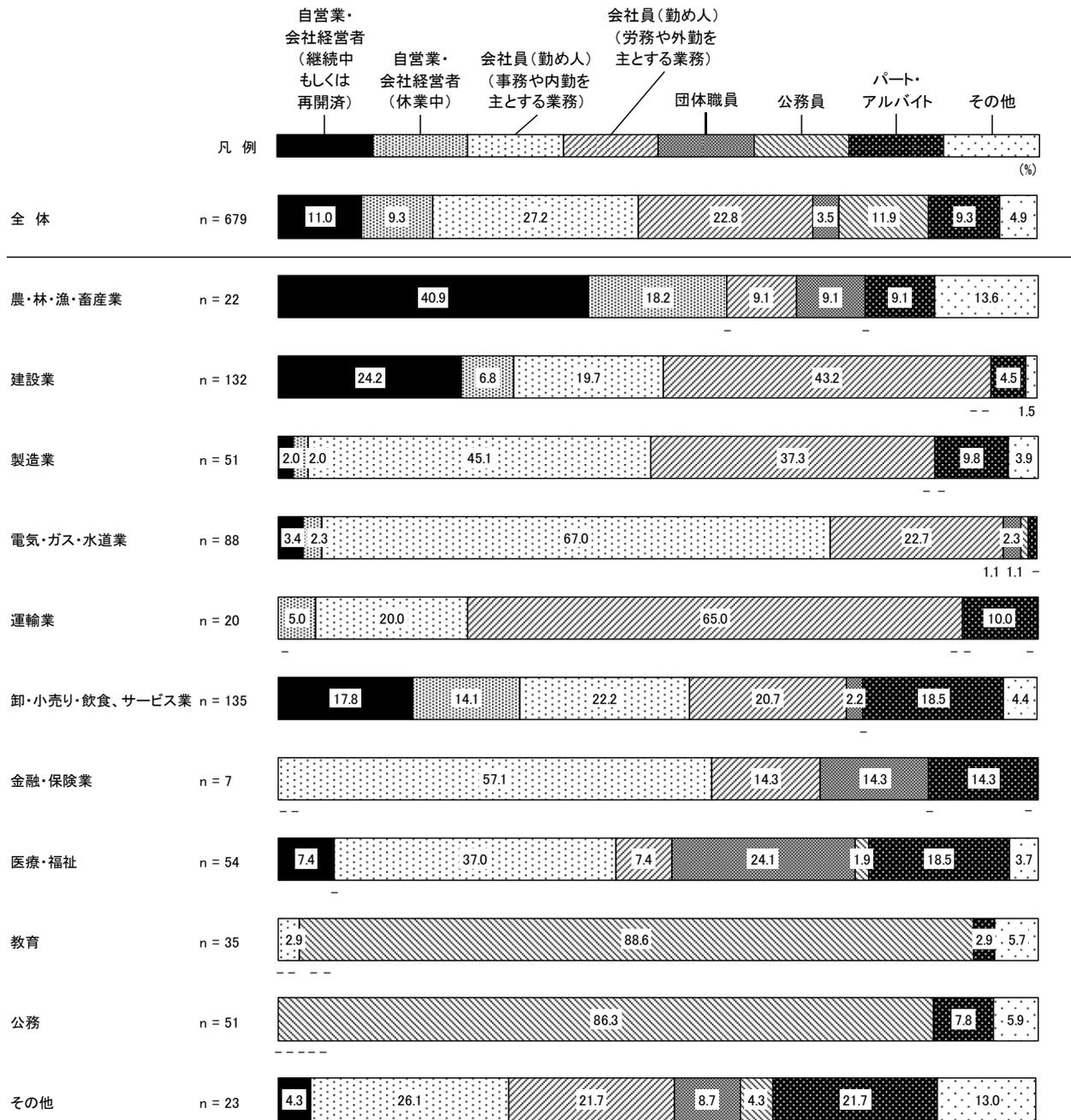
回答者の年齢別にみると、10～20代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が29.5%、30代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が26.2%、40代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が26.7%、50代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」、「無職（職を探していない）」がともに18.7%、60代で「無職（職を探していない）」が58.1%、70代以上で「無職（職を探していない）」が81.2%とそれぞれの年代で最も割合が高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が43.2%と最も高い。また「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済み）」は24.2%と他の業種と比べ高くなっている。卸・小売り・飲食、サービス業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が22.2%と最も高いが、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（20.7%）、「パート・アルバイト」（18.5%）、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済み）」（17.8%）も2割前後を占める。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

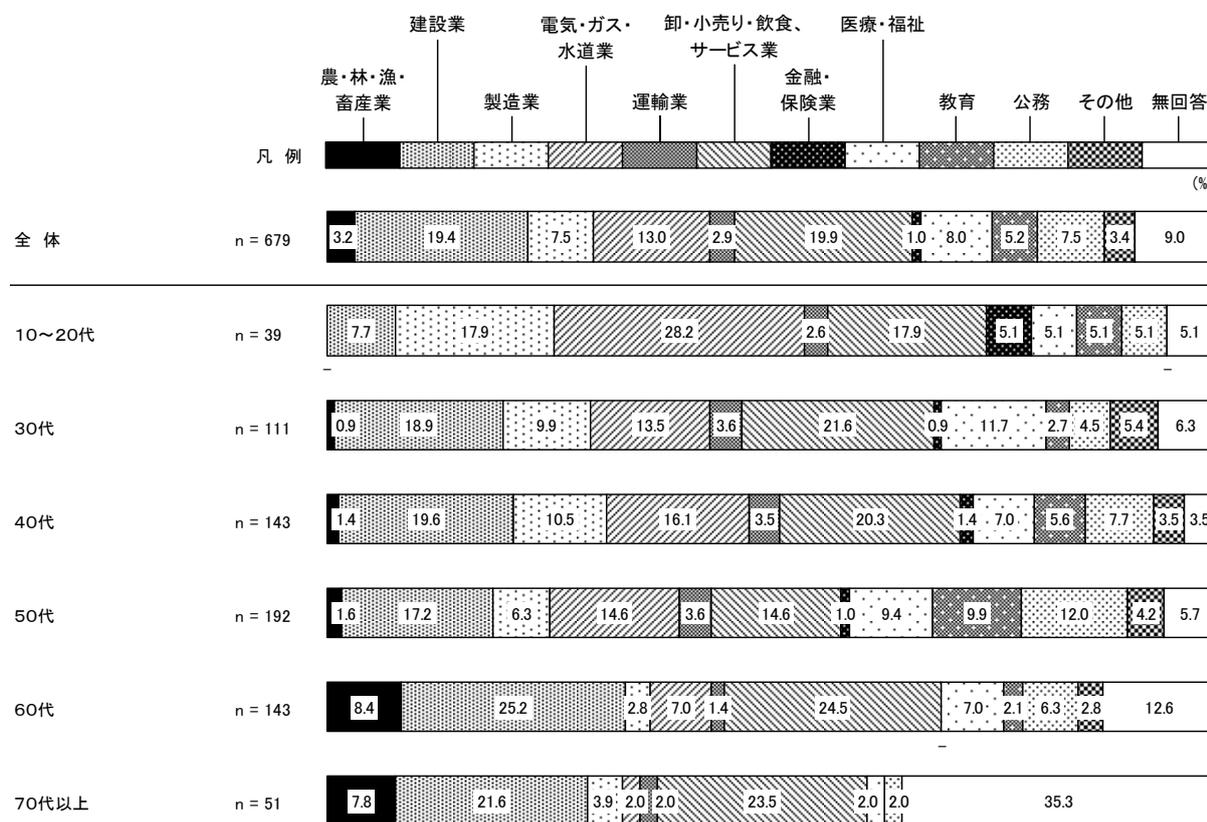
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「卸・小売り・飲食、サービス業」が19.9%と最も高く、次いで「建設業」が19.4%、「電気・ガス・水道業」が13.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「卸・小売り・飲食、サービス業」は60代が24.5%、70代以上が23.5%、「建設業」は60代が25.2%、「電気・ガス・水道業」は10~20代が28.2%、「製造業」は10~20代が17.9%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



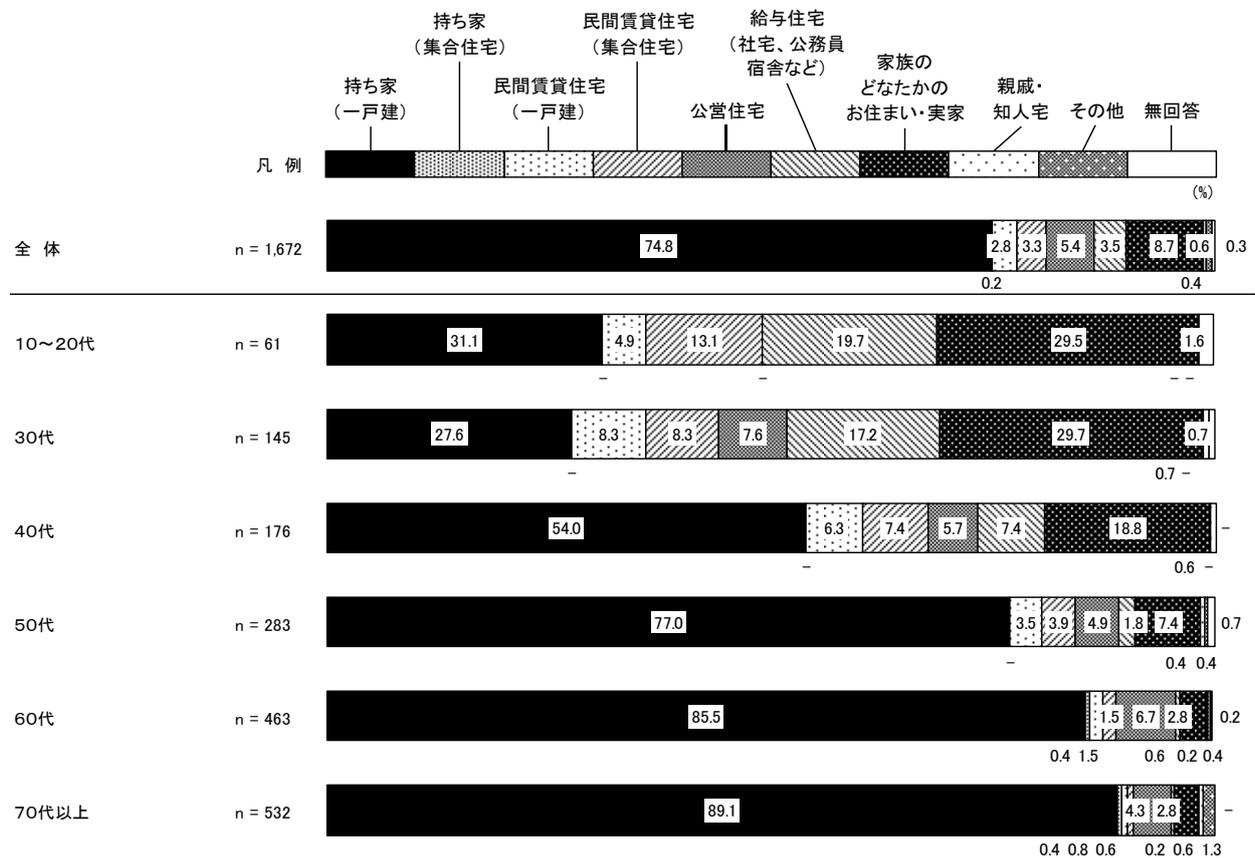
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が74.8%と最も高く、「持ち家（集合住宅）」(0.2%)を合わせた<持ち家>は75.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、50代(77.0%)、60代(85.5%)、70代以上(89.1%)では8割前後、40代(54.0%)も半数以上を占めるが、10~20代(31.1%)、30代(27.6%)では3割前後となっており、40代以上と比べ「持ち家（一戸建）」の割合が大きく下回る。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代(29.5%)、30代(29.7%)、「給与住宅（社宅、公務員宿舎など）」は、10~20代(19.7%)、30代(17.2%)が40代以上と比べ高くなっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



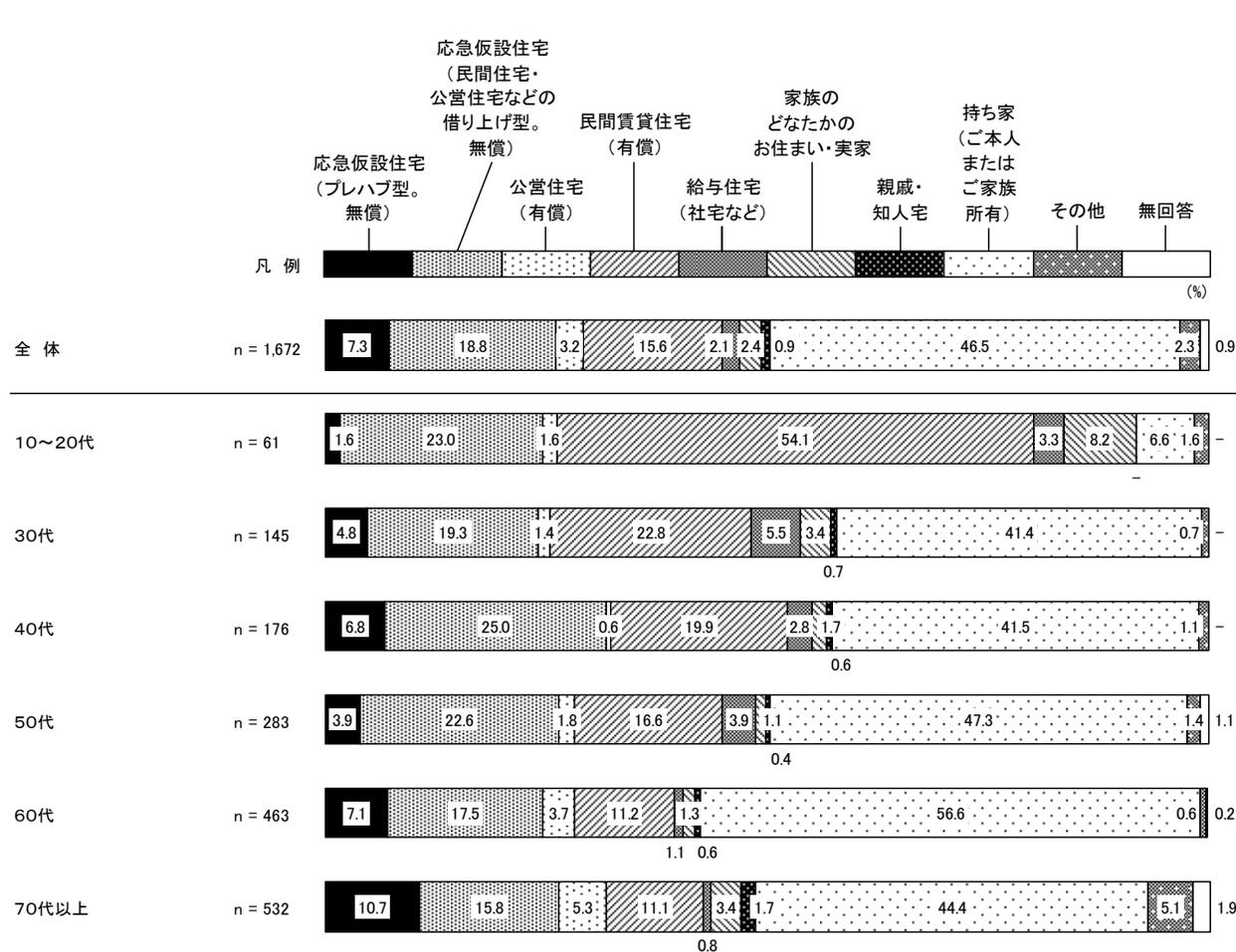
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が46.5%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が18.8%、「民間賃貸住宅（有償）」が15.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、30代以上では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が最も高くなっているが、10～20代では「民間賃貸住宅（有償）」が最も高くなっている。

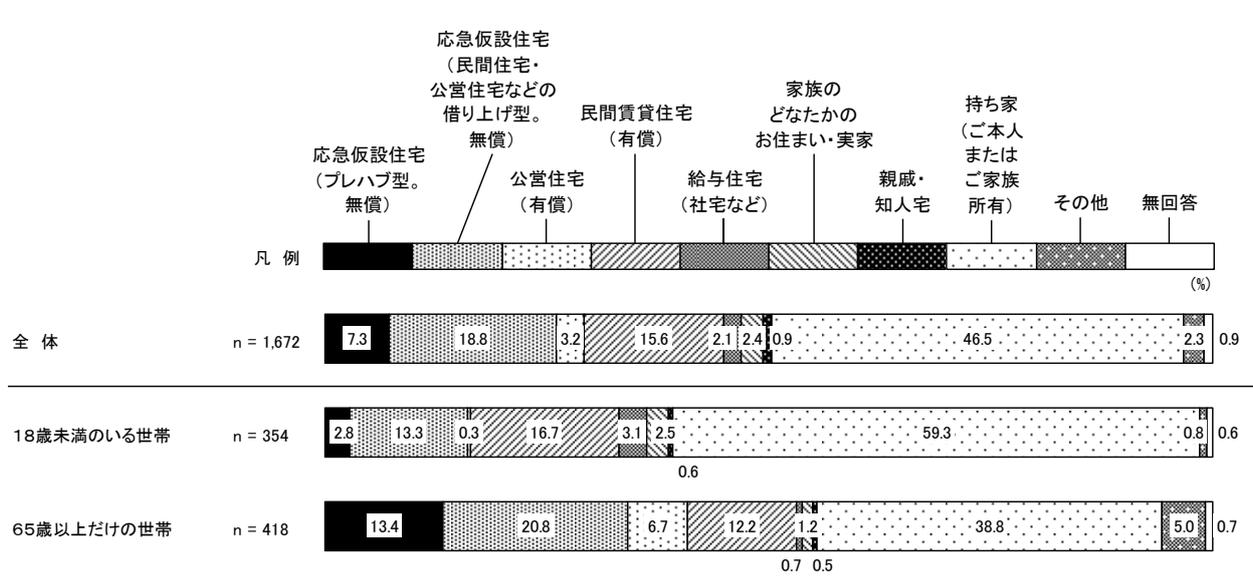
<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



III 調査結果

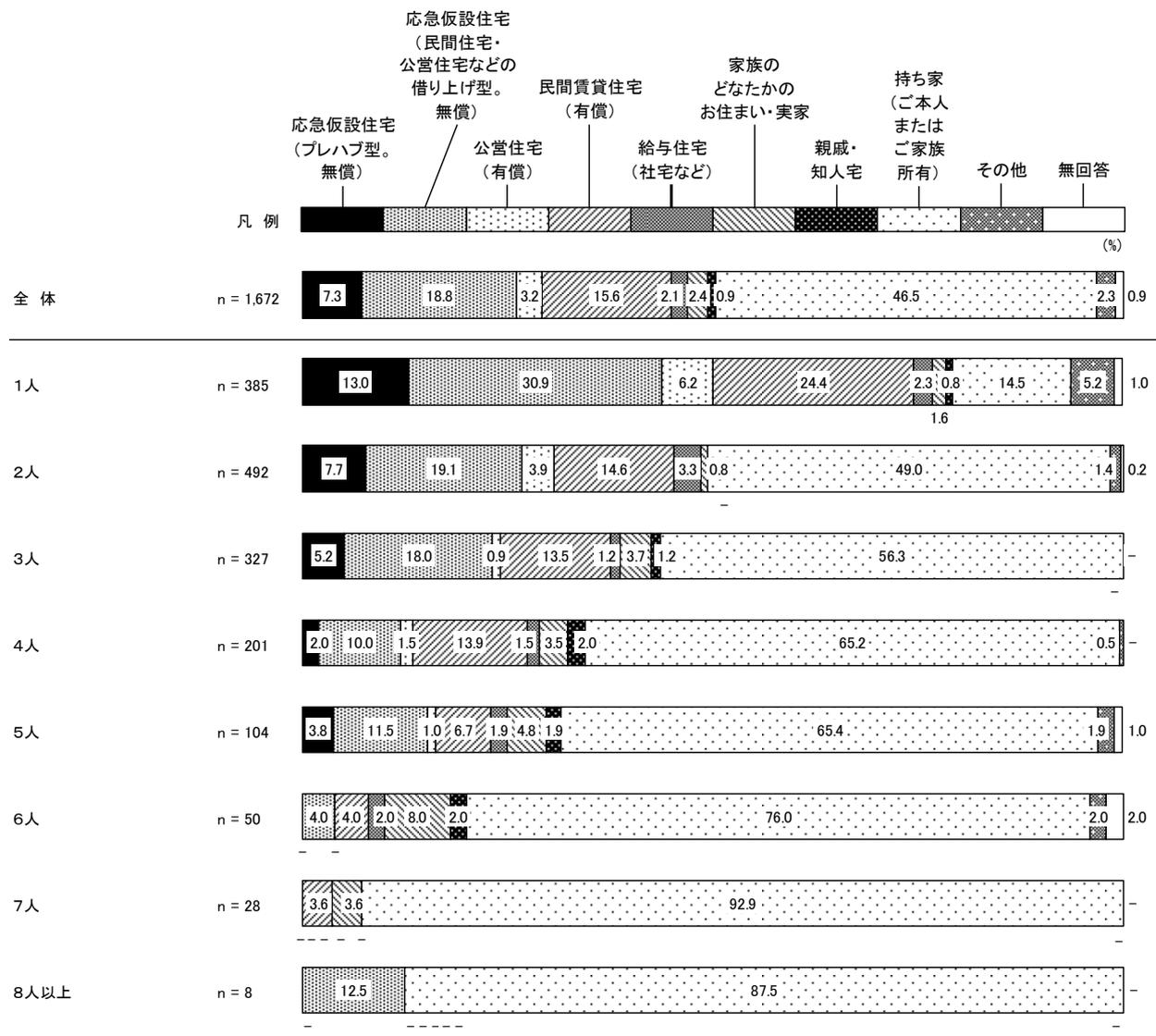
世帯構成別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯が59.3%で、65歳以上だけの世帯（38.8%）と比べ高くなっている。一方「応急仮設住宅（（プレハブ型。無償）・（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、65歳以上だけの世帯が34.2%で、18歳未満のいる世帯（16.1%）と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



世帯人数別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、概ね人数が多くなるにつれ占める割合が高くなっている。

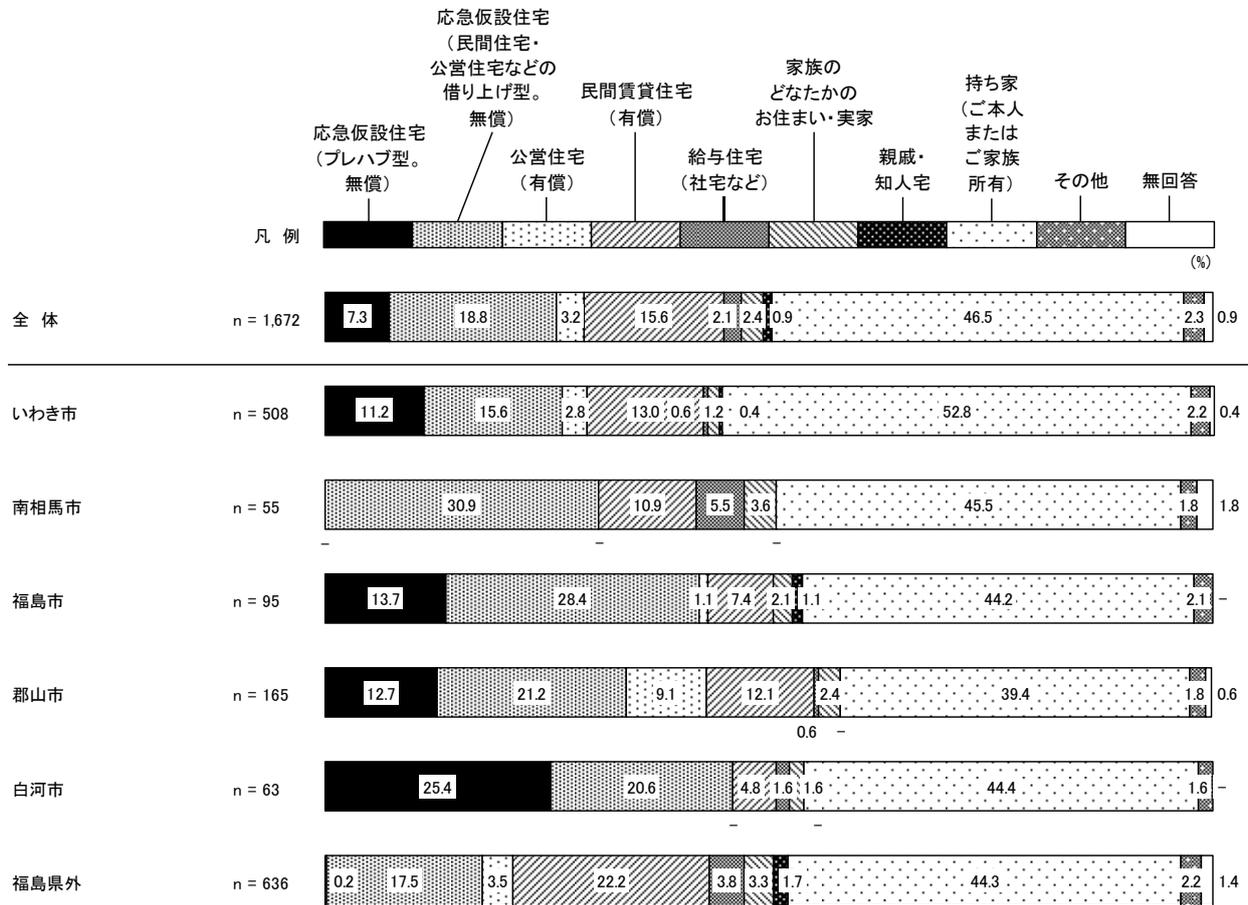
<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、南相馬市（30.9%）、福島市（28.4%）が、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、いわき市（52.8%）が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

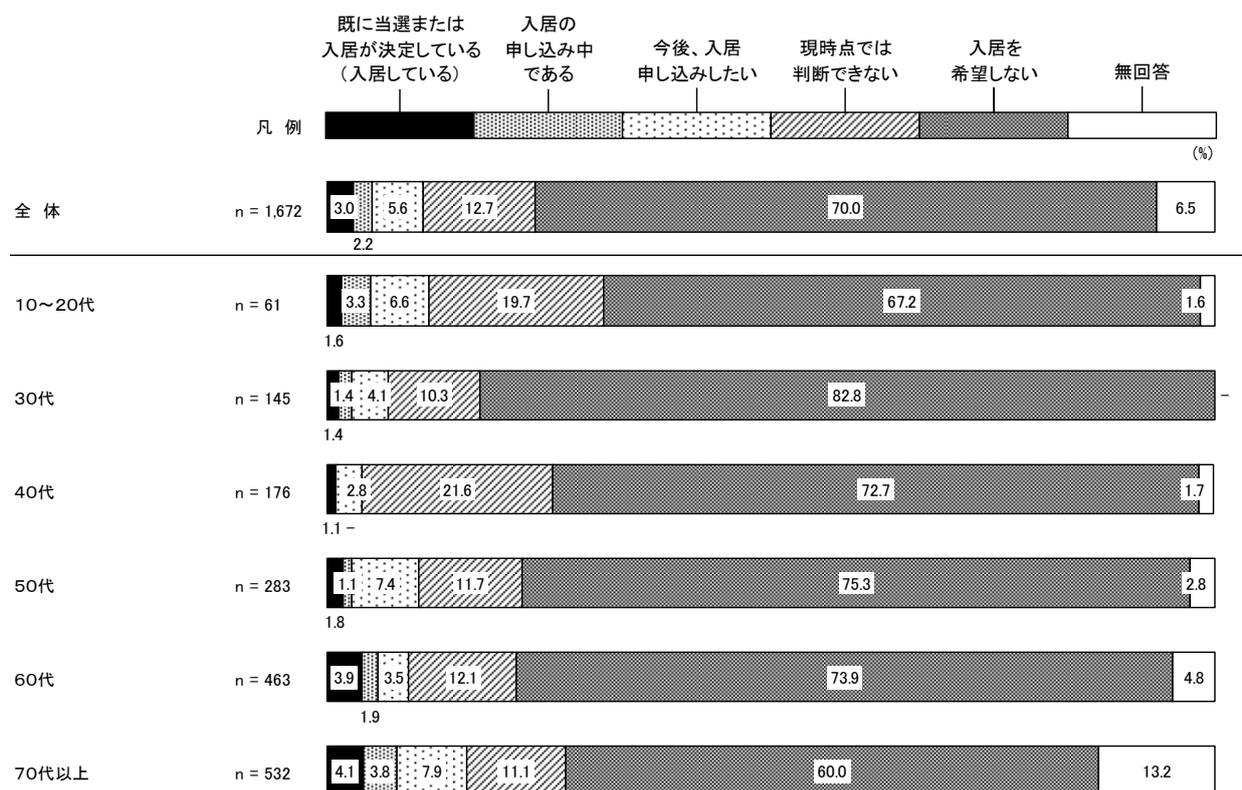
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問8 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居意向については、「入居を希望しない」が70.0%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が12.7%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している（入居している）」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居申し込みしたい」）が10.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している（入居している）」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居申し込みしたい」）は、70代以上が15.8%と他の年齢と比べ高くなっている。一方、「入居を希望しない」は、30代(82.8%)は8割以上、40代(72.7%)、50代(75.3%)、60代(73.9%)も7割以上を占め、10~20代(67.2%)、70代以上(60.0%)と比べ高くなっている。

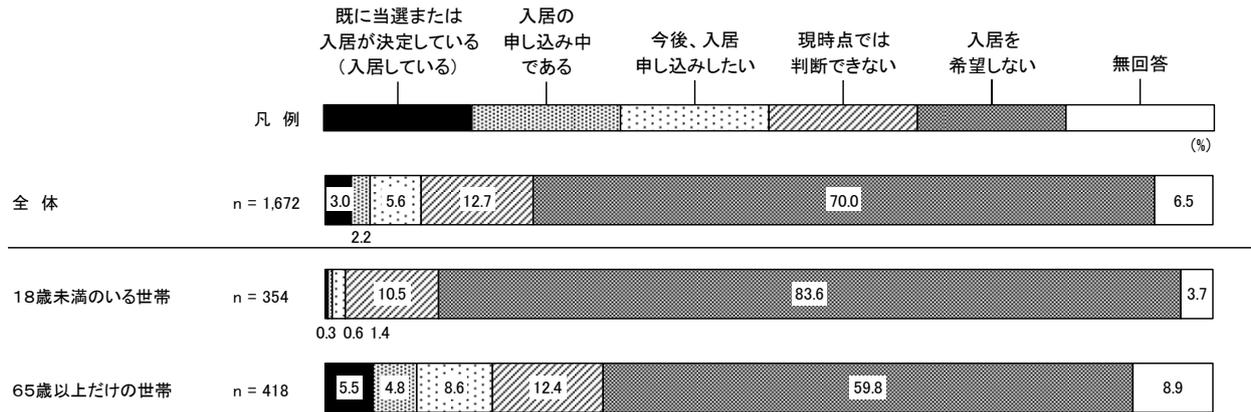
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



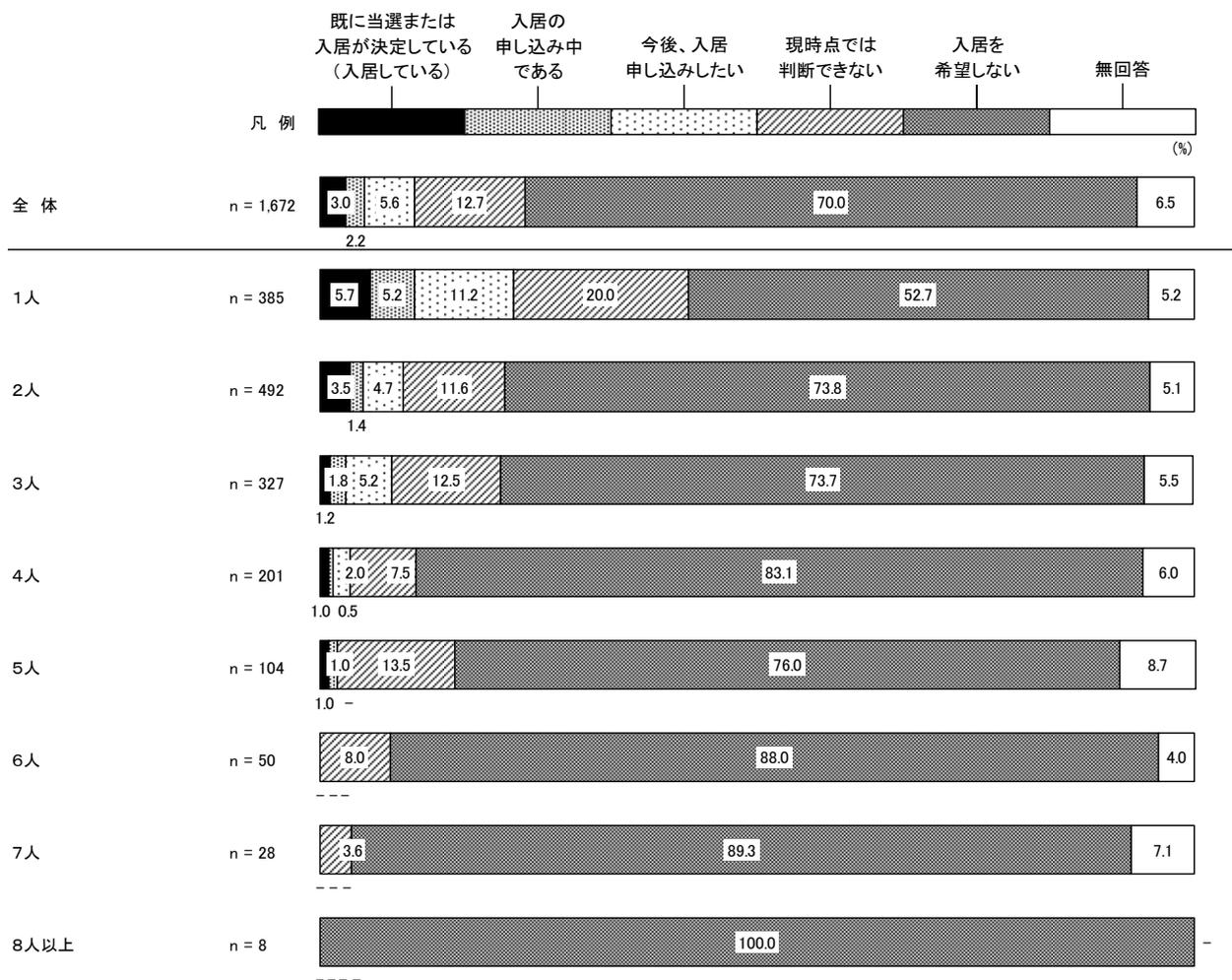
世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は18歳未満のいる世帯が83.6%で、65歳以上だけの世帯(59.8%)と比べ高くなっている。一方、入居意向のある世帯(「既に当選または入居が決定している(入居している)」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居申し込みしたい」)は65歳以上だけの世帯が18.9%で、18歳未満のいる世帯(2.3%)と比べ高くなっている。

世帯人数別にみると、「入居を希望しない」はいずれの世帯人数でも過半数となっており、6人以上では概ね9割以上を占める。入居意向のある世帯は、1人が22.1%と最も高く、世帯人数が多くなるにつれ占める割合が低くなっている。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向(世帯構成別)>

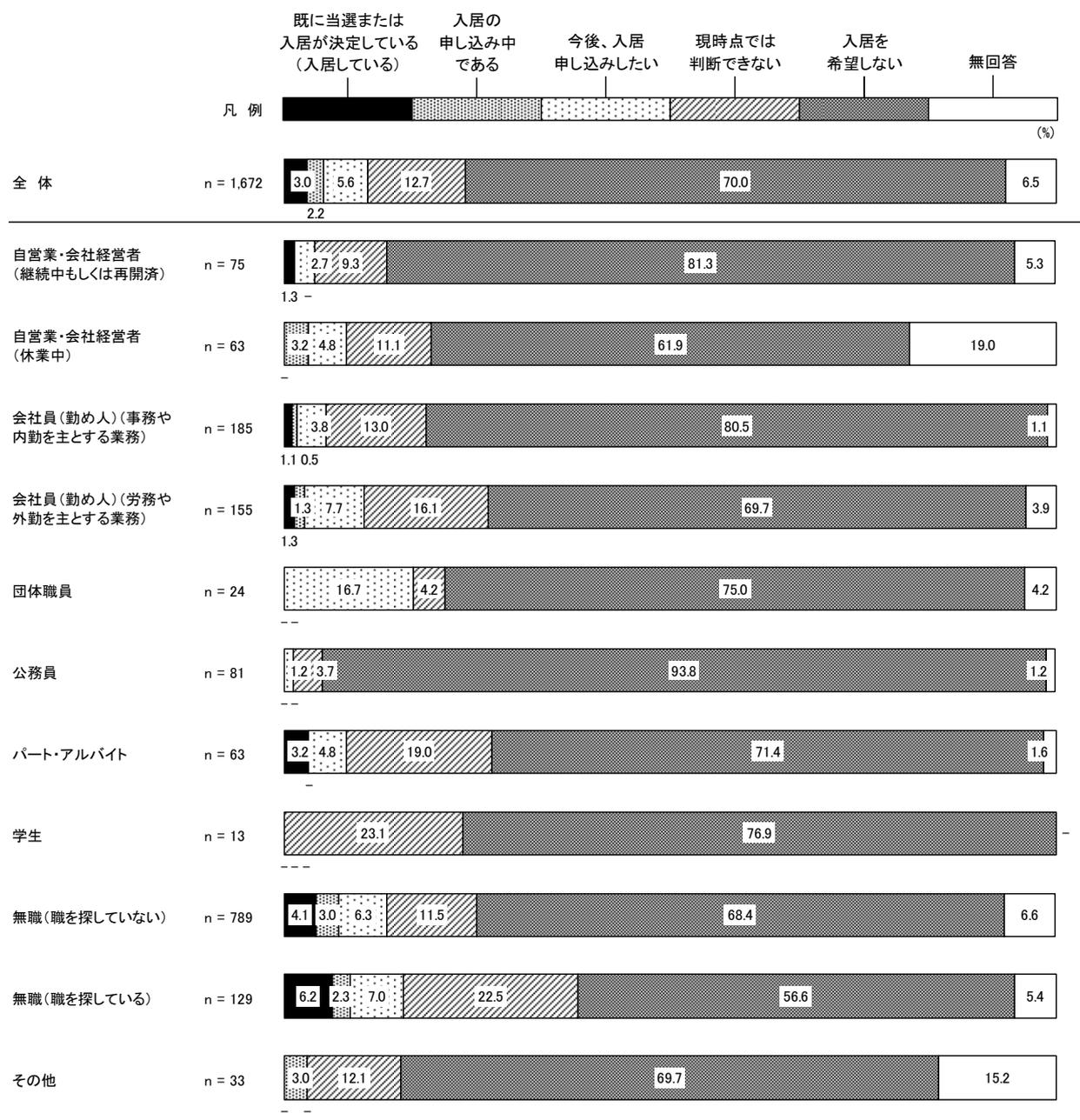


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向(世帯人数別)>



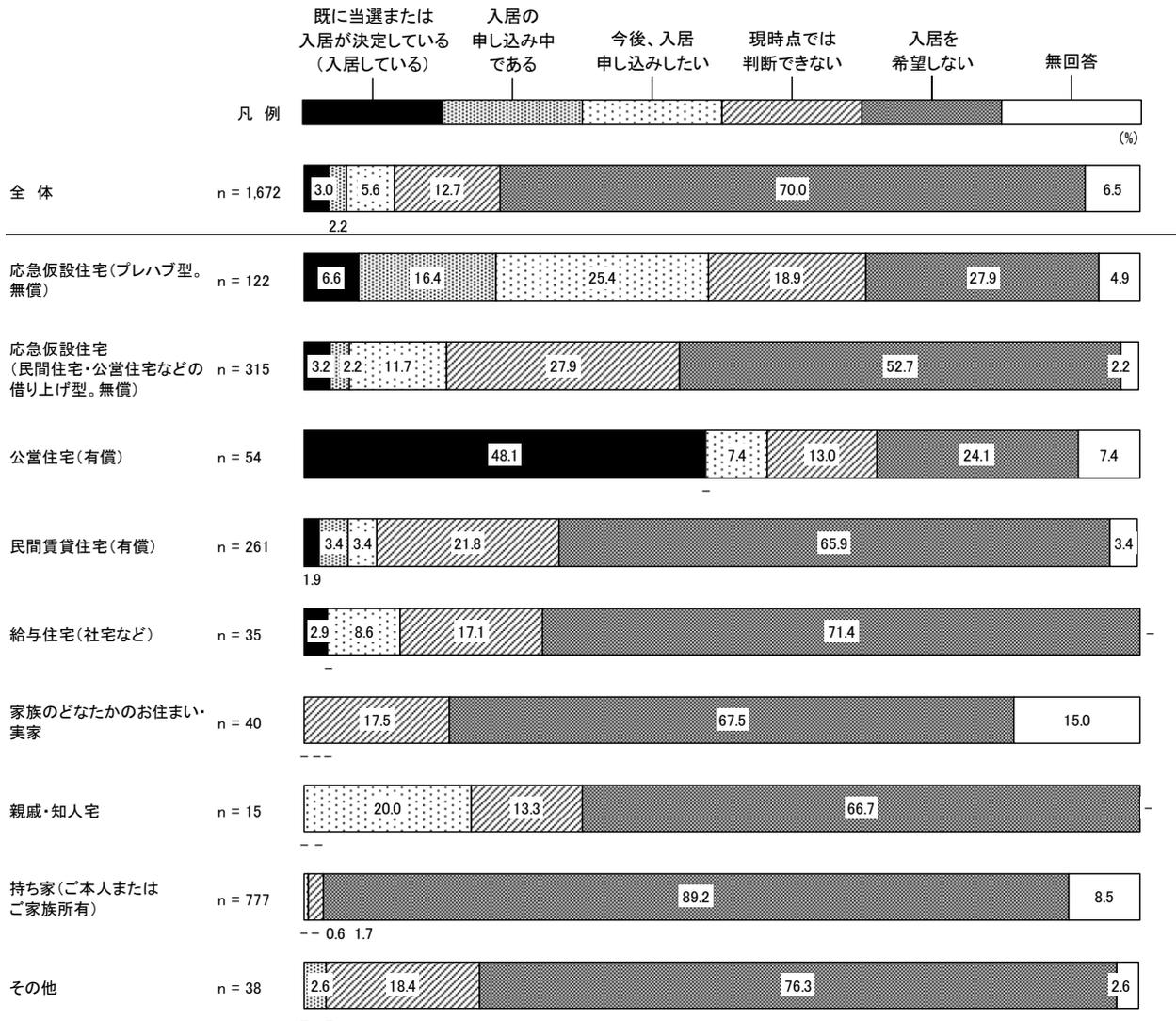
職業別にみると、入居意向のある世帯は、無職（職を探している）（15.5%）、無職（職を探していない）（13.4%）が他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（職業別）>



現在の住居形態別にみると、「入居を希望しない」は、持ち家（ご本人またはご家族所有）（89.2%）が他の住居形態と比べ高くなっている。入居意向のある世帯は、公営住宅（有償）（55.5%）、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）（48.4%）が他の住居形態と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

(1) 復興公営住宅への入居を希望する自治体

【復興公営住宅へ「既に当選または入居が決定している（入居している）」方、「入居の申し込み中である」方、「今後、入居申し込みしたい」方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-1 入居が決定している（入居している）、入居の申し込み中または入居を希望する復興公営住宅の地域（自治体名）、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む）は、＜2世帯目＞の列にもお答えください。

※現在ご一緒にお住まいのご家族について、ご記入ください。

＜1世帯目＞

(1) 自治体名を教えてください。

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜2世帯目＞

(1) 自治体名を教えてください。

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

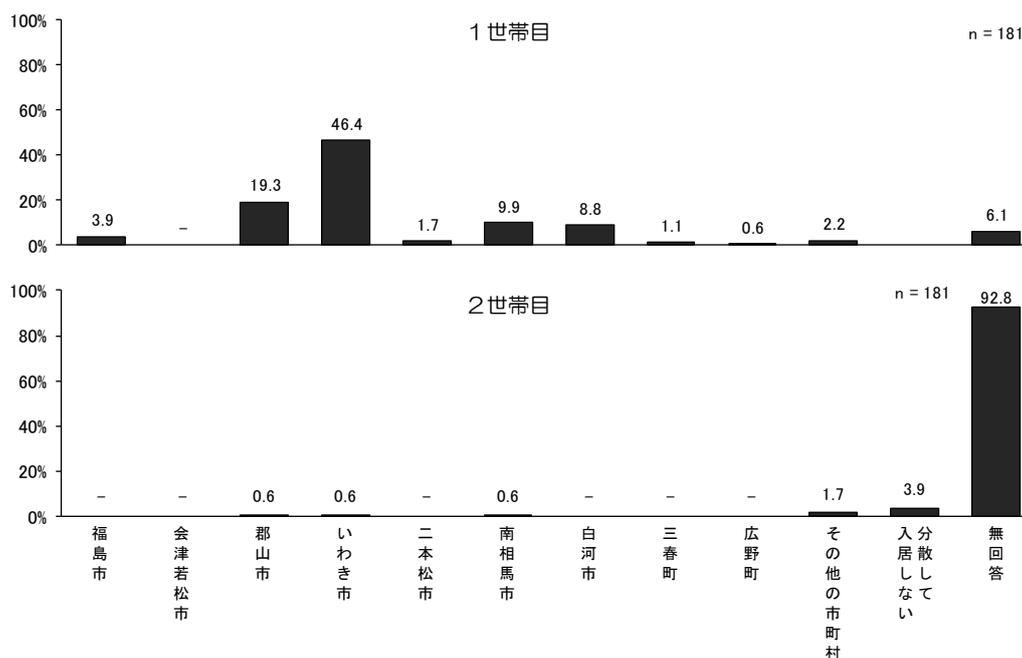
＜1世帯目＞の復興公営入居への入居を希望する自治体については、「いわき市」が46.4%と最も高く、次いで「郡山市」が19.3%、「南相馬市」が9.9%となっている。

入居を希望する世帯構成（1世帯目）については、「65歳以上のいる世帯」が59.1%で最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が44.8%、一方で18歳未満のいる世帯は全体的に低くなっている。

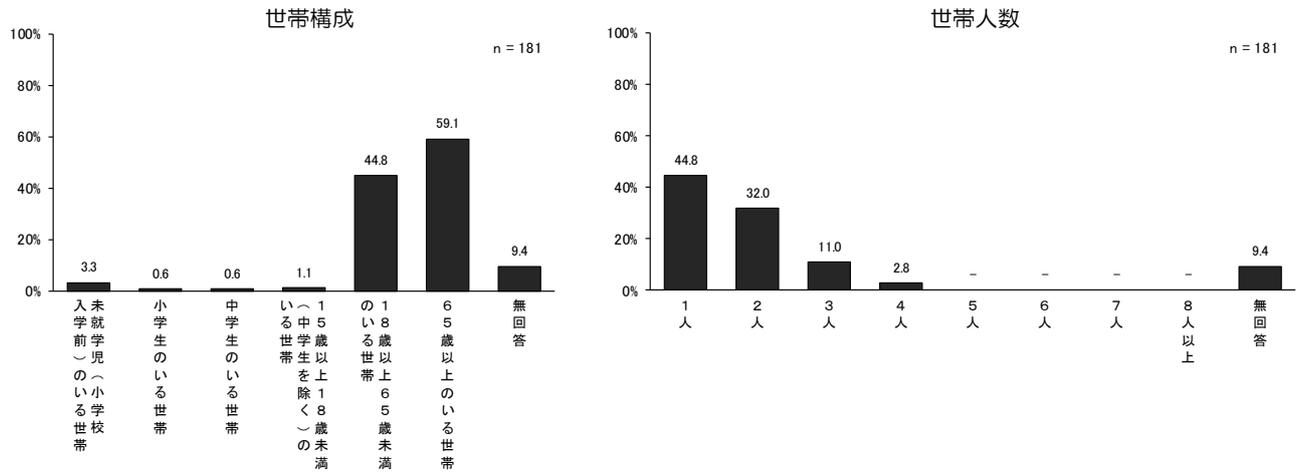
入居を希望する世帯人数（1世帯目）については、「1人」が44.8%で最も高く、次いで「2人」が32.0%、「3人」が11.0%となっている。

＜2世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「その他の市町村」が1.7%と最も高くなっている。

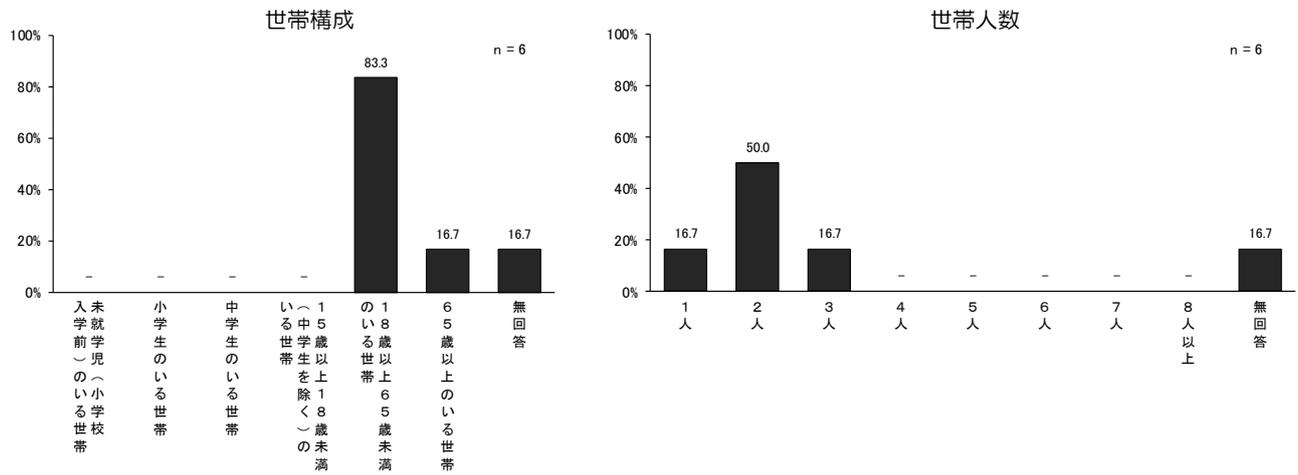
＜図表3-2-2-1 入居を希望する自治体＞



<図表3-2-2-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>



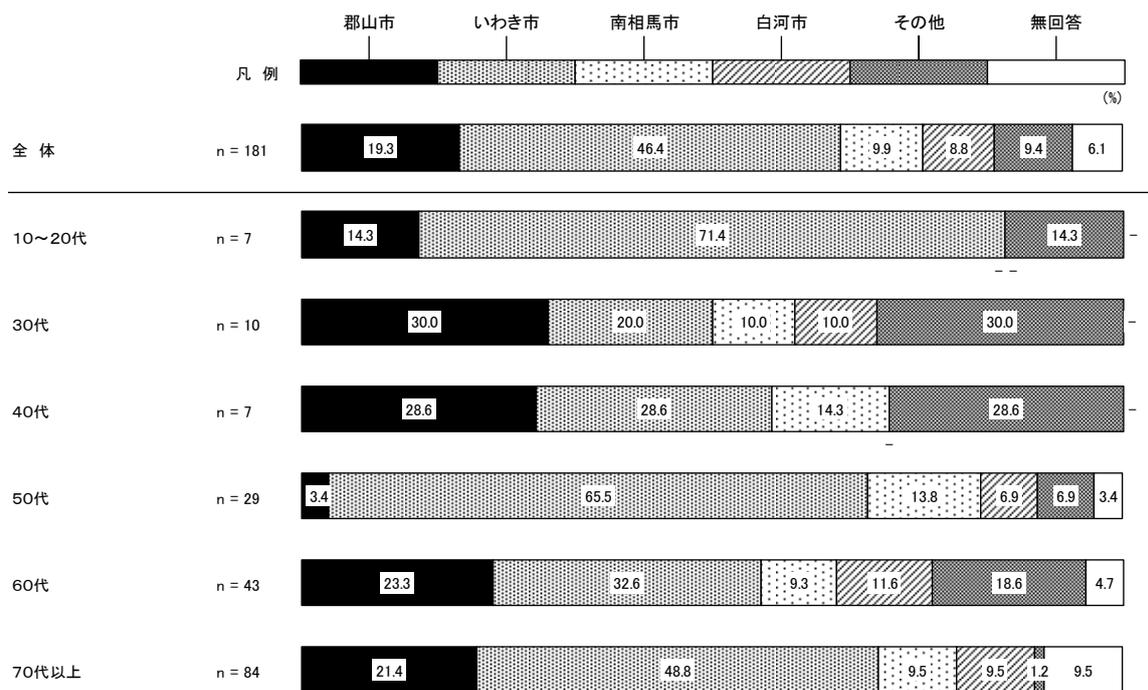
<図表3-2-2-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



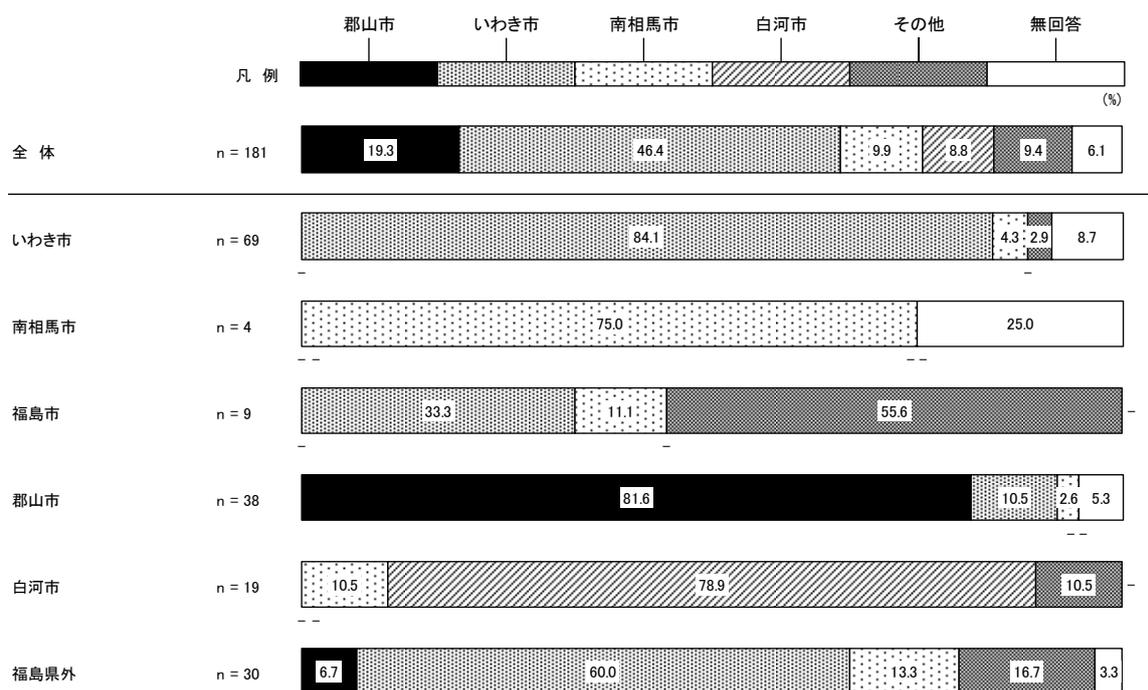
復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）について、回答者の年齢別にみると、「いわき市」は50～70代以上のいずれの年齢でも最も高くなっているが、「郡山市」は60～70代以上で50代と比べ高くなっている。

復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）について、主な避難先自治体別にみると、全ての自治体で避難先の自治体に入居を希望する割合が高いが、福島県外に避難している世帯では、「いわき市」が6割を占める。

＜図表3-2-2-4 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）＞



＜図表3-2-2-5 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）＞



(2) いわき市勿来酒井地区への申し込み意向

【問8-1(1) <1世帯目>あるいは<2世帯目>で「4. いわき市」と回答した方にうかがいます。】

問8-1(3) いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

※問8で「2. 入居の申し込み中である」方は、現在申し込み中の応募に当選せず、再度申し込みを行う場合を想定してお答えください。

<1世帯目>

(3) いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

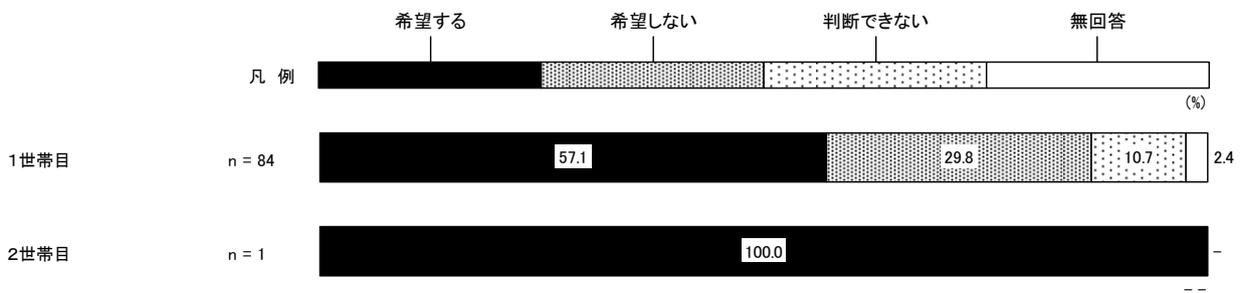
<2世帯目>

(3) いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

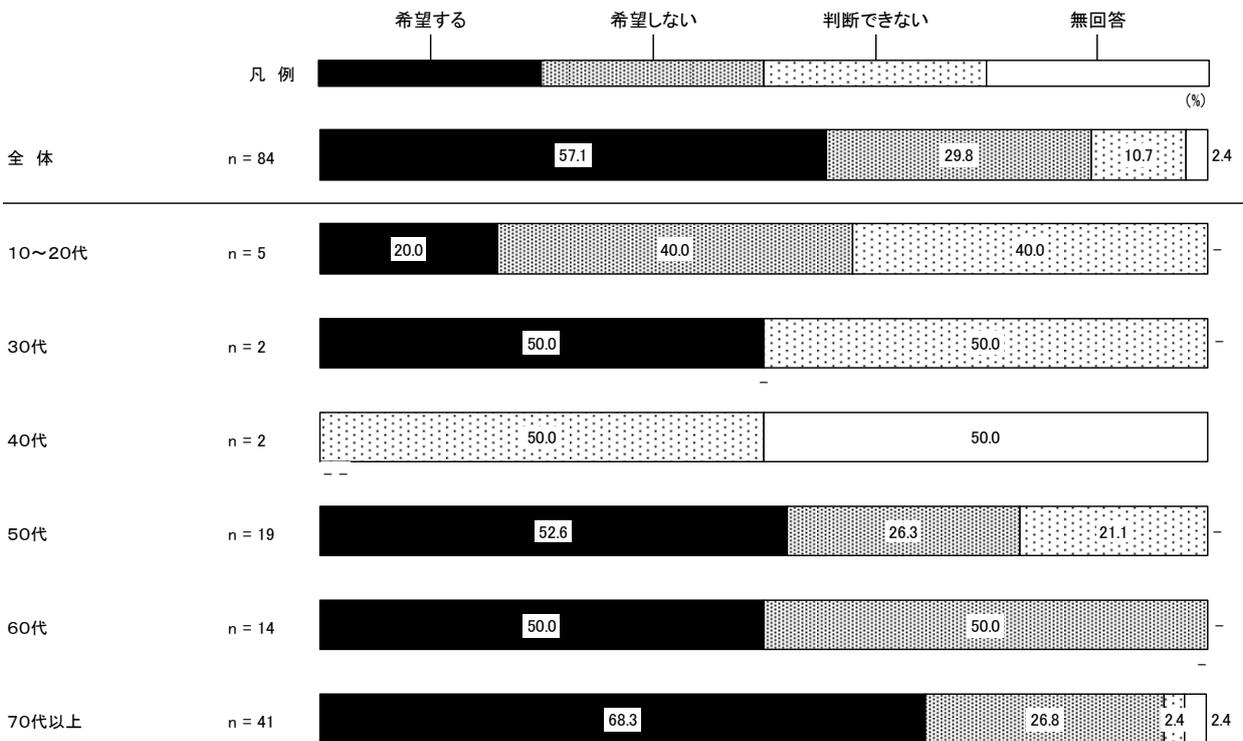
<1世帯目>のいわき市勿来酒井地区への申し込み意向については、「希望する」が57.1%（48世帯）で、「希望しない」が29.8%（25世帯）となっている。

年齢別にみると、70代以上では、「希望する」が68.3%、「希望しない」が26.8%となっている。

<図表3-2-2-6 いわき市勿来酒井地区への申し込み意向>

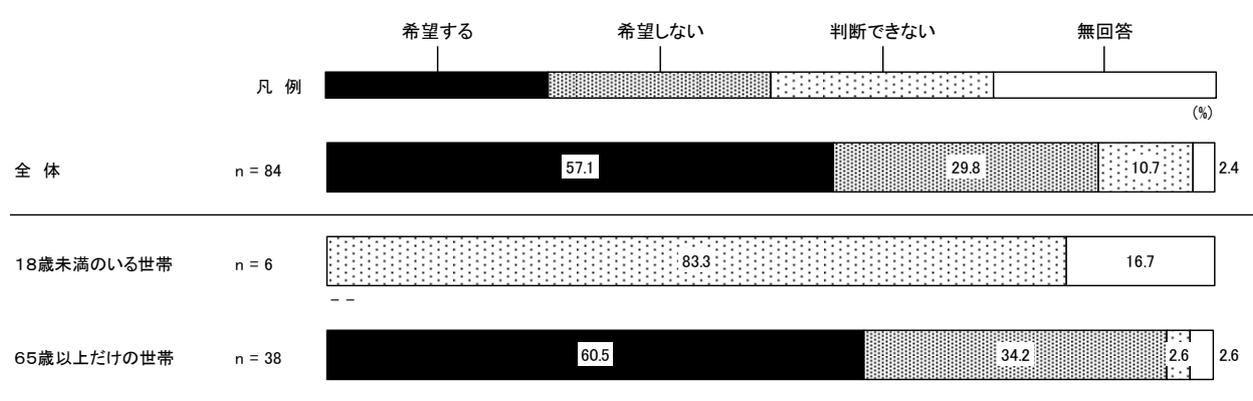


<図表3-2-2-7 いわき市勿来酒井地区への申し込み意向（1世帯目）（年齢別）>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では、「希望する」が60.5%、「希望しない」が34.2%となっている。

<図表3-2-2-8 いわき市勿来酒井地区への申し込み意向（1世帯目）（世帯構成別）>



3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス

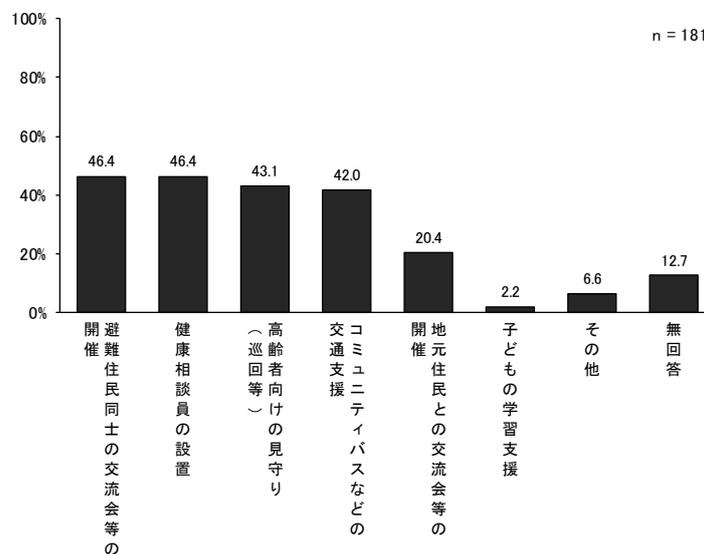
【復興公営住宅へ「既に当選または入居が決定している（入居している）」方、「入居の申し込み中である」方、「今後、入居申し込みしたい」方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-2 復興公営住宅へ入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか（〇は3つまで）。

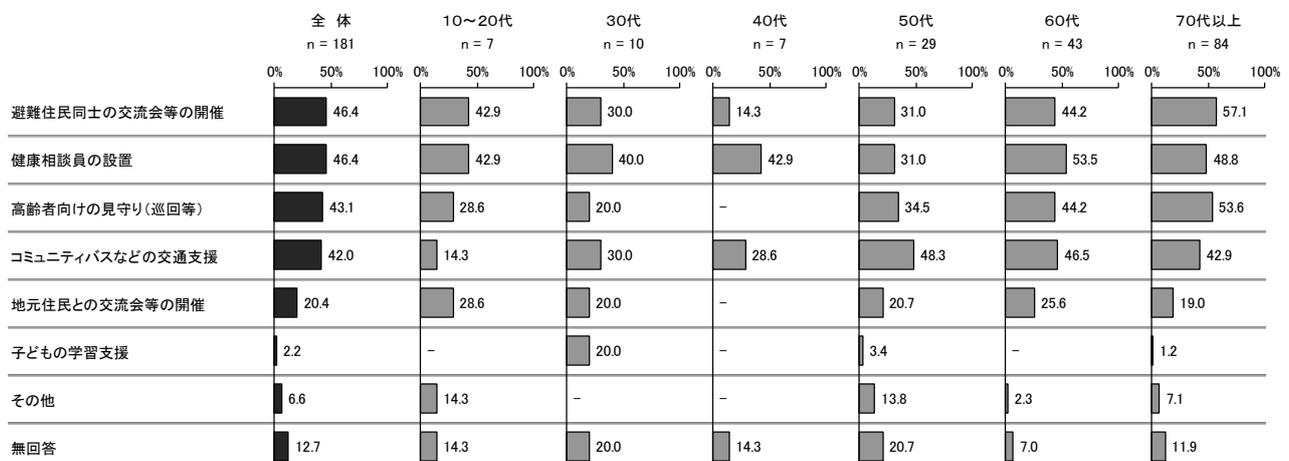
復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービスについては、「避難住民同士の交流会等の開催」、「健康相談員の設置」がともに46.4%と最も高く、次いで「高齢者向けの見守り（巡回等）」が43.1%、「コミュニティバスなどの交通支援」が42.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、70代以上では「避難住民同士の交流会等の開催」が57.1%、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が53.6%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス>



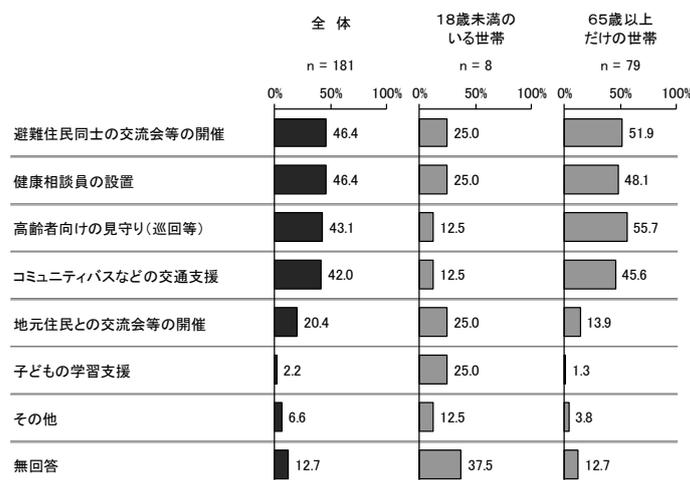
<図表3-2-3-2 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（年齢別）>



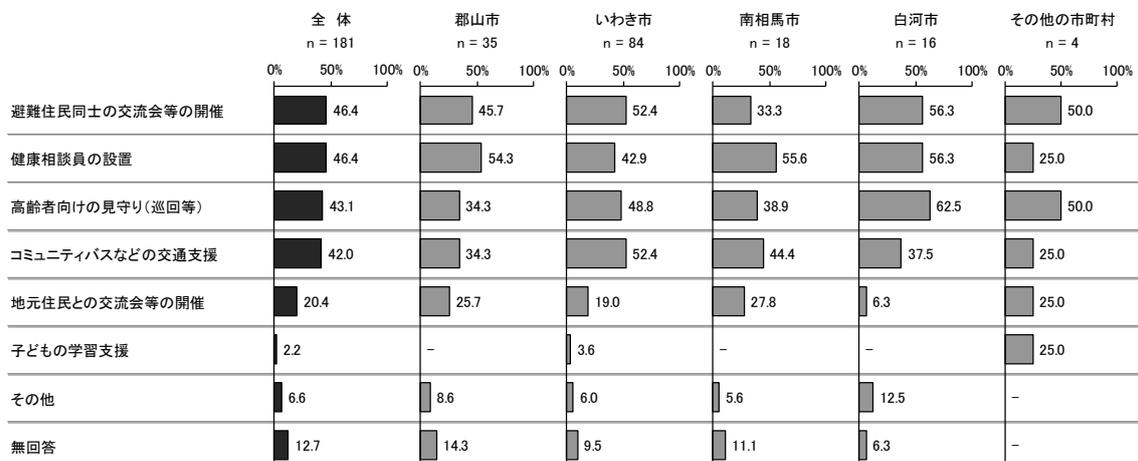
世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「高齢者向けの見守り（巡回等）」が55.7%、「避難住民同士の交流会等の開催」が51.9%と半数以上となっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、いわき市では「避難住民同士の交流会等の開催」（52.4%）、「コミュニティバスなどの交通支援」（52.4%）、郡山市では「健康相談員の設置」（54.3%）が最も高くなっている。

＜図表3-2-3-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（世帯構成別）＞



＜図表3-2-3-4 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（入居を希望する主な自治体別）＞



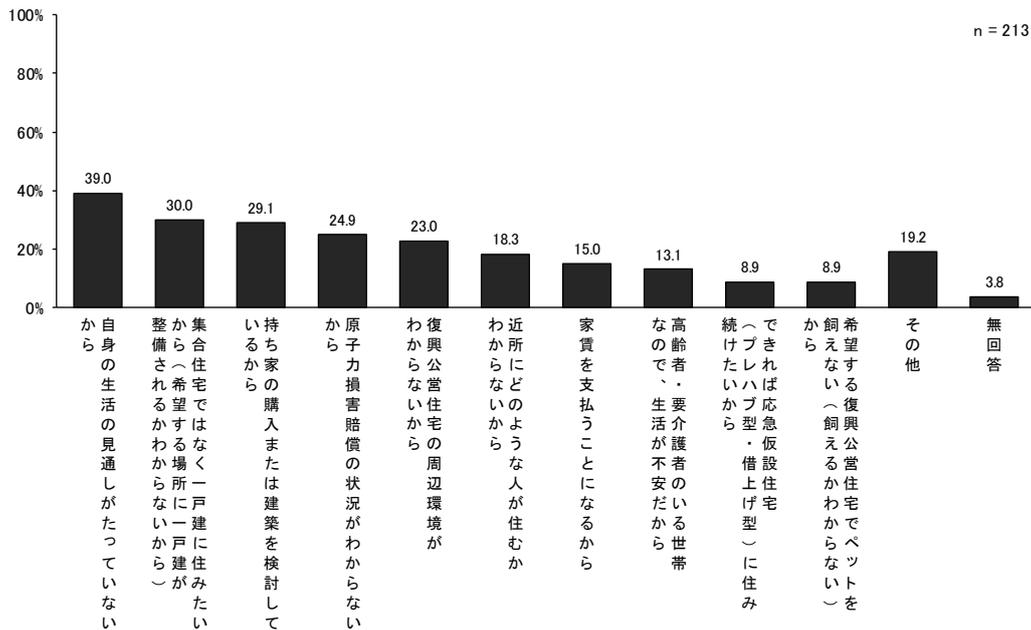
3-2-4 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由

【問8で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問8-3 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由については、「自身の生活の見通しがたっていないから」が39.0%と最も高く、次いで「集合住宅ではなく一戸建に住みたいから（希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから）」が30.0%、「持ち家の購入または建築を検討しているから」が29.1%となっている。

＜図表3-2-4-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由＞



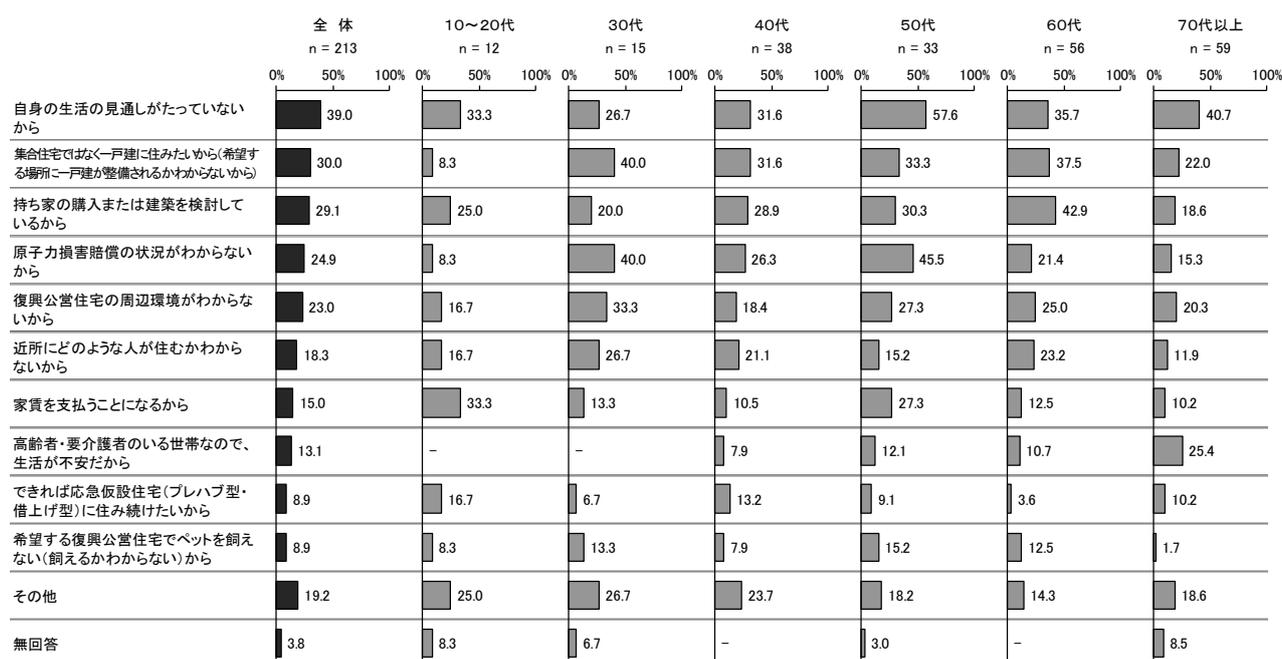
「その他」の主な内容は、以下のとおり。

- ・私自身はもう生活基盤が出来てしまっているし、家族の意見も分からないから。(10~20代)
- ・現在の職場からどの程度の距離になるのかわからないから。(30代)
- ・子供の進学先が決まらないから。(40代)
- ・将来子供と同居する可能性があるから。(50代)
- ・妻が特定疾患になり、月1~2回大学病院へ通院しているから。(60代)
- ・総合病院、入所介護施設が近くにある所を探しているから。(70代以上)

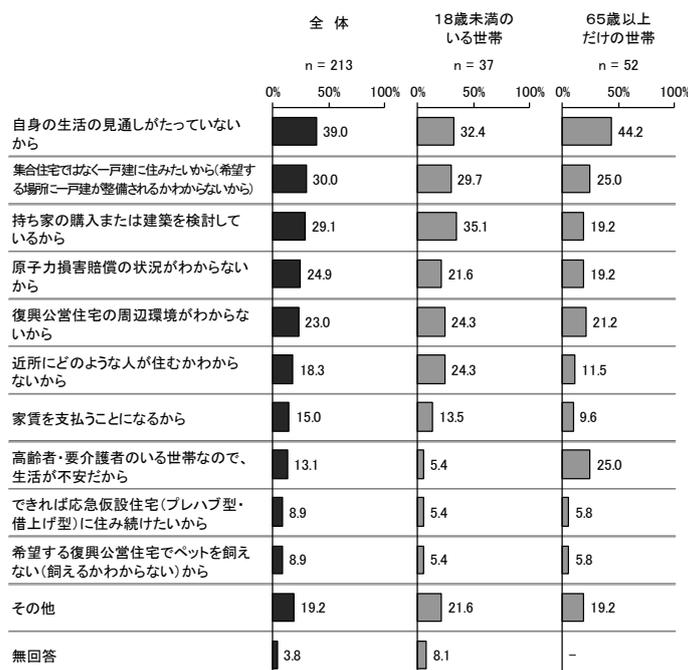
回答者の年齢別にみると、50代は「自身の生活の見通しがたっていないから」(57.6%)、60代は「持ち家の購入または建築を検討しているから」(42.9%)、70代以上は「高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから」(25.4%)が他の年齢と比べ高くなっている。

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「持ち家の購入または建築を検討しているから」(35.1%)、「自身の生活の見通しがたっていないから」(32.4%)、65歳以上だけの世帯では「自身の生活の見通しがたっていないから」(44.2%)、「集合住宅ではなく一戸建に住みたいから(希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから)」(25.0%)、「高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから」(25.0%)が高くなっている。

<図表3-2-4-2 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由(年齢別)>



<図表3-2-4-3 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由(世帯構成別)>



3-2-5 復興公営住宅への入居の判断時期

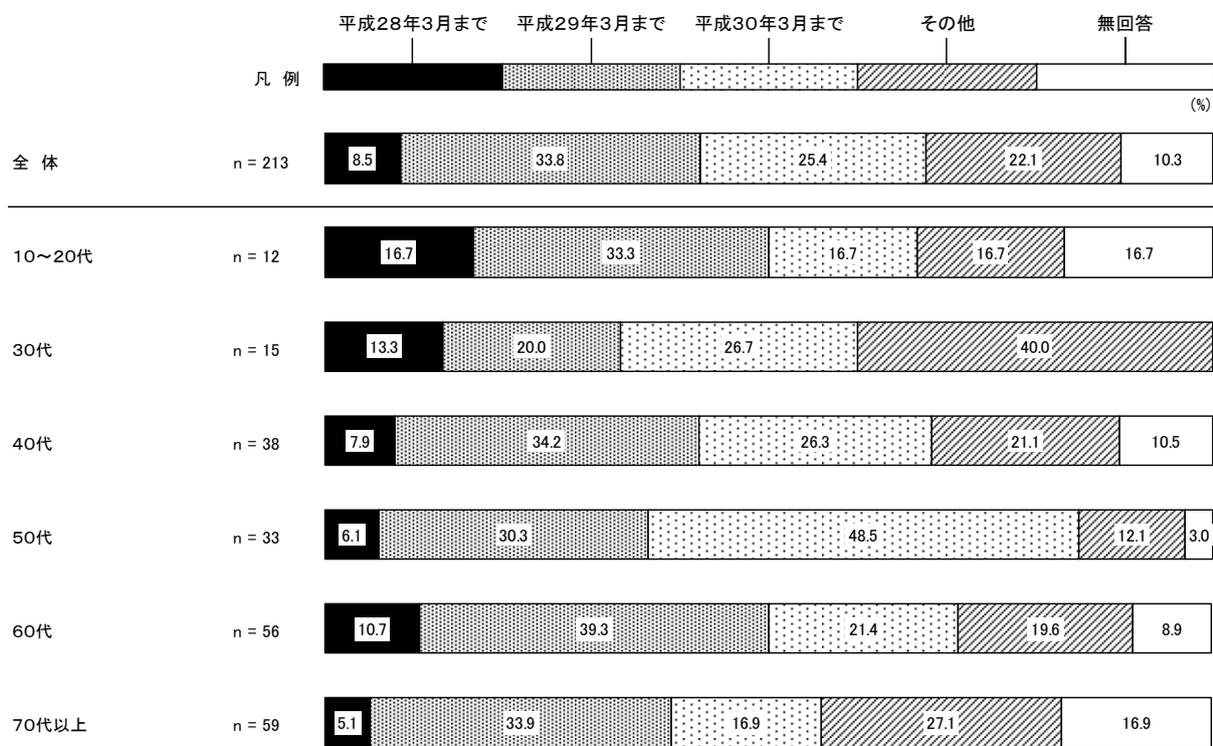
【問8で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問8-4 あなたは、いつ頃までには判断したいと考えていますか。(〇は1つ)

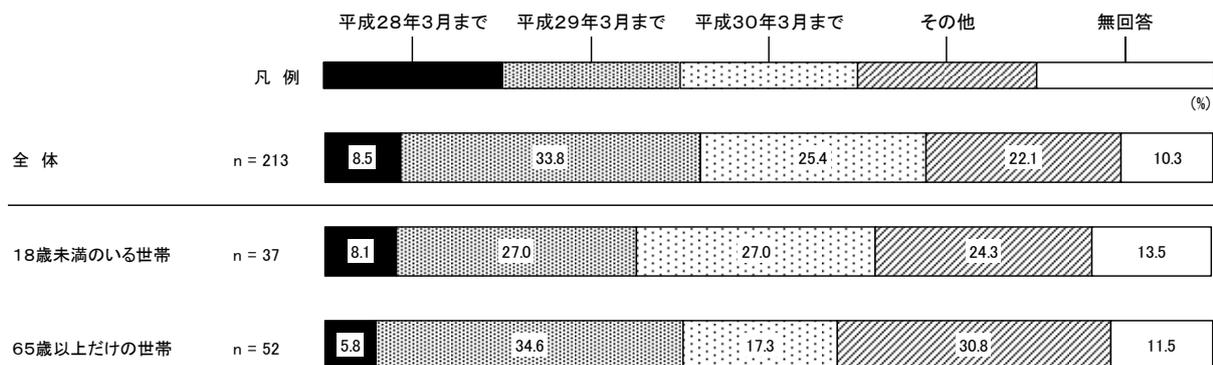
復興公営住宅への入居の判断時期については、「平成29年3月まで」が33.8%と最も高く、次いで「平成30年3月まで」が25.4%、「平成28年3月まで」が8.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、50代は「平成30年3月まで」が48.5%と他の年齢と比べ高くなっている。世帯構成別にみると、「平成29年3月まで」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-2-5-1 復興公営住宅への入居の判断時期（年齢別）>

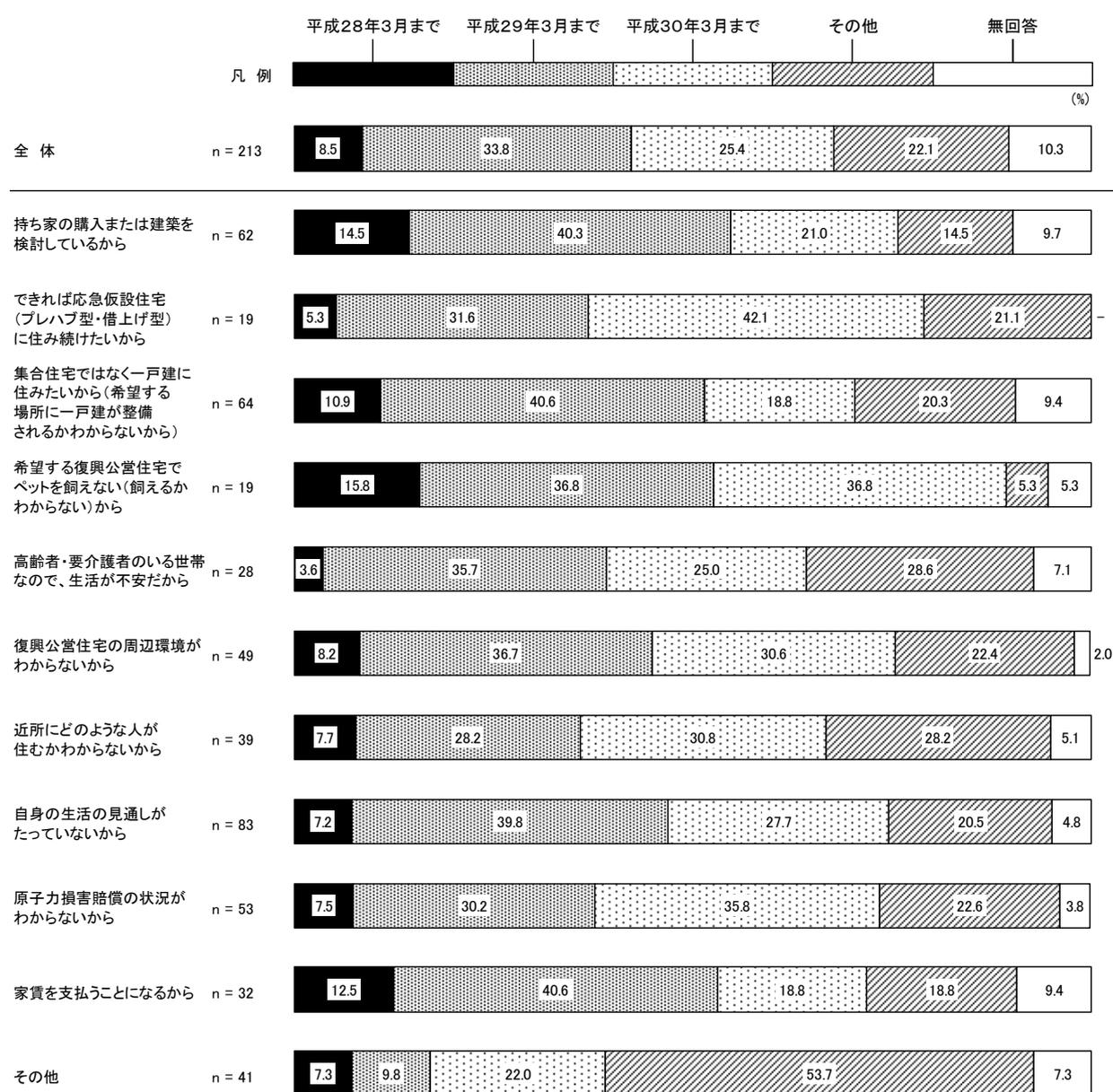


<図表3-2-5-2 復興公営住宅への入居の判断時期（世帯構成別）>



復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由別にみると、平成29年3月までは「集合住宅ではなく一戸建に住みたいから（希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから）」（40.6%）、「家賃を支払うことになるから」（40.6%）、「持ち家の購入または建築を検討しているから」（40.3%）、「自身の生活の見通しがたっていないから」（39.8%）が、平成30年3月までは「原子力損害賠償の状況がわからないから」（35.8%）が、他の復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由と比べ高くなっている。

<図表3-2-5-3 復興公営住宅への入居の判断時期（復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由別）>



「その他」の主な内容は、以下のとおり。

- ・子どもが小学校入学前までに。(30代)
- ・借上げの措置がいつまで続くかによります。(50代)
- ・避難指示が解除になった時点で判断したい。(60代)
- ・帰還目標年度が出るまで。(70代以上)
- ・長男夫婦の考えに添う。(70代以上)

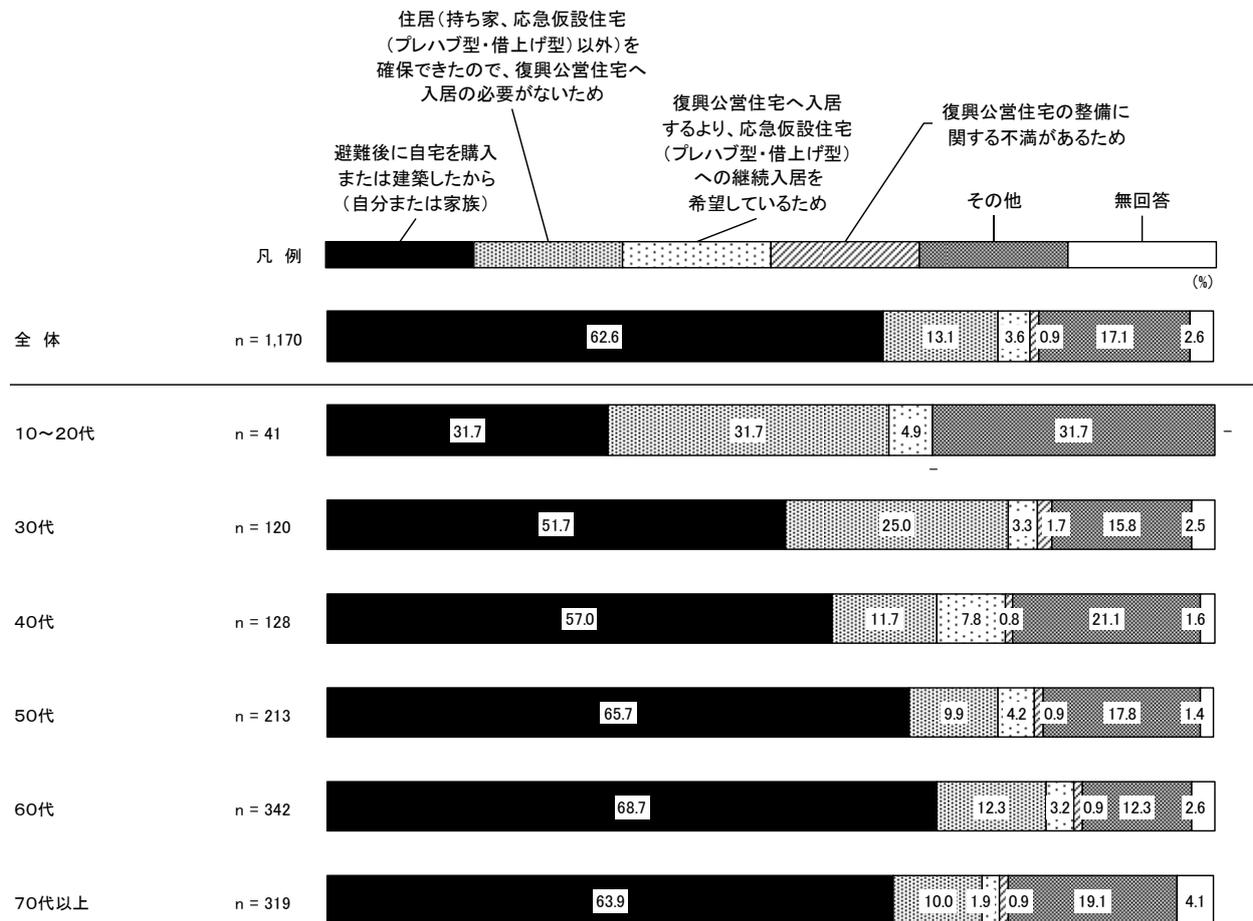
3-2-6 復興公営住宅への入居を希望しない理由

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】
 問8-5 あなたが入居を希望しない理由は何ですか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居を希望しない理由については、「避難後に自宅を購入または建築したから（自分または家族）」が62.6%と最も高く、次いで「住居（持ち家、応急仮設住宅（プレハブ型・借上げ型）以外）を確保できたので、復興公営住宅へ入居の必要がないため」が13.1%、「復興公営住宅へ入居するより、応急仮設住宅（プレハブ型・借上げ型）への継続入居を希望しているため」が3.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「避難後に自宅を購入または建築したから（自分または家族）」は全ての年齢で最も高く、70代以上を除き、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。「住居（持ち家、応急仮設住宅（プレハブ型・借上げ型）以外）を確保できたので、復興公営住宅へ入居の必要がないため」は10～20代が31.7%、30代が25.0%と他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-6-1 復興公営住宅への入居を希望しない理由（年齢別）>

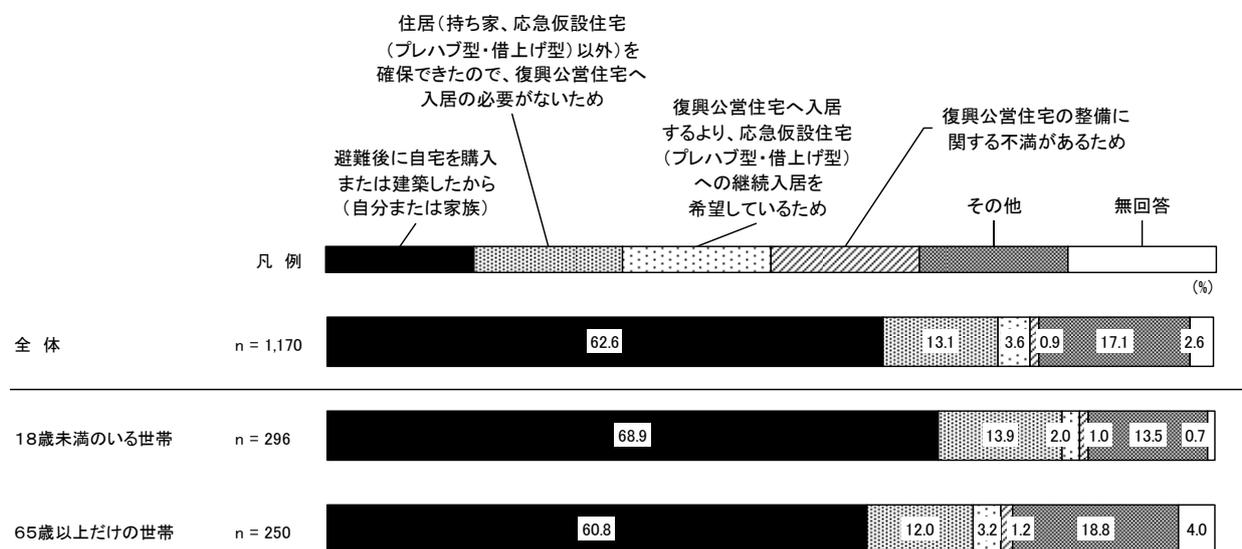


「その他」の主な内容は、以下のとおり。

- ・福島県外で仕事をしているため。（10～20代）
- ・子供の学校を移動させたくない。（30代）
- ・娘の所に同居しているから。年なので1人の入居は困難の為。（70代以上）

世帯構成別にみると、「避難後に自宅を購入または建築したから（自分または家族）」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている

<図表3-2-6-2 復興公営住宅への入居を希望しない理由（世帯構成別）>



3-2-7 復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住居

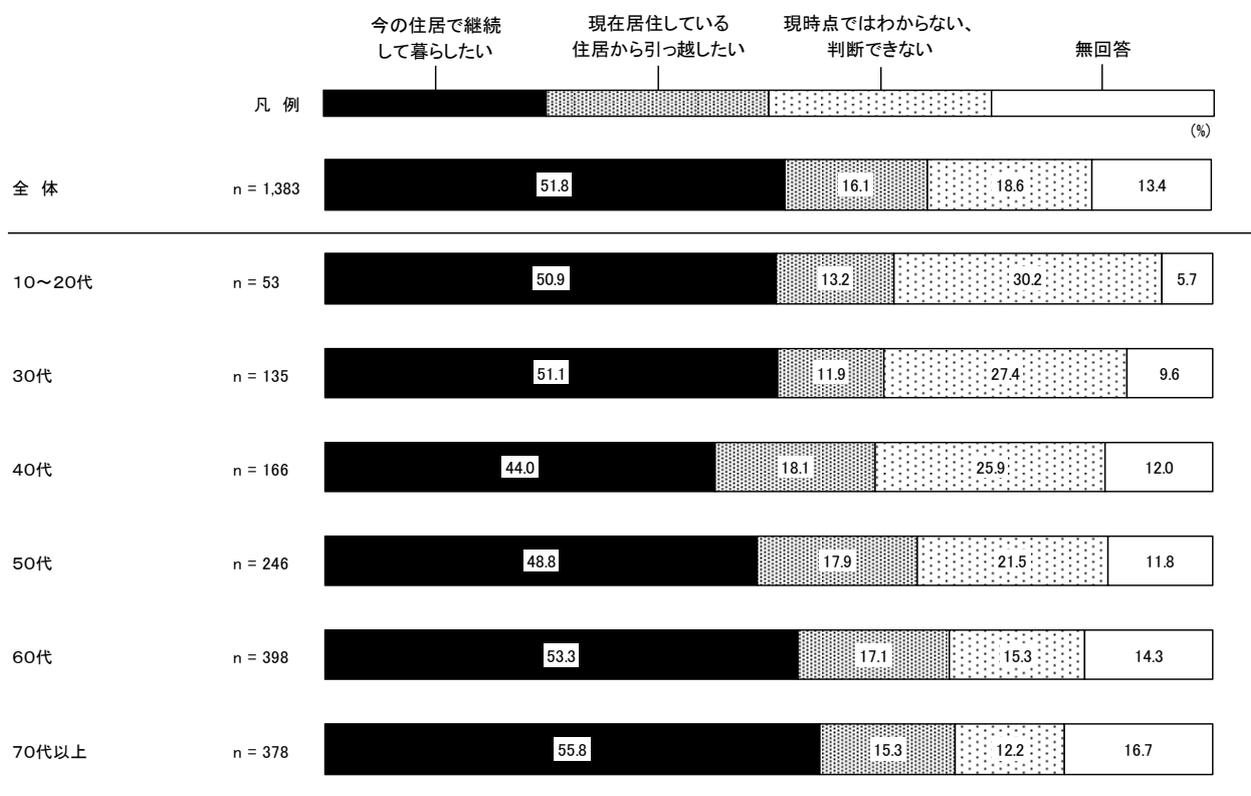
【問8で「4. 現時点では判断できない」「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問8-6 あなたは今後の住居をどのようにお考えですか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住居については、「今の住居で継続して暮らしたい」が51.8%と最も高く、次いで「現時点ではわからない、判断できない」が18.6%、「現在居住している住居から引っ越したい」が16.1%となっている。

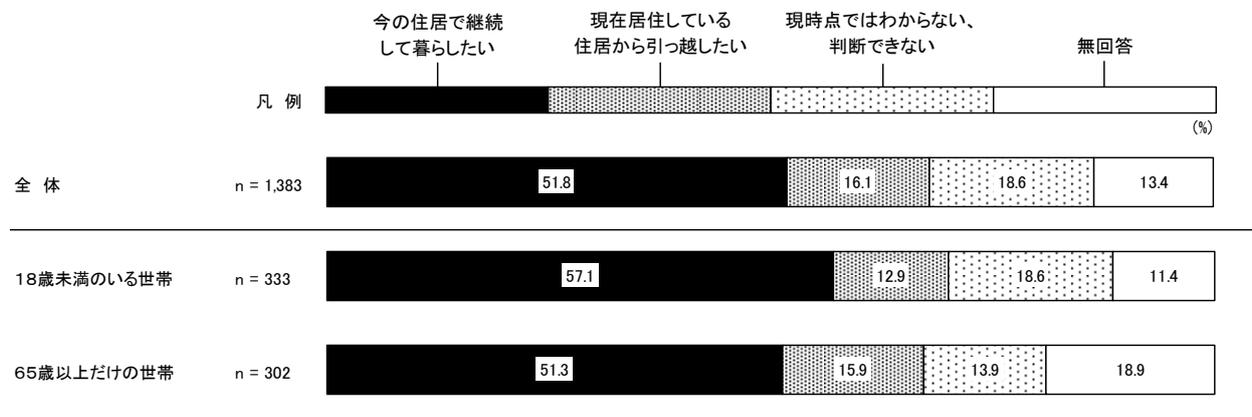
回答者の年齢別にみると、「今の住居で継続して暮らしたい」は全ての年齢で最も高く、「現時点ではわからない、判断できない」は、年齢が高くなるにつれて割合が低くなっている。

<図表3-2-7-1 復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住居（年齢別）>

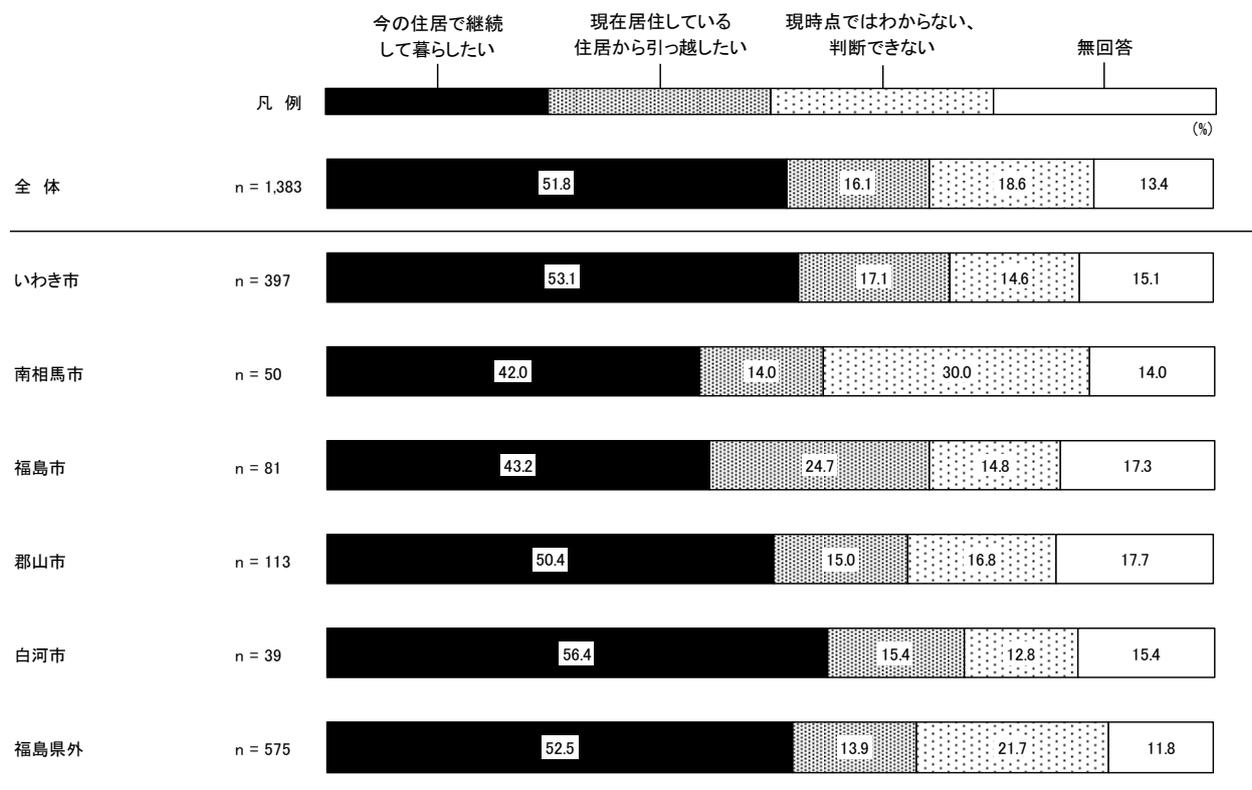


世帯構成別にみると、「今の住居で継続して暮らしたい」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。
 主な避難先自治体別にみると、「今の住居で継続して暮らしたい」は全ての自治体で最も高いが、「現時点ではわからない、判断できない」は、南相馬市が30.0%と他の自治体と比べ割合が高くなっている。

＜図表3-2-7-2 復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住居（世帯構成別）＞



＜図表3-2-7-3 復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住居（主な避難先自治体別）＞



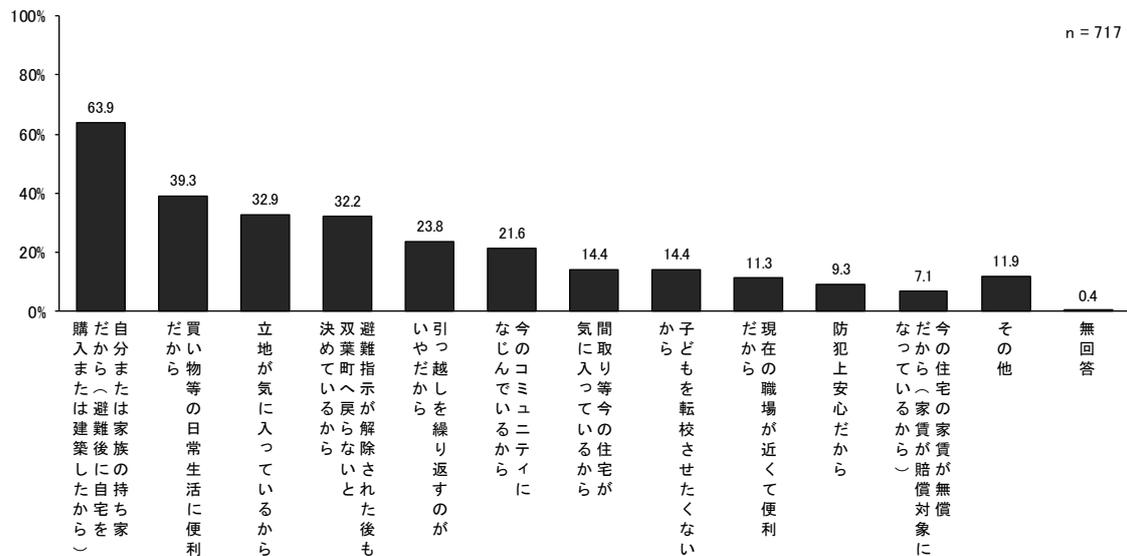
3-2-8 現在の住居で継続して暮らしたい理由

【問8-6で「1. 今の住居で継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問8-7 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「自分または家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入または建築したから）」が63.9%で最も高く、次いで「買い物等の日常生活に便利だから」が39.3%、「立地が気に入っているから」が32.9%となっている。

<図表3-2-8-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由>



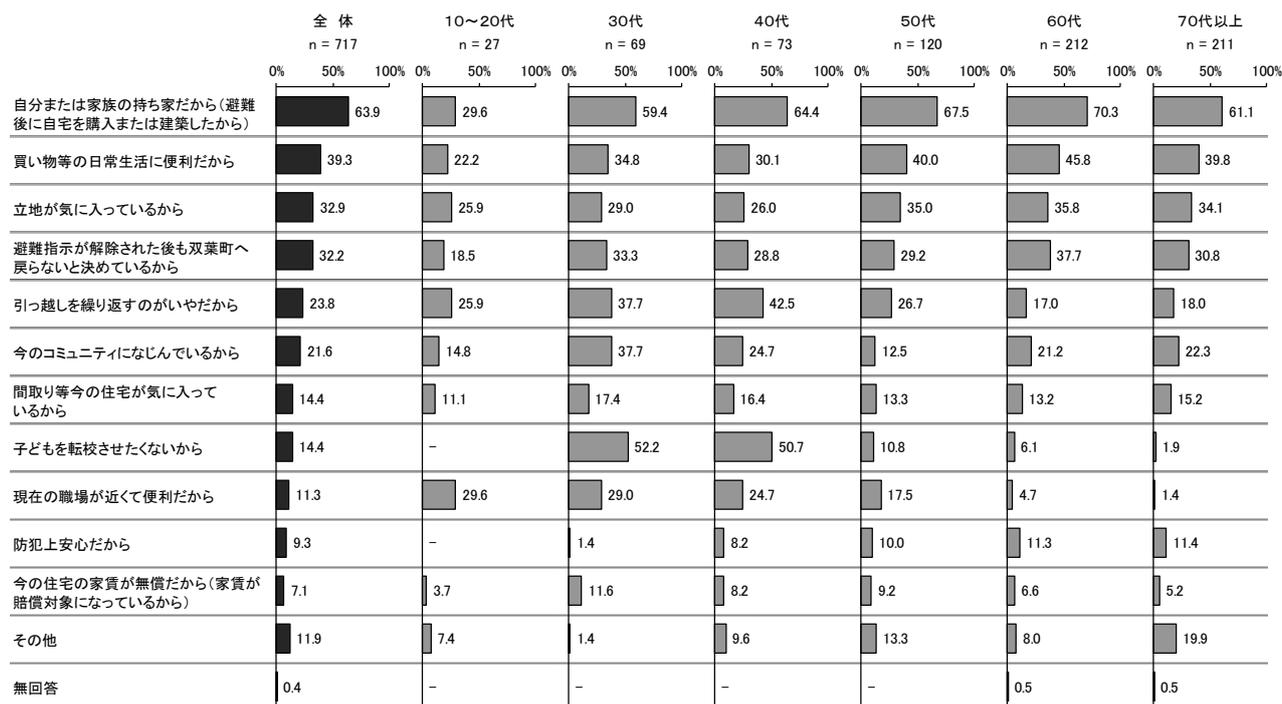
「その他」の主な内容は、以下のとおり。

- ・自宅が中間貯蔵施設のエリアに入るから。(30代)
- ・今住んでいる所にも慣れ、生活基盤ができている為。(50代)
- ・中間貯蔵施設の近隣で、安全が保障されるのか不安が大きく町に戻れない。(60代)
- ・娘の家が近くにあるので。(70代以上)
- ・高齢のため、一人で暮らすことが出来ない。(70代以上)

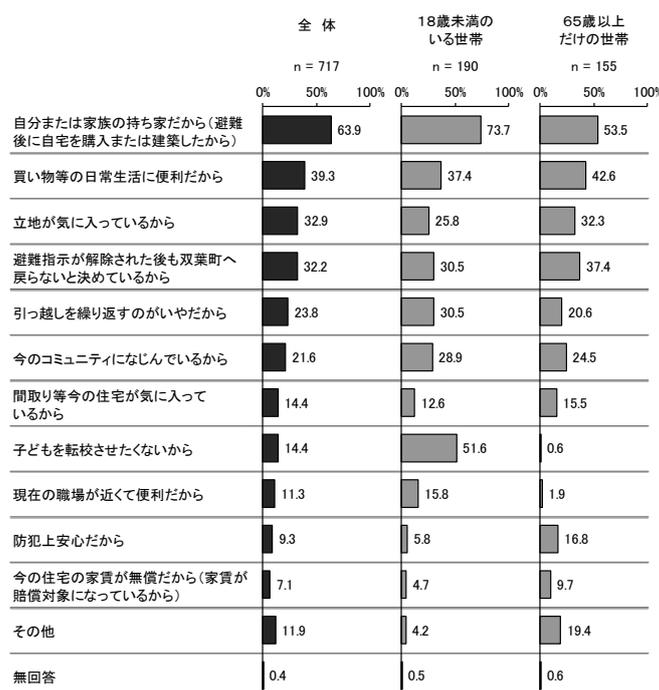
回答者の年齢別にみると、「自分または家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入または建築したから）」はいずれの年齢でも最も高くなっている。「子どもを転校させたくないから」は、30代（52.2%）、40代（50.7%）、「引っ越しを繰り返すのがいやだから」は40代（42.5%）、30代（37.7%）が他の年齢と比べ高くなっている。

世帯構成別にみると、「自分または家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入または建築したから）」はいずれの世帯で最も高くなっているが、「子どもを転校させたくないから」は18歳未満のいる世帯が51.6%と高くなっている。

<図表3-2-8-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由（年齢別）>



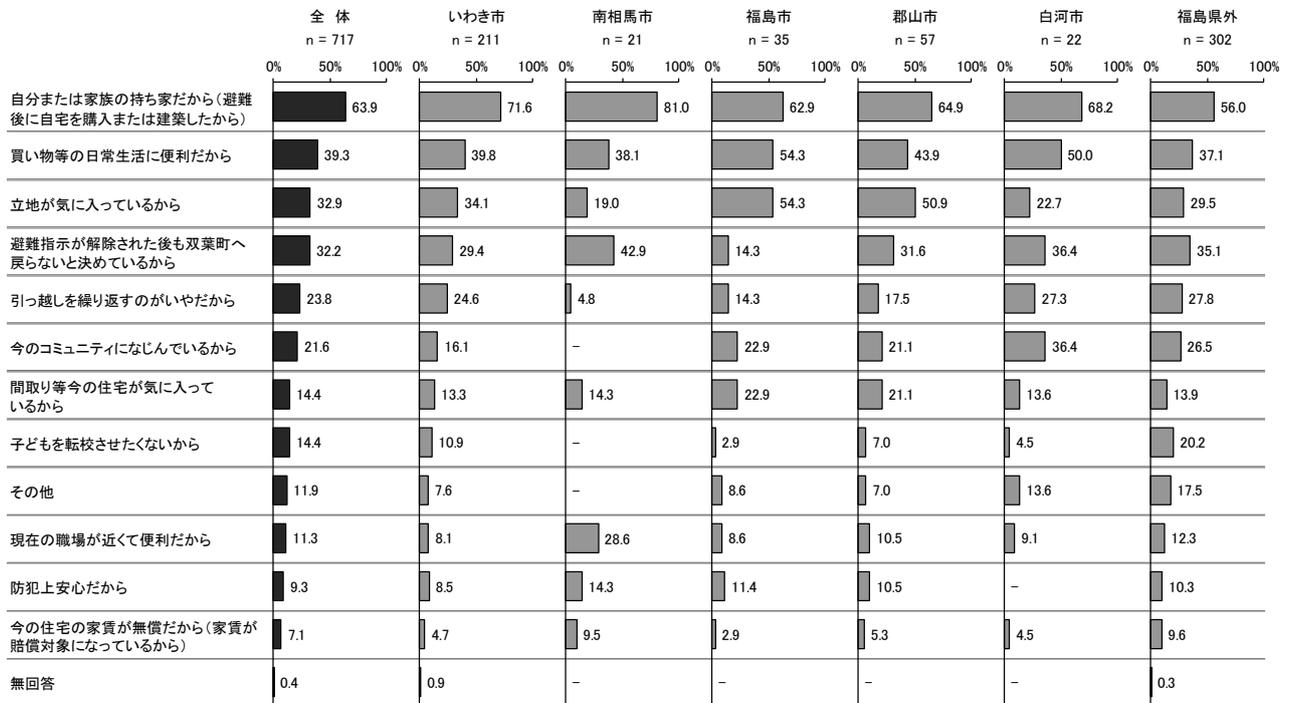
<図表3-2-8-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯構成別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「自分または家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入または建築したから）」は全ての避難先自治体で最も高くなっている。「立地が気に入っているから」は福島市（54.3%）、郡山市（50.9%）、「買い物等の日常生活に便利だから」は福島市（54.3%）が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-2-8-4 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）>



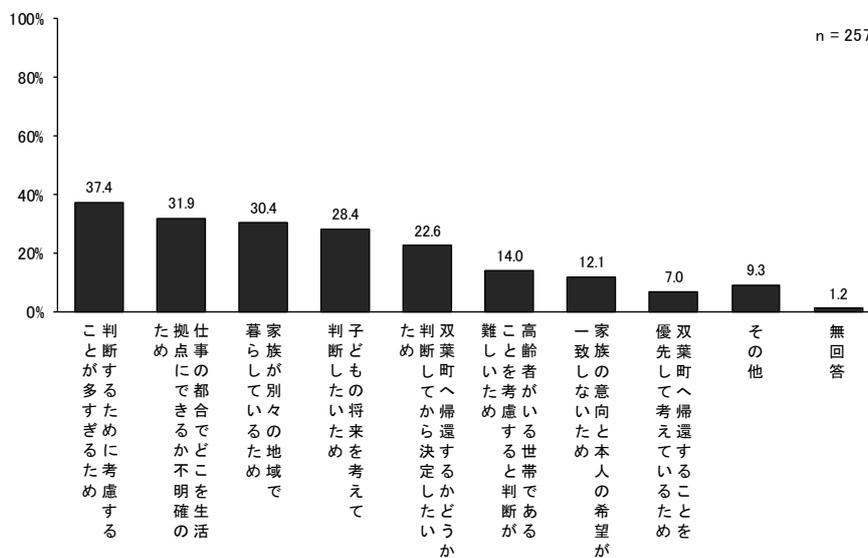
3-2-9 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由

【問8-6で「2. 現時点ではわからない、判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問8-8 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由については、「判断するために考慮することが多すぎるため」が37.4%と最も高く、次いで「仕事の都合でどこを生活拠点にできるか不明確のため」が31.9%、「家族が別々の地域で暮らしているため」が30.4%となっている。

<図表3-2-9-1 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由>

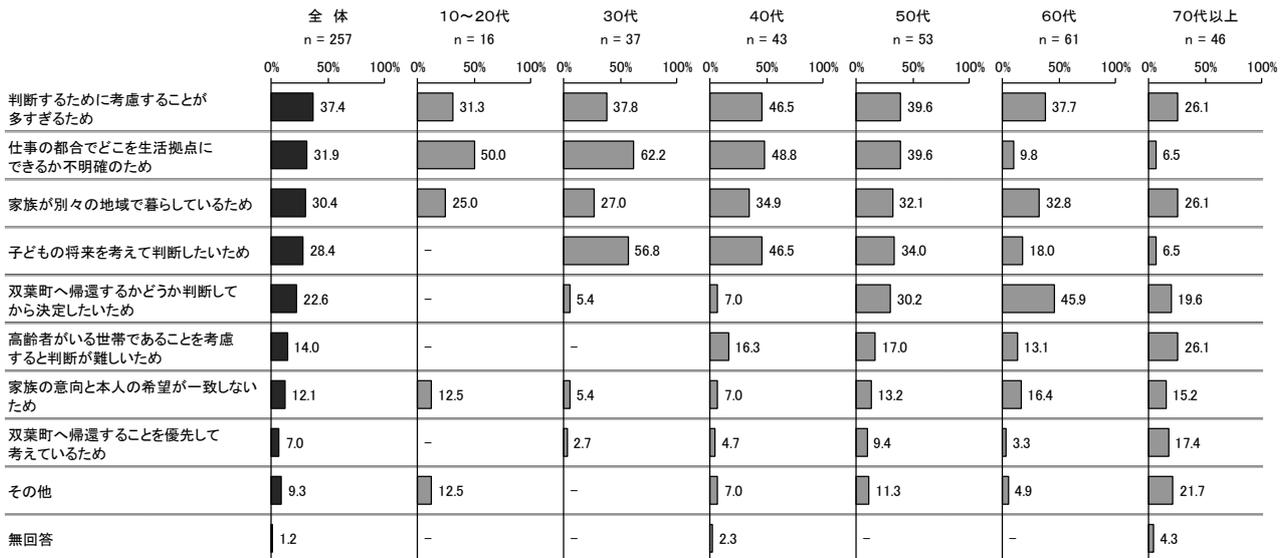


III 調査結果

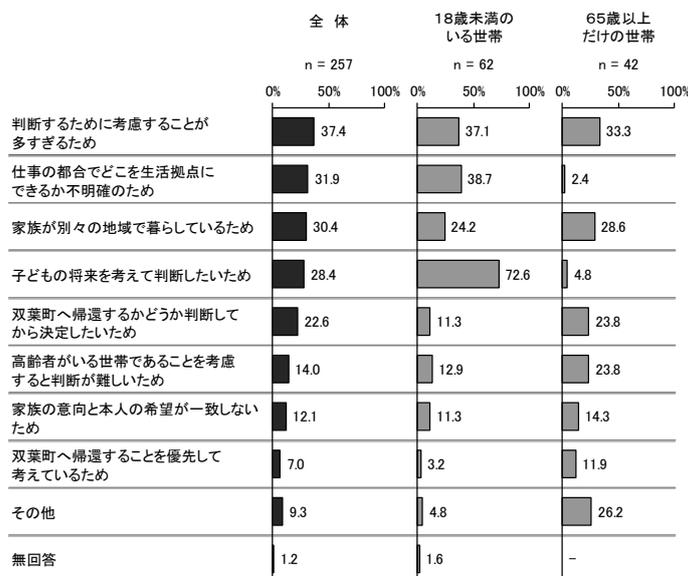
回答者の年齢別にみると、30～40代では「仕事の都合でどこを生活拠点にできるか不明確のため」、「子どもの将来を考えて判断したいため」がいずれも4割以上となっている。一方、「双葉町へ帰還するかどうか判断してから決定したいため」は60代が45.9%と他の年齢と比べ高くなっている。

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「子どもの将来を考えて判断したいため」が72.6%、「仕事の都合でどこを生活拠点にできるか不明確のため」が38.7%となっており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯構成では「高齢者がいる世帯であることを考慮すると判断が難しいため」が23.8%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

<図表3-2-9-2 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由（年齢別）>

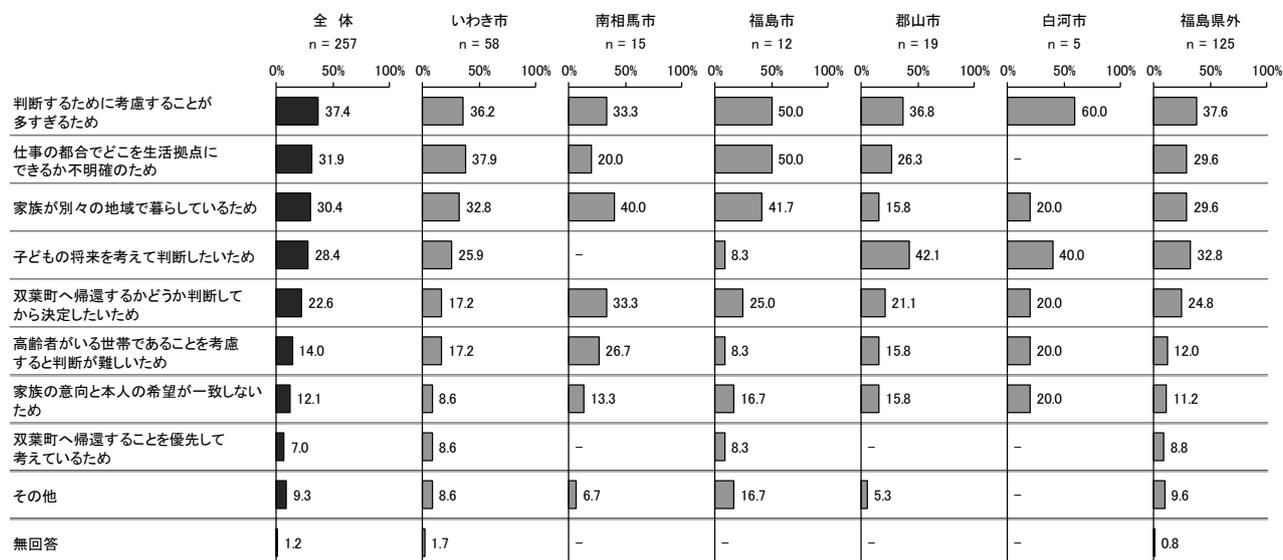


<図表3-2-9-3 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由（世帯構成別）>



主な避難先自治体別にみると、「仕事の都合でどこを生活拠点にできるか不明確のため」はいわき市が37.9%と他の自治体と比べ高くなっている。

＜図表3-2-9-4 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に、今後の住居を判断できない理由（主な避難先自治体別）＞



3-2-10 避難期間中に転居を希望する自治体

(1) 避難期間中に転居を希望する自治体

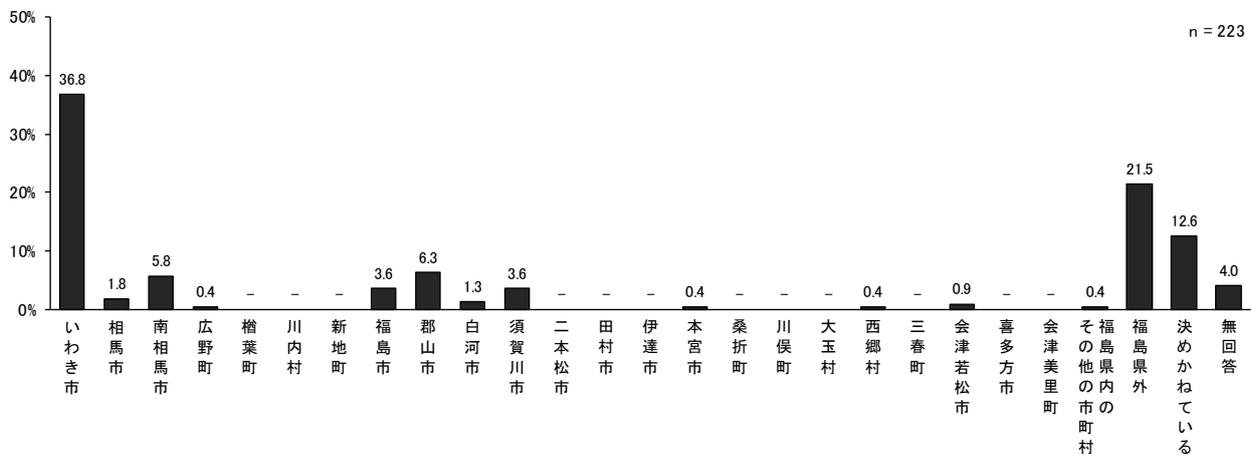
【問8-6で「3. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問8-9(1) 当面の避難先または定住先として、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

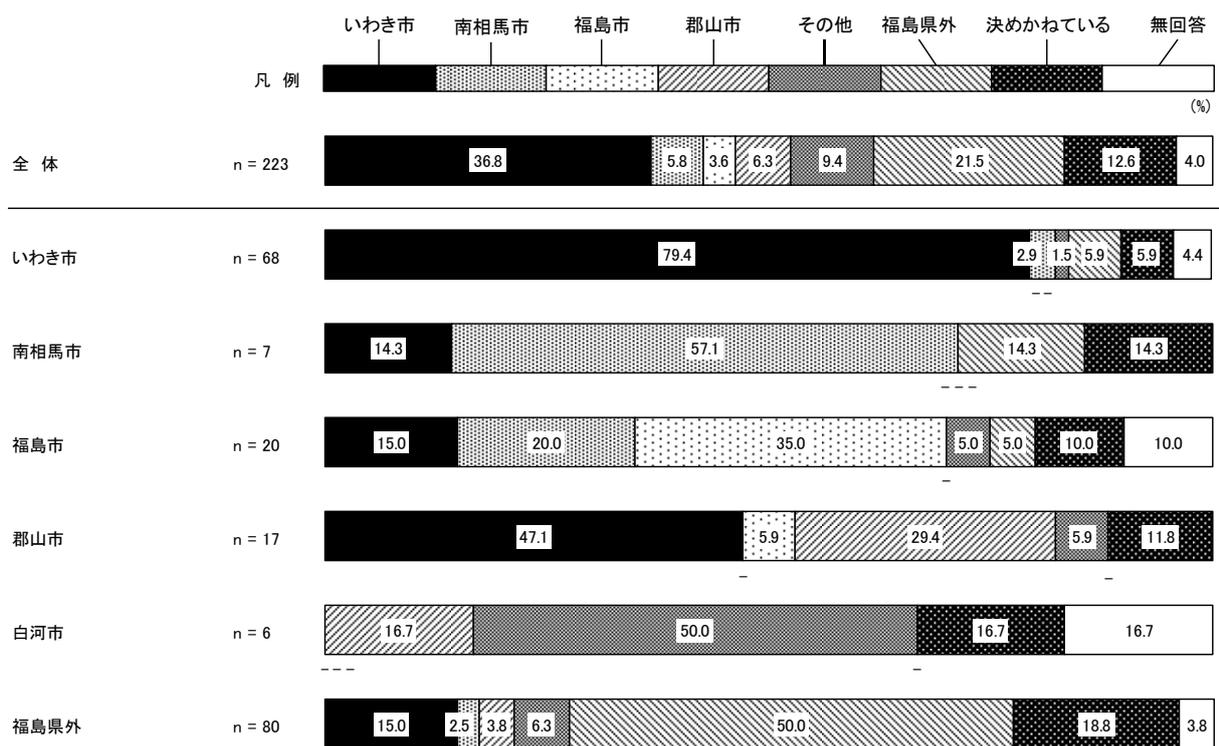
避難期間中に転居を希望する自治体については、「いわき市」が36.8%と最も高く、次いで「福島県外」が21.5%、「決めかねている」が12.6%となっている。

主な避難先自治体別に転居を希望する主な自治体別にみると、現在いわき市に避難している世帯の79.4%が同じ「いわき市」への転居を希望している。福島県外に避難している世帯の50.0%も同じ「福島県外」への転居を希望しているが、「決めかねている」世帯も18.8%となっており、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

<図表3-2-10-1 避難期間中に転居を希望する自治体>



<図表3-2-10-2 避難期間中に転居を希望する主な自治体(主な避難先自治体別)>



(2) 避難期間中に転居を希望するいわき市の地区名

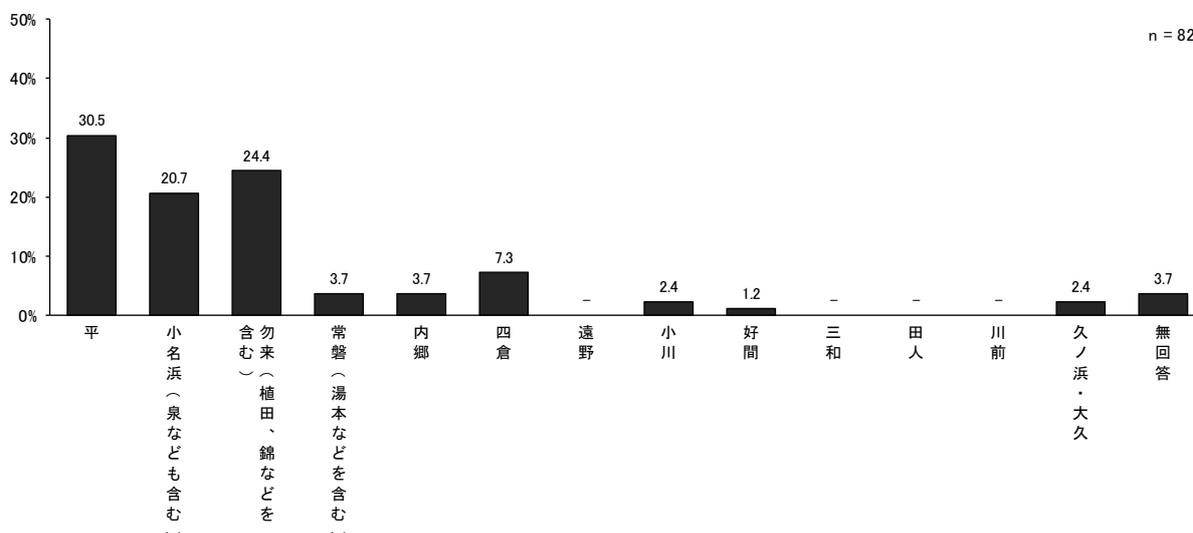
【問8-6で「3. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問8-9 (1) 当面の避難先または定住先として、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)
 ※いわき市については地区名を教えてください。(〇は1つ)

転居を希望するいわき市の地区名については、「平」が30.5%と最も高く、次いで「勿来(植田、錦などを
 含む)」が24.4%、「小名浜(泉なども含む)」が20.7%となっている。

主な避難先自治体別に避難期間中に転居を希望する主ないわき市の地区名別にみると、いわき市は「勿来
 (植田、錦などを含む)」が29.6%と最も高く、次いで「平」が27.8%、「小名浜(泉なども含む)」が16.7%
 となっている。

<図表3-2-10-3 避難期間中に転居を希望するいわき市の地区名>



<図表3-2-10-4 避難期間中に転居を希望するいわき市の地区名(主な避難先自治体別)>

	n	地区名 (%)									
		平	小名浜 (泉なども含む)	勿来 (植田、錦などを含む)	常磐 (湯本などを含む)	内郷	四倉	小川	好間	久ノ浜・大久	無回答
全体	82	30.5	20.7	24.4	3.7	3.7	7.3	2.4	1.2	2.4	3.7
いわき市	54	27.8	16.7	29.6	3.7	5.6	9.3	1.9	-	1.9	3.7
南相馬市	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
福島市	3	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-
郡山市	8	50.0	12.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	12.5
白河市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県外	12	33.3	25.0	16.7	8.3	-	-	-	8.3	8.3	-

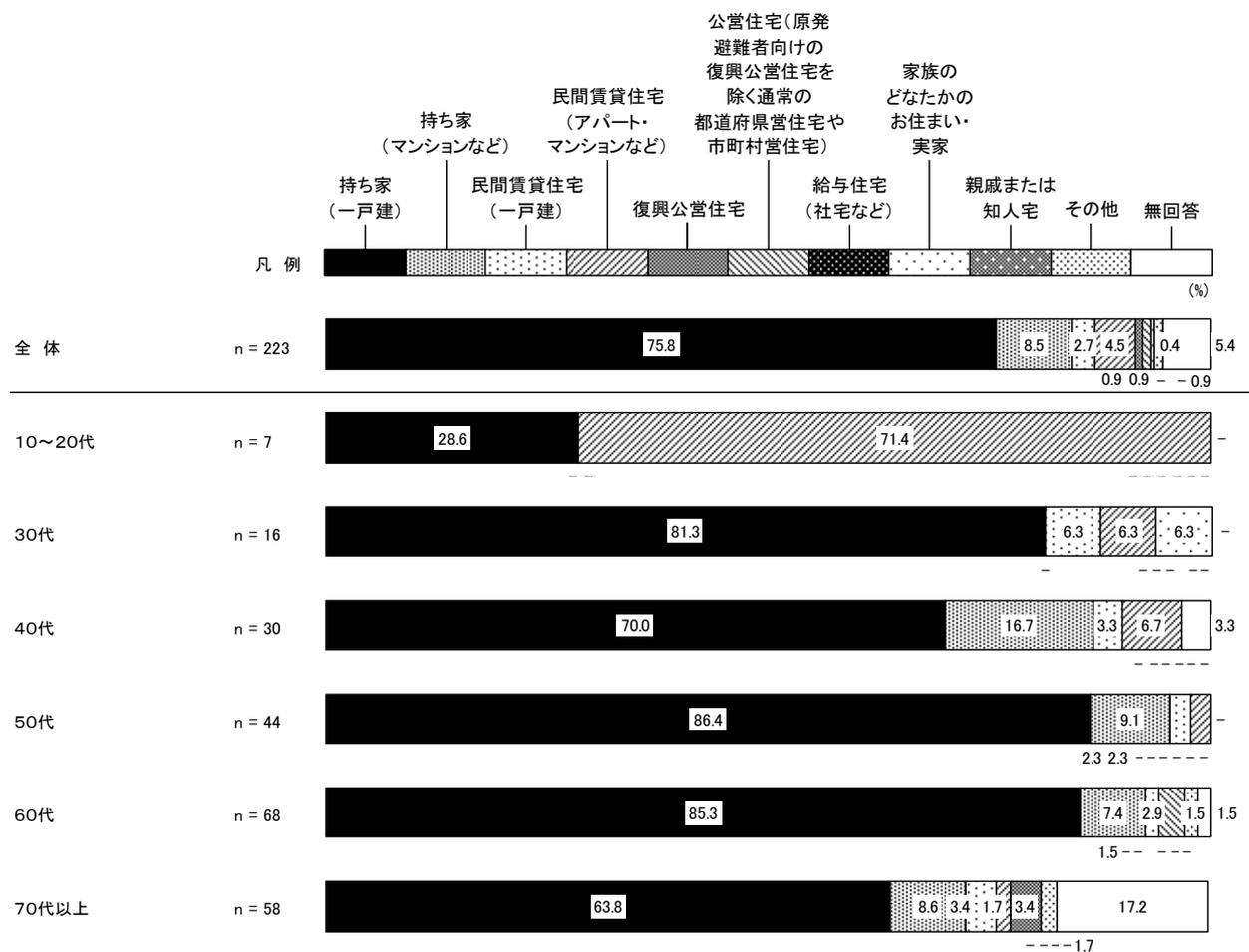
3-2-11 避難期間中、転居する場合の住居形態

【問8-6で「3. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問8-9 (2) 転居先で希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

避難期間中、転居する場合の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が75.8%と最も高く、次いで「持ち家（マンションなど）」が8.5%、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が4.5%となっている。回答者の年齢別にみると、40代以上の年齢では「持ち家（一戸建）」が最も高くなっている。

<図表3-2-11-1 避難期間中、転居を希望する場合の住居形態（年齢別）>



3-3 将来の意向

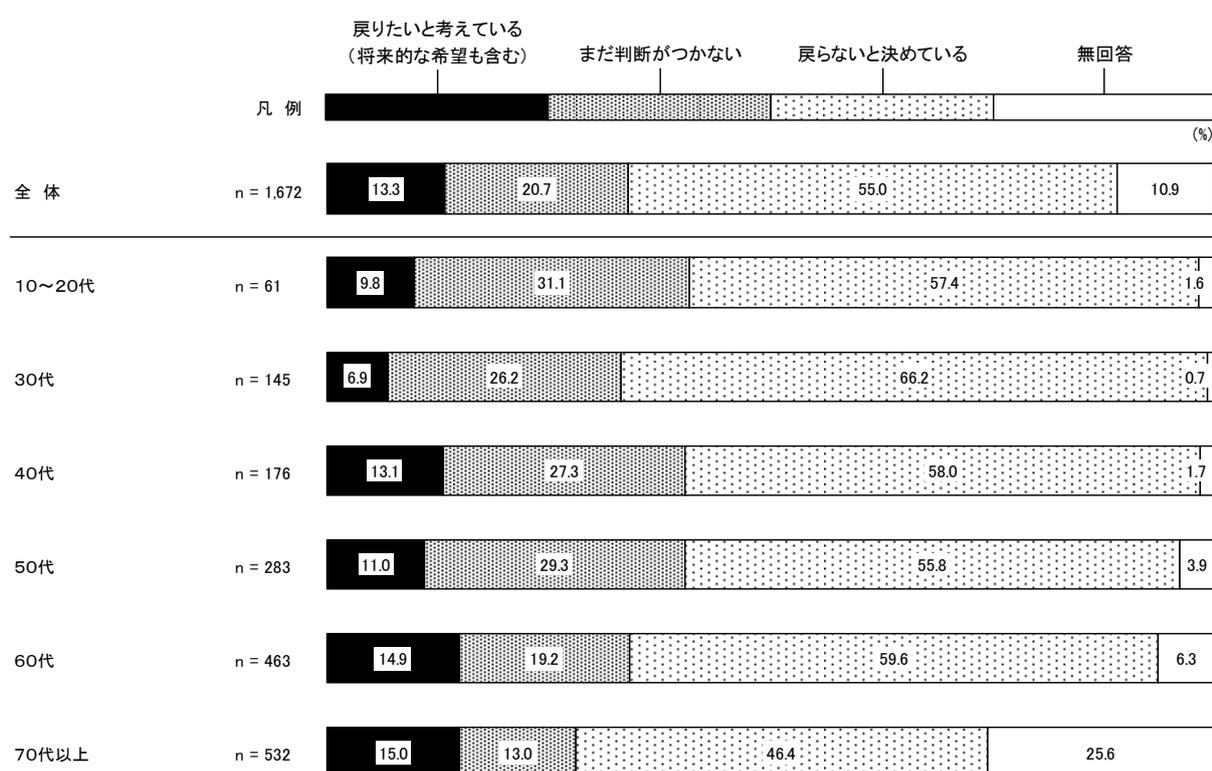
3-3-1 双葉町への帰還意向

問9 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から1つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

双葉町への帰還意向については、「戻らないと決めている」が55.0%と最も高く、次いで「まだ判断がつかない」が20.7%、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」が13.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は70代以上が15.0%、60代が14.9%となっている。一方、「戻らないと決めている」は、30代では66.2%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

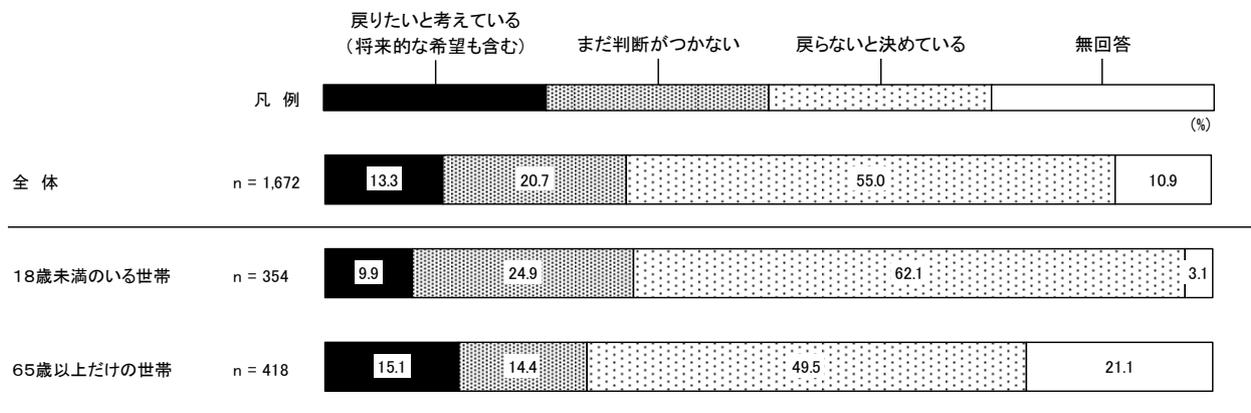
<図表3-3-1-1 双葉町への帰還意向(年齢別)>



III 調査結果

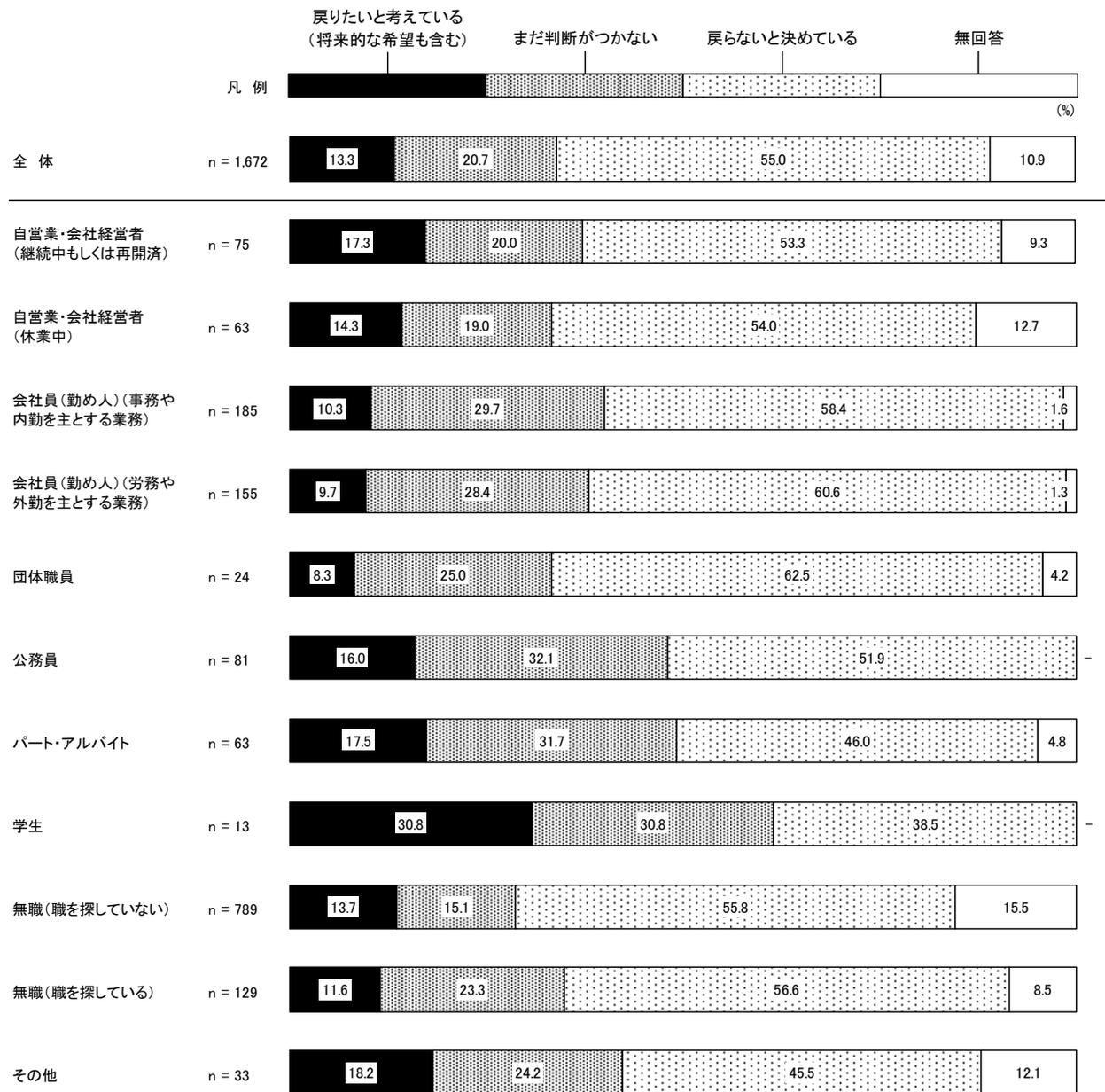
世帯構成別にみると、「戻らないと決めている」は、18歳未満のいる世帯では62.1%となっており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-1-2 双葉町への帰還意向（世帯構成別）>



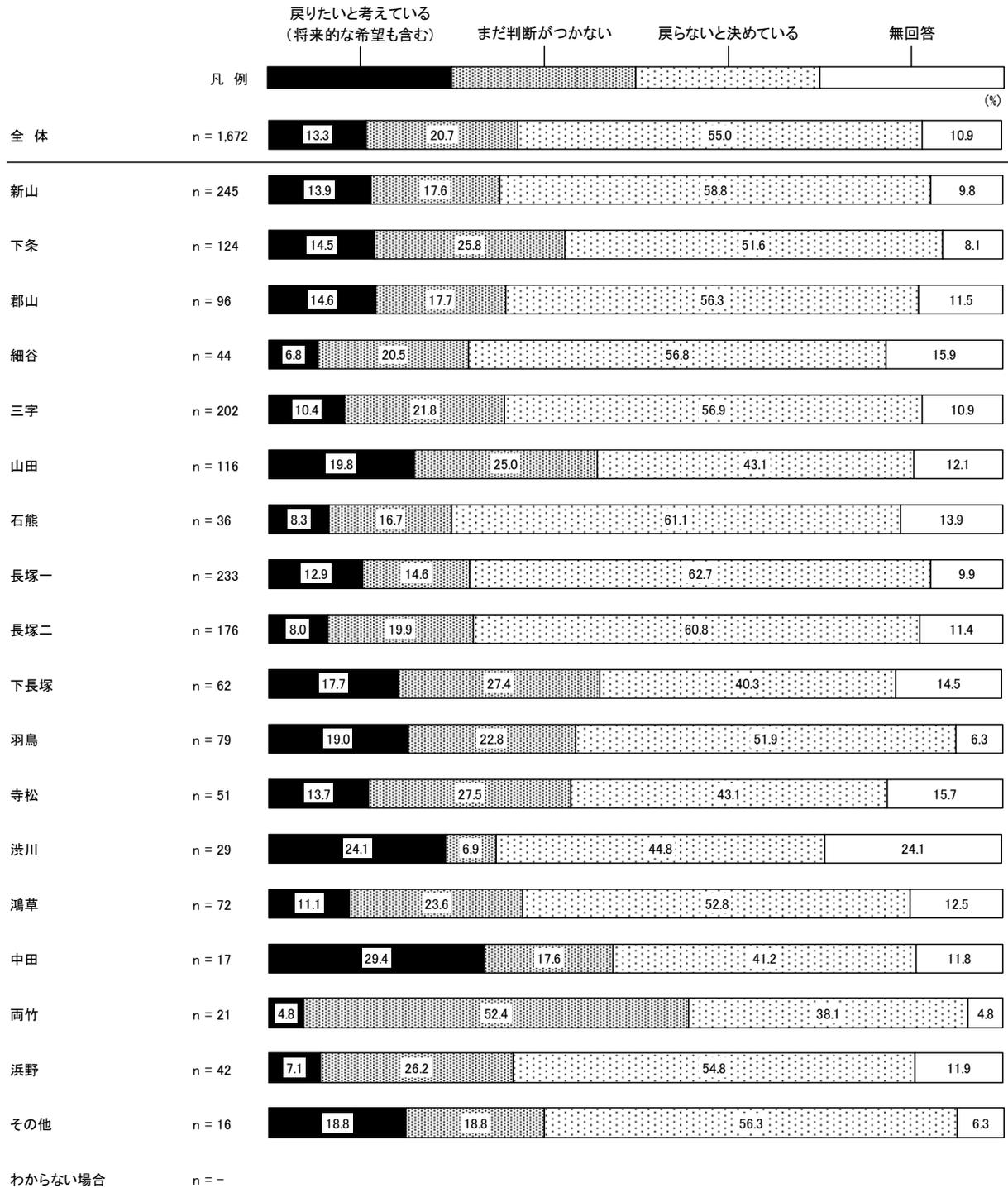
職業別にみると、「戻らないと決めている」は、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）が60.6%となっており、他の職業と比べ高くなっている。一方、「まだ判断がつかない」は公務員（32.1%）、パート・アルバイト（31.7%）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（29.7%）が他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-3-1-3 双葉町への帰還意向（職業別）>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、中田（29.4%）、渋川（24.1%）、山田（19.8%）、羽鳥（19.0%）が、他の行政区と比べ高くなっている。

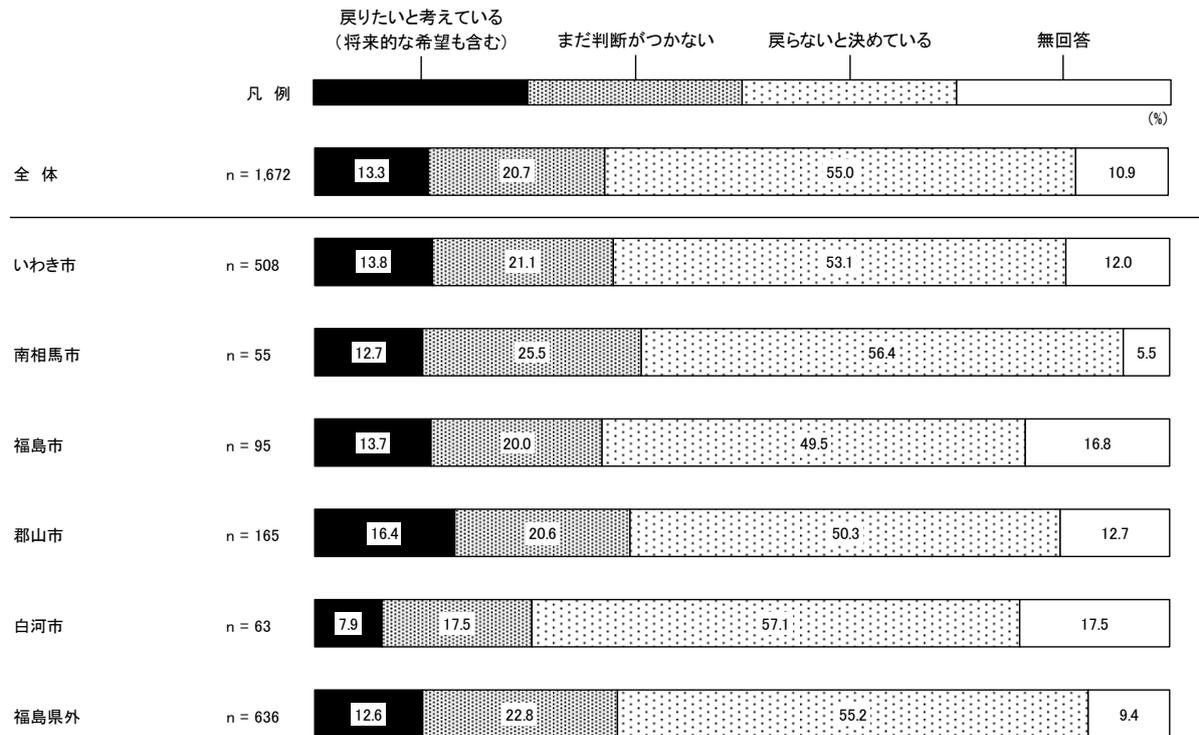
<図表3-3-1-4 双葉町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>



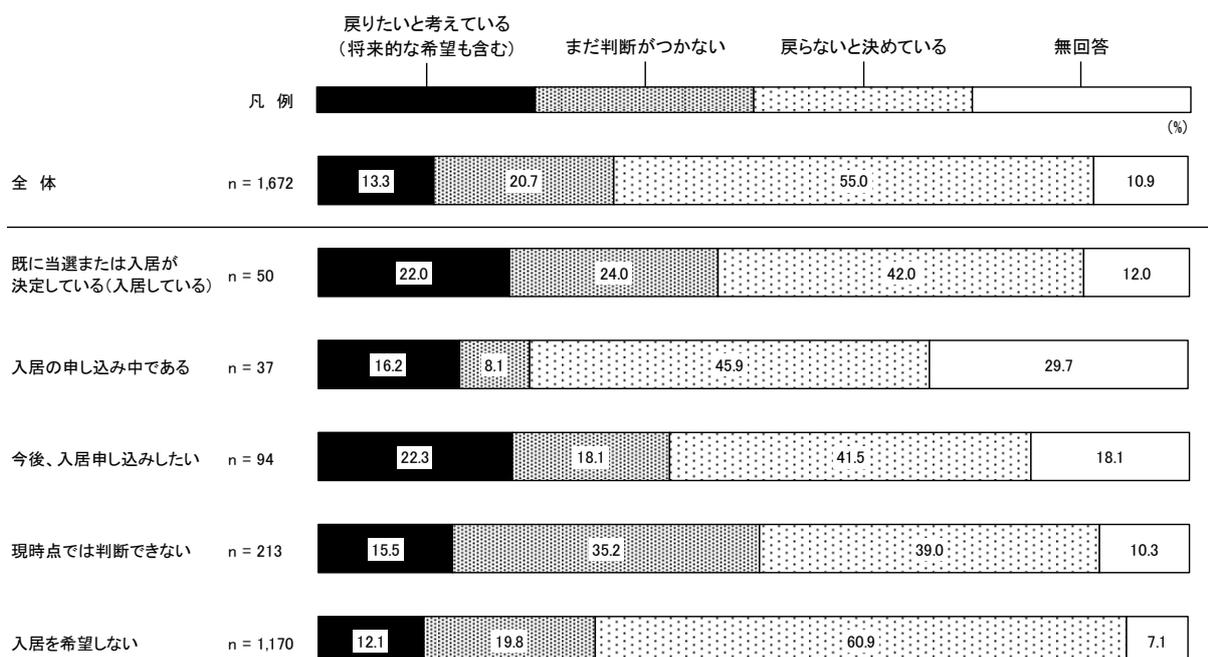
主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、郡山市では 16.4%となっており、他の避難先自治体と比べやや高くなっているが、いずれの避難先自治体も 1 割前後となっている。

復興公営住宅の入居意向別にみると、「戻らないと決めている」は、入居を希望しない世帯が 60.9%となっており、他の入居意向と比べ高くなっている。

<図表 3-3-1-5 双葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）>



<図表 3-3-1-6 双葉町への帰還意向（復興公営住宅への入居意向別）>



3-3-2 帰還まで待てる年数

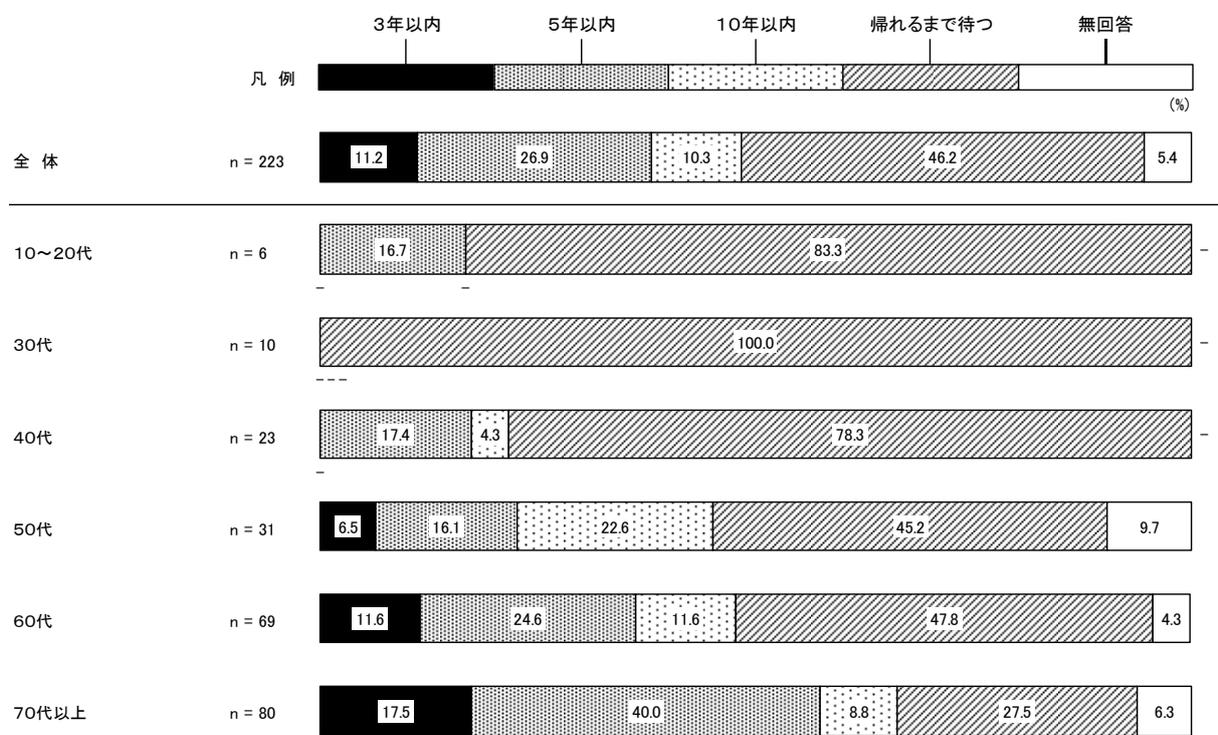
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問9-1-1 何年以内であれば待てますか。（〇は1つ）

帰還まで待てる年数については、「帰れるまで待つ」が46.2%と最も高く、次いで「5年以内」が26.9%、「3年以内」が11.2%となっている。

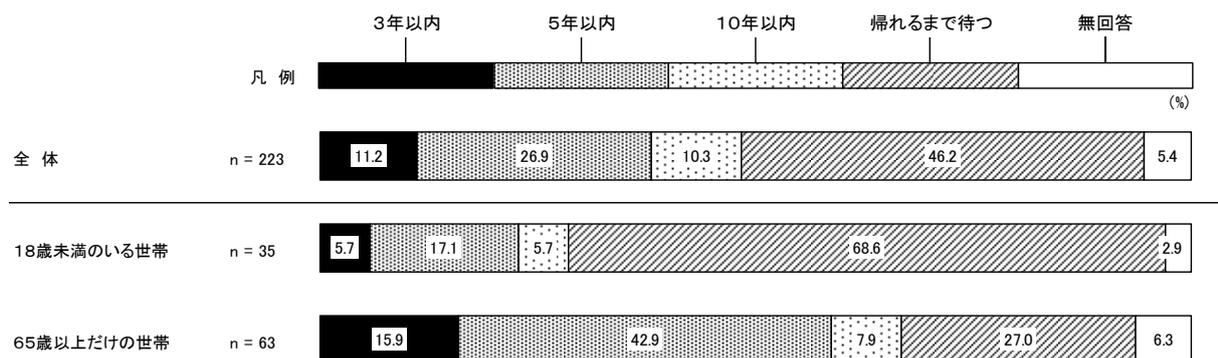
回答者の年齢別にみると、「帰れるまで待つ」は50代では45.2%、60代では47.8%と最も高いが、70代以上では「帰れるまで待つ」は27.5%で、「5年以内」が40.0%と最も高くなっている。

世帯構成別にみると、「帰れるまで待つ」は18歳未満のいる世帯では68.6%となっているが、65歳以上だけの世帯では27.0%にとどまる。一方、「5年以内」は65歳以上だけの世帯が42.9%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-2-1 帰還まで待てる年数（年齢別）>



<図表3-3-2-2 帰還まで待てる年数（世帯構成別）>



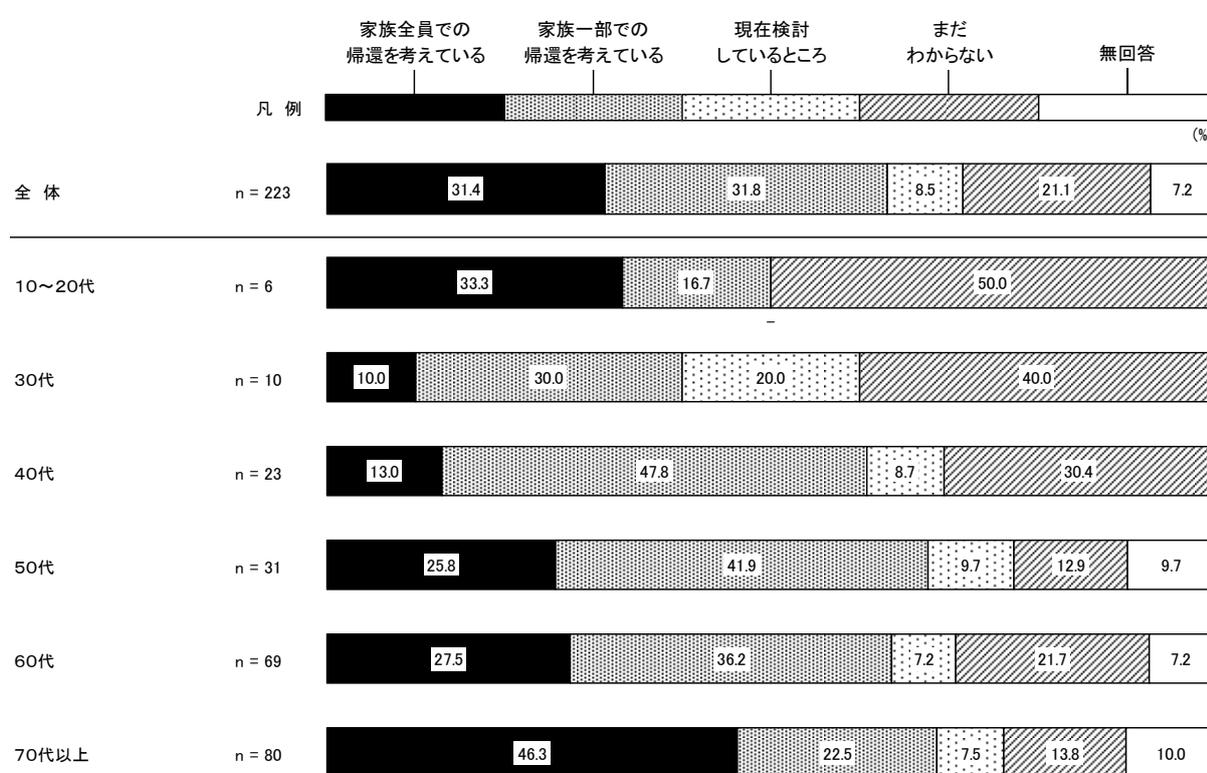
3-3-3 双葉町へ戻る場合の家族

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

双葉町へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が31.8%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が31.4%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて29.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は70代以上が46.3%と他の年齢と比べ高くなっている。

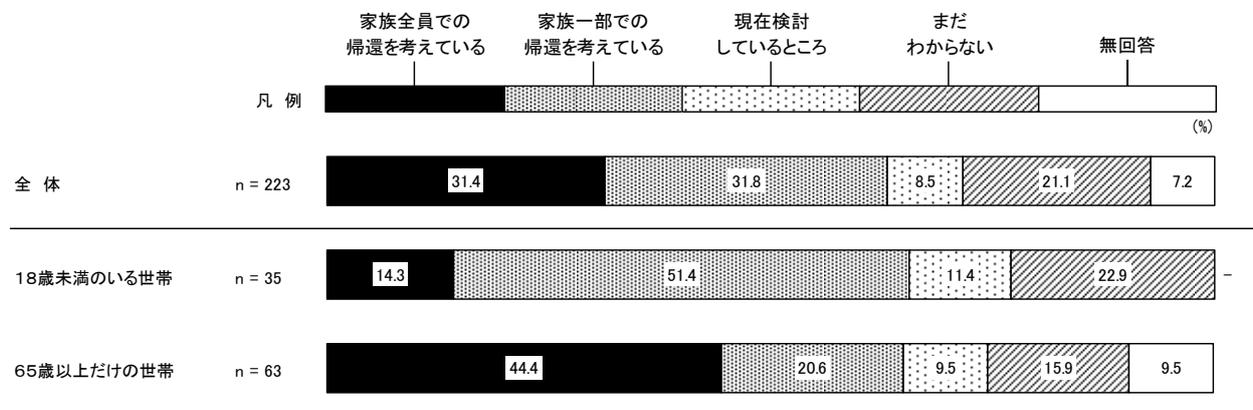
＜図表3-3-3-1 双葉町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



III 調査結果

世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65歳以上だけの世帯が44.4%と半数弱を占めるが、18歳未満のいる世帯は14.3%にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は、18歳未満のいる世帯は51.4%となっており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

＜図表3-3-3-2 双葉町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



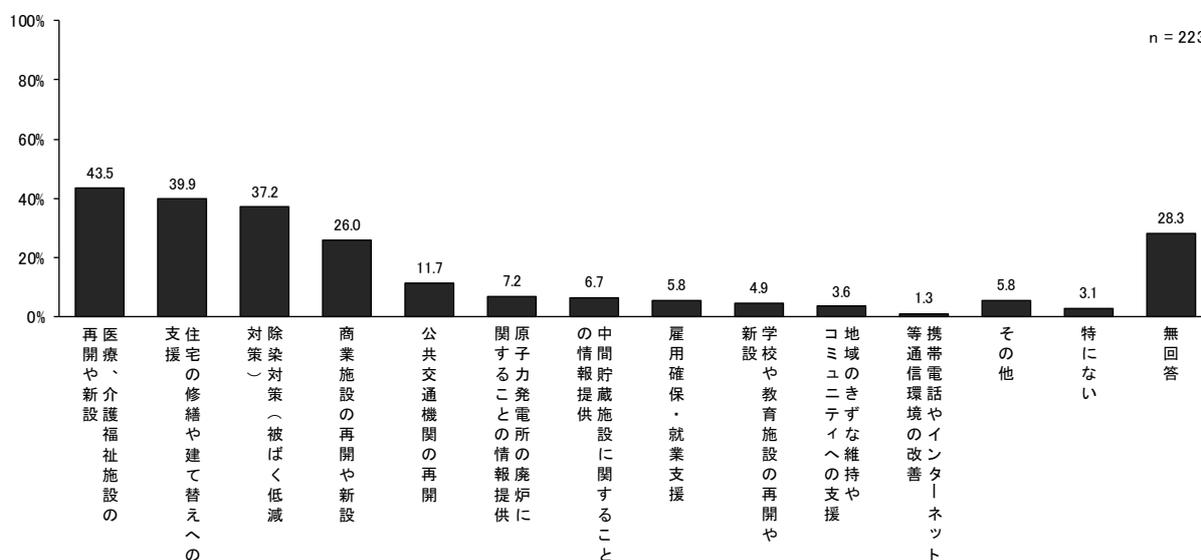
3-3-4 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問9-4 震災時に居住されていた双葉町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。重視したいものから順に選択肢番号欄に3つまで選んで、具体的な内容の欄に支援の具体的な内容をご記入ください。

双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が43.5%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が39.9%、「除染対策（被ばく低減対策）」が37.2%となっている。

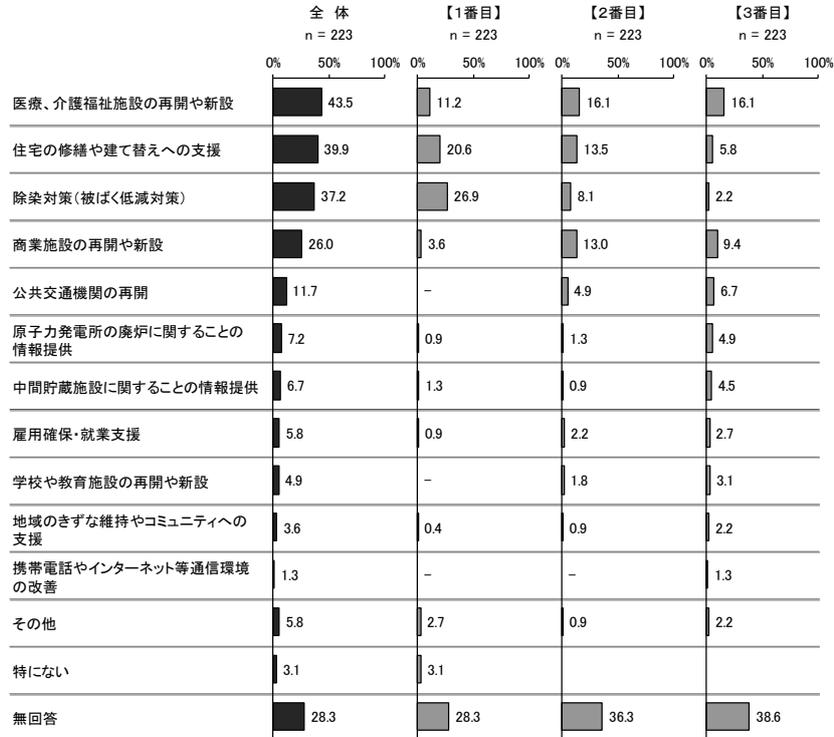
<図表3-3-4-1 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



III 調査結果

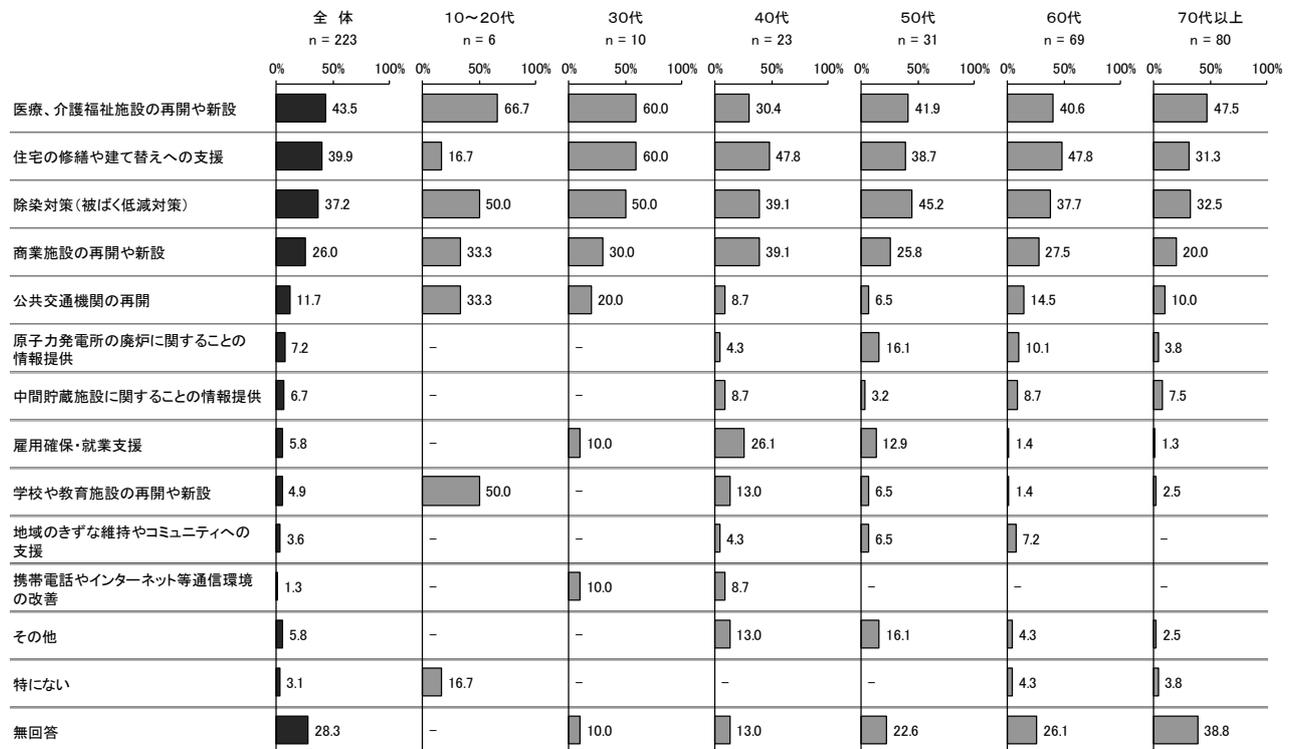
優先順位別にみると、1番目は「除染対策（被ばく低減対策）」が26.9%で、2番目、3番目は「医療、介護福祉施設の再開や新設」がそれぞれ16.1%とそれぞれの優先順位で最も割合が高くなっている。

＜図表3-3-4-2 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（優先順位別）＞



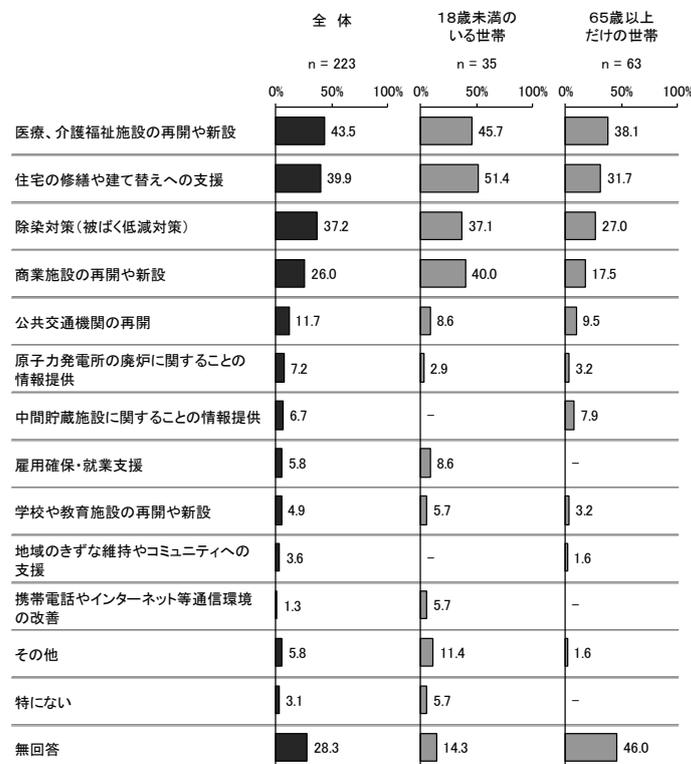
回答者の年齢別にみると、50代では、「除染対策（被ばく低減対策）」（45.2%）、60代では、「住宅の修繕や建て替えへの支援」（47.8%）が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-4-3 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、「医療、介護福祉施設の再開や新設」はいずれの世帯でも約4割を占める。18歳未満のいる世帯は、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が51.4%、「商業施設の再開や新設」が40.0%と、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

＜図表3-3-4-4 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）＞



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【医療、介護福祉施設の再開や新設】

- 双葉厚生病院の再開。（40代）
- 福祉会館の再開や運動場、スポーツ施設の新設など。（60代）
- 双葉厚生病院等の再開か、町立病院の設置。町立を含む特老の再開。（60代）
- 福祉施設の再開。（70代以上）

【住宅の修繕や建て替えへの支援】

- 住宅地の斡旋と建て替えへの助成。（30代）
- 住宅内部の汚染、壊れたため、建て替え支援。（40代）
- 被災家屋の早期取り壊し撤去等。（60代）
- 屋根や室内の修繕・店補の改修。（70代以上）
- 業者の確保、斡旋。（70代以上）

【除染対策（被ばく低減対策）】

- 子供達の安全性。以前と同じかそれ以上の環境を整える必要があると思います。（10～20代）
- 農地、山林を含めた除染。（40代）
- 常に最新の除染を試していきながら実施して頂きたい。（40代）
- 専門家の常駐。時間経過や自然力による低減具合を注視。（40代）
- 住宅周辺20m以外の全体的除染が必要。（70代以上）
- 地域全体（山林等含む）除染。（70代以上）

3-3-5 双葉町へ帰還する場合の住居形態

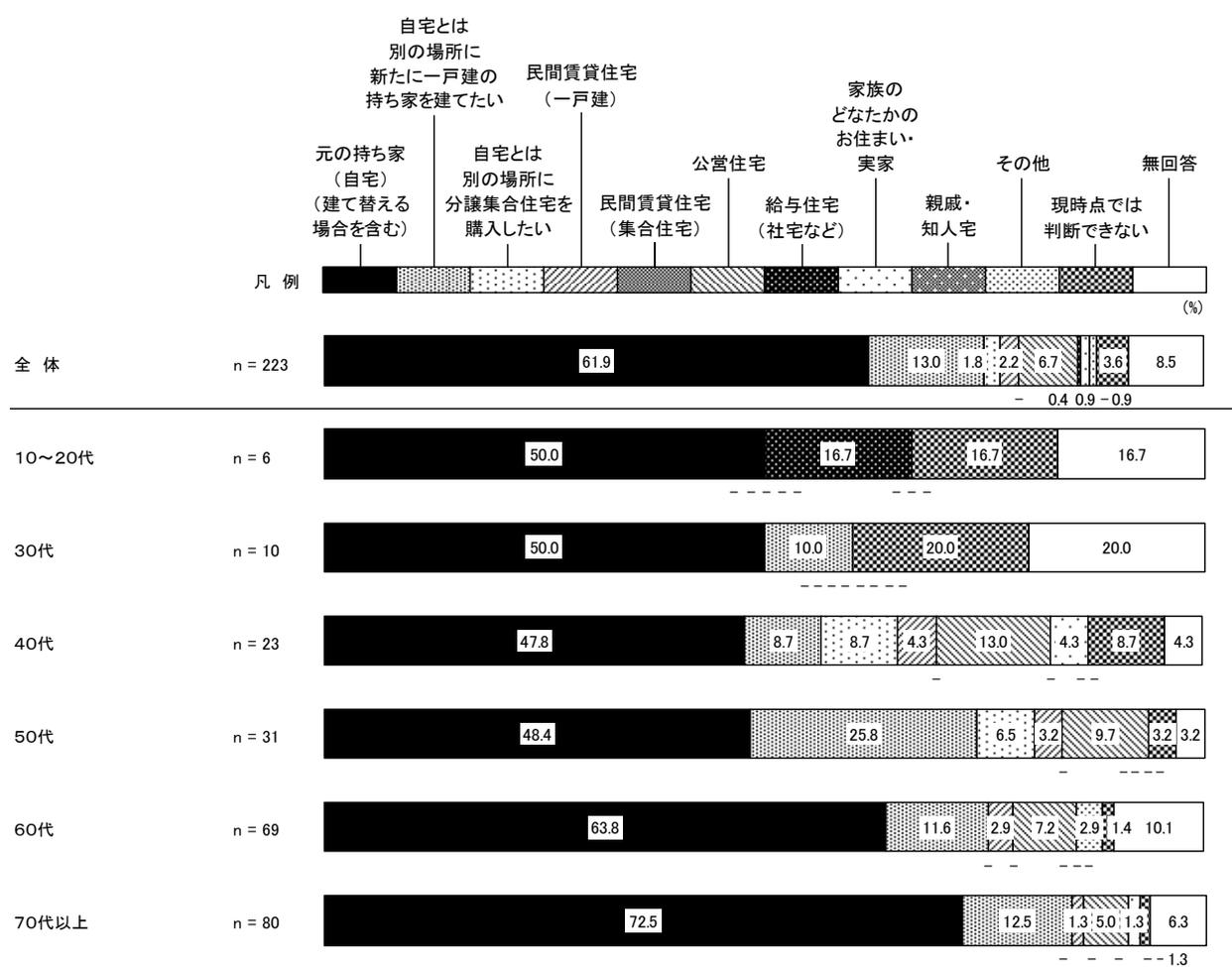
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問9-5 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

双葉町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が61.9%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が13.0%、「公営住宅」が6.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は、60代が63.8%、70代以上が72.5%となっている。一方、「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」は50代が25.8%と他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-5-1 双葉町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>

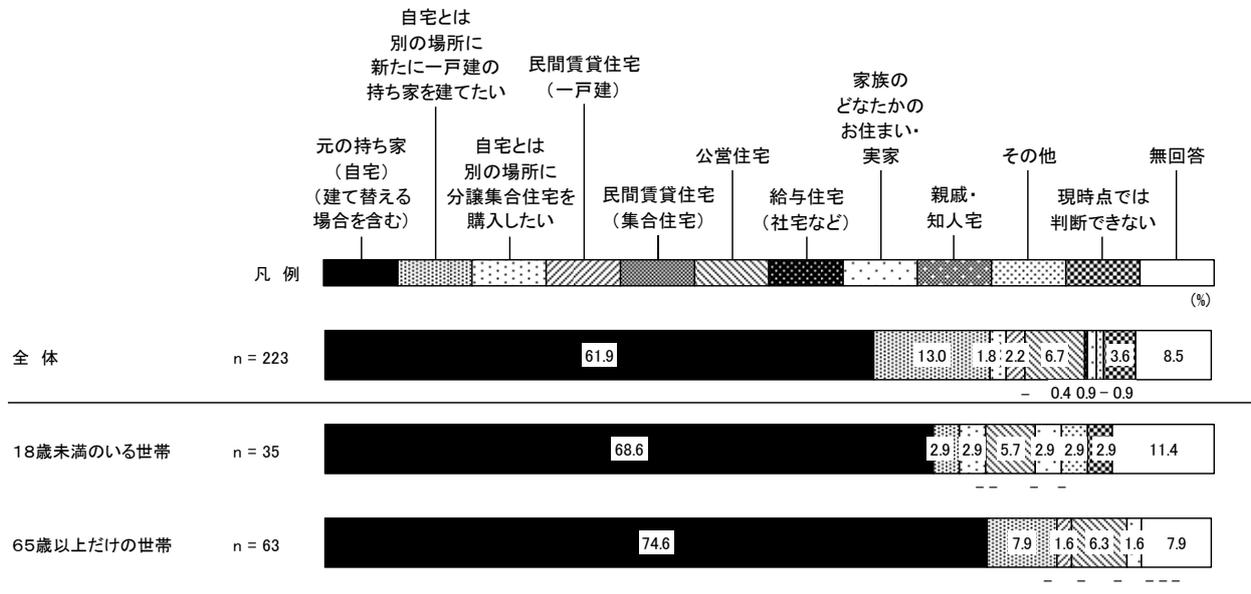


III 調査結果

世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」、概ねの行政区で最も高くなっている。

＜図表3-3-5-2 双葉町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-3-5-3 双葉町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

行政区別	n	元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)	新たな戸建の持ち家を建てたい	民間賃貸住宅(戸建)	民間賃貸住宅(集合住宅)	公営住宅	給与住宅(社宅など)	家族のどなたかのお住まい・実家	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	223	61.9	13.0	1.8	2.2	6.7	0.4	0.9	0.9	3.6	8.5
新山	34	61.8	17.6	2.9	-	5.9	-	-	-	5.9	5.9
下条	18	50.0	5.6	5.6	-	16.7	-	5.6	-	5.6	11.1
郡山	14	50.0	35.7	-	-	7.1	-	-	7.1	-	-
細谷	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3
三字	21	85.7	4.8	-	-	9.5	-	-	-	-	-
山田	23	82.6	4.3	-	-	4.3	-	-	-	-	8.7
石熊	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3
長塚一	30	60.0	10.0	-	3.3	6.7	3.3	-	-	10.0	6.7
長塚二	14	35.7	14.3	14.3	21.4	7.1	-	-	-	-	7.1
下長塚	11	54.5	36.4	-	-	9.1	-	-	-	-	-
羽鳥	15	80.0	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-	6.7
寺松	7	71.4	-	-	-	-	-	-	14.3	-	14.3
洪川	7	42.9	-	-	-	-	-	-	-	14.3	42.9
鴻草	8	62.5	25.0	-	-	-	-	12.5	-	-	-
中田	5	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
両竹	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
浜野	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3
その他	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

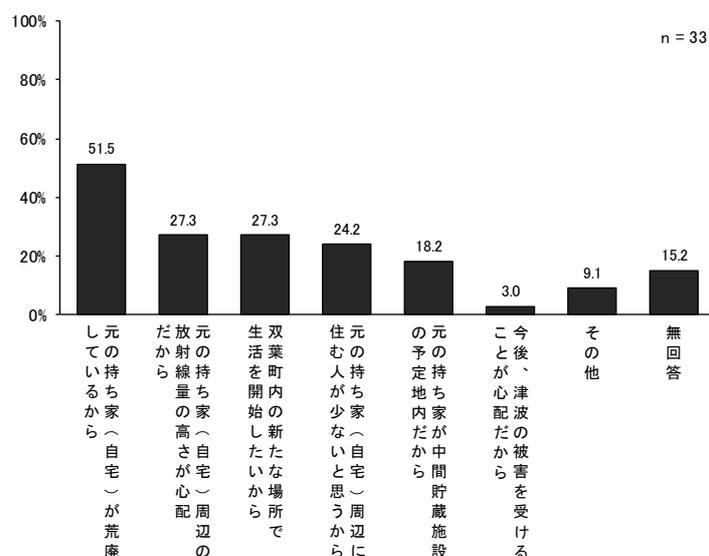
3-3-6 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問9-5で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が51.5%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから」がそれぞれ27.3%となっている。

<図表3-3-6-1 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



<図表3-3-6-2 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	持ち家（一戸建）	持ち家（マンションなど）	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（マンションなど）	復興公営住宅	公営住宅（原発避難者向け）	除く通常の都道府県営住宅	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚または知人宅	その他	無回答
全体	920	67.1	5.3	1.7	5.5	6.1	1.1	0.2	3.4	0.7	2.1	6.8	
新山	144	59.7	4.2	1.4	4.9	11.1	-	-	6.9	-	3.5	8.3	
下条	64	81.3	1.6	1.6	1.6	7.8	-	-	1.6	-	-	4.7	
郡山	54	77.8	3.7	-	1.9	-	1.9	-	1.9	1.9	3.7	7.4	
細谷	25	72.0	4.0	-	-	4.0	4.0	-	-	-	8.0	8.0	
三字	115	64.3	3.5	-	9.6	9.6	1.7	-	3.5	-	4.3	3.5	
山田	50	76.0	2.0	2.0	10.0	4.0	2.0	-	-	-	-	4.0	
石熊	22	81.8	-	-	-	9.1	4.5	-	4.5	-	-	-	
長塚一	146	65.8	8.2	4.1	4.8	4.8	0.7	-	2.1	0.7	0.7	8.2	
長塚二	107	62.6	10.3	-	9.3	5.6	0.9	0.9	3.7	1.9	0.9	3.7	
下長塚	25	64.0	12.0	4.0	12.0	-	-	-	-	-	-	8.0	
羽鳥	41	68.3	7.3	2.4	4.9	4.9	-	-	2.4	2.4	-	7.3	
寺松	22	50.0	4.5	-	-	9.1	9.1	-	-	-	4.5	22.7	
渋川	13	84.6	-	-	-	-	-	7.7	-	-	-	7.7	
鴻草	38	68.4	5.3	2.6	-	2.6	-	-	10.5	2.6	2.6	5.3	
中田	7	57.1	-	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	14.3	
両竹	8	87.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
浜野	23	65.2	-	4.3	4.3	-	-	-	4.3	-	-	21.7	
その他	9	33.3	22.2	-	22.2	11.1	-	-	-	-	11.1	-	
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

3-3-7 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

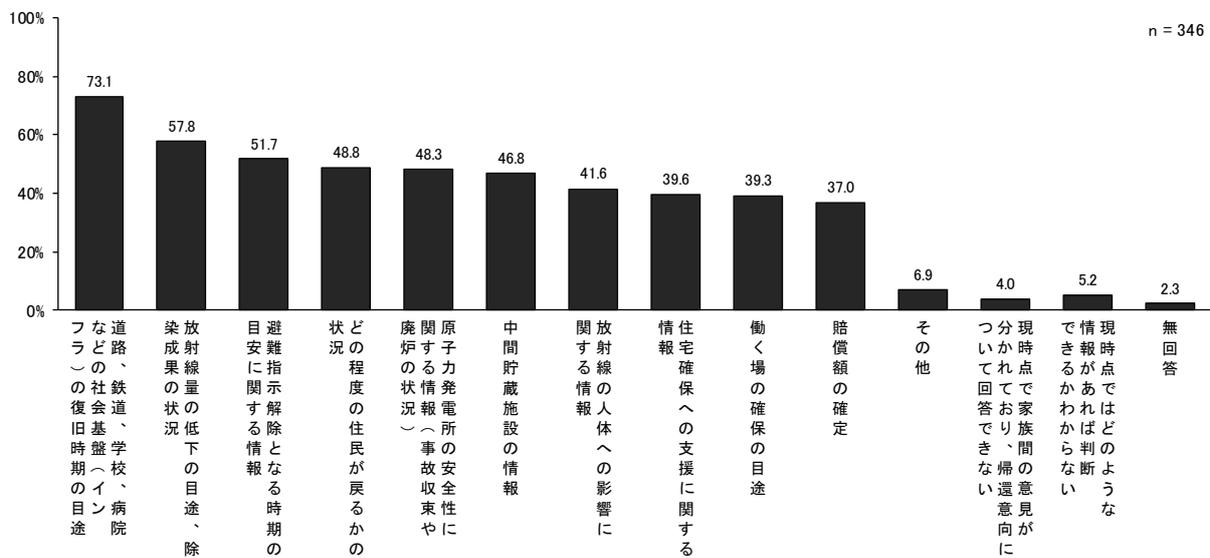
(1) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問9で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問9-2-1 双葉町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

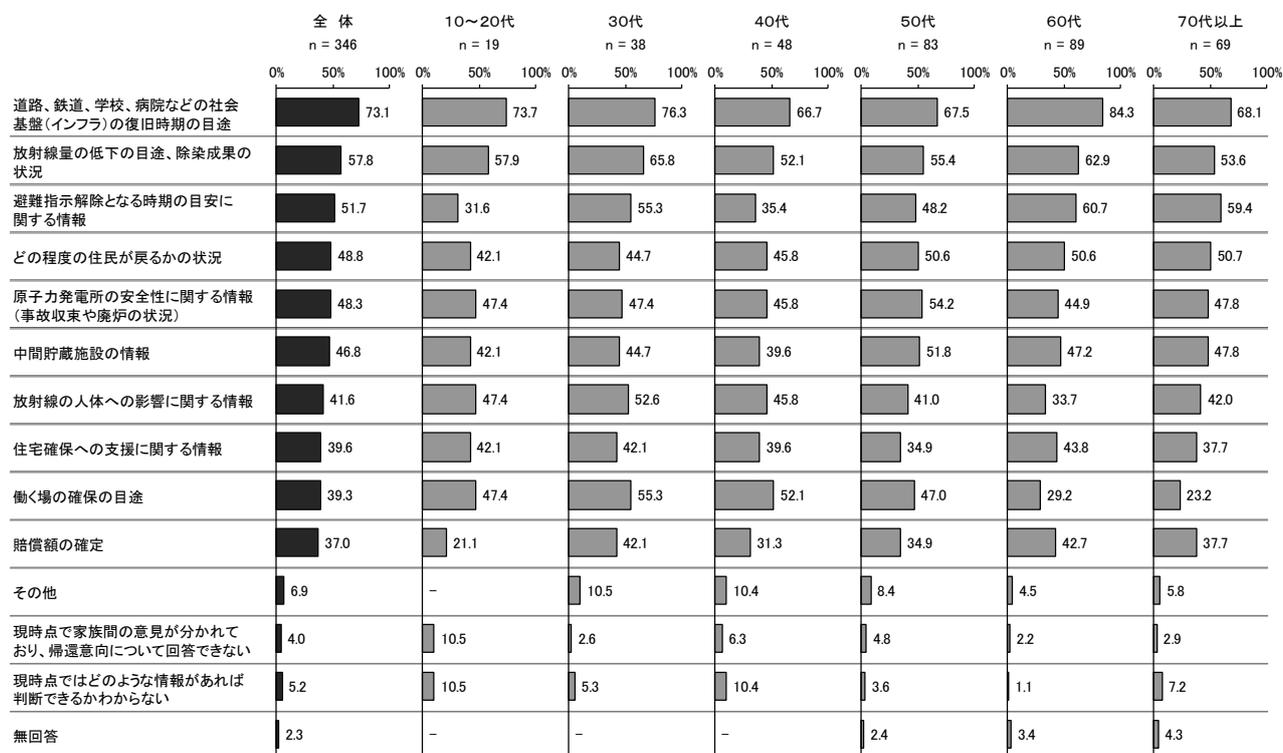
双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が73.1%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が57.8%、「避難指示解除となる時期の目安に関する情報」が51.7%となっている。

＜図表3-3-7-1 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



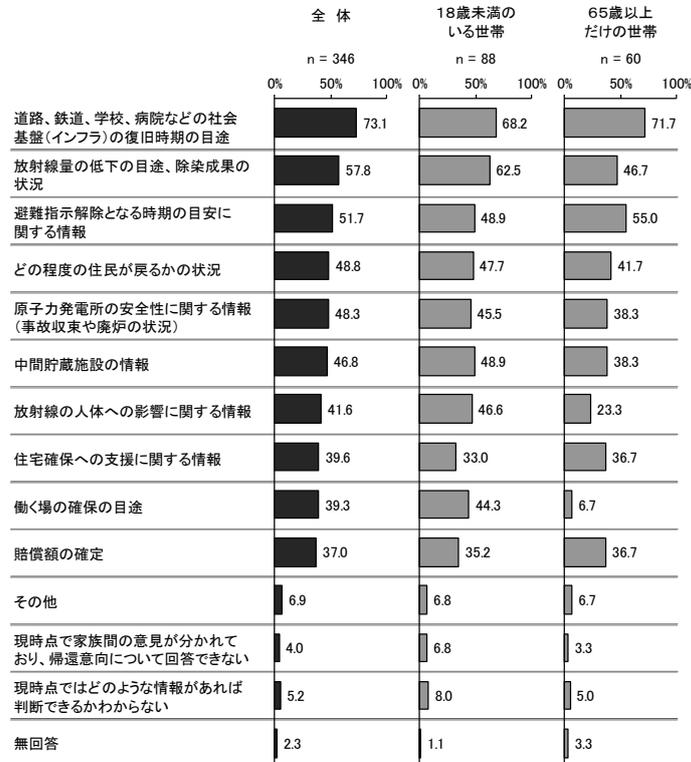
回答者の年齢別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」は全ての年齢で最も高くなっている。他に「放射線量の低下の目処、除染成果の状況」は30代（65.8%）、60代（62.9%）、「働く場の確保の目途」は30代（55.3%）、40代（52.1%）、50代（47.0%）となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-7-2 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-7-3 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>



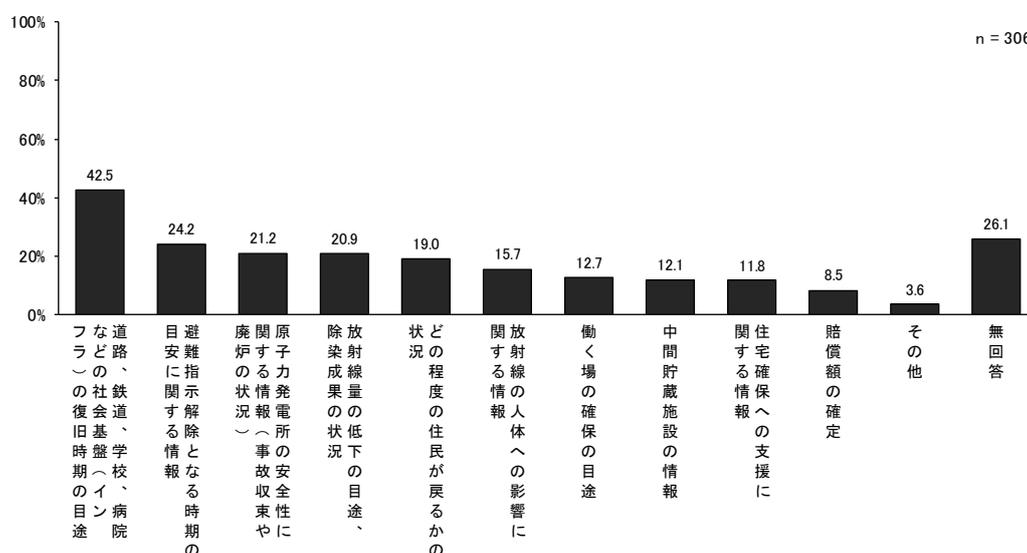
(2) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問9で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問9-2-2 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（問9-2-1）のうち、重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が42.5%と最も高く、次いで「避難指示解除となる時期の目安に関する情報」が24.2%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が21.2%となっている。

<図表3-3-7-4 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視したいもの（3つまで）>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途]

- ・スーパー、病院、飲食店、銀行、コンビニが営業したら。（30代）
- ・総合病院と個人病院が最低でも1つずつ（夜間救急で遠くに行くリスクを減らす為）。（40代）
- ・上下水道の安全性・病院・店等の確保。（50代）
- ・生活用品の購入環境が整うこと。（50代）
- ・道路と病院などの復旧がいつ頃になるか。（60代）
- ・インフラの復旧の確実な時期（年、月、日）。（70代以上）

Ⅲ 調査結果

[避難指示解除となる時期の目安に関する情報]

- 帰れる地区から帰れるように具体的に行政が活動すること。(50代)
- いつ解除になるのか明確に示す必要がある。(60代)
- 時期がわからないと帰る帰らないの判断がつかない。(60代)
- 除染開始の時期、除染目標レベル、除染完了時期。(60代)
- 年齢的に、時間が無いので、早期に解除時期を知りたい。(60代)
- 安心して帰還できる条件が、全て整うこと。(70代以上)

[原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)]

- 一般の人でも分かるような情報。(10~20代)
- 廃炉完了。(30代)
- 廃炉工事による再び放射能放出・拡散が無いと保証できる事。(50代)
- 収束や廃炉が進み、放射線の発生が無くなって、安心安全になる。(60代)
- 廃炉になるまで、デブリを取り出し、それをどこに保管するのか。(60代)
- 廃炉作業中の安全性や廃炉完了時期が不明。(70代以上)

3-3-8 双葉町との“つながり”を保ちたいか

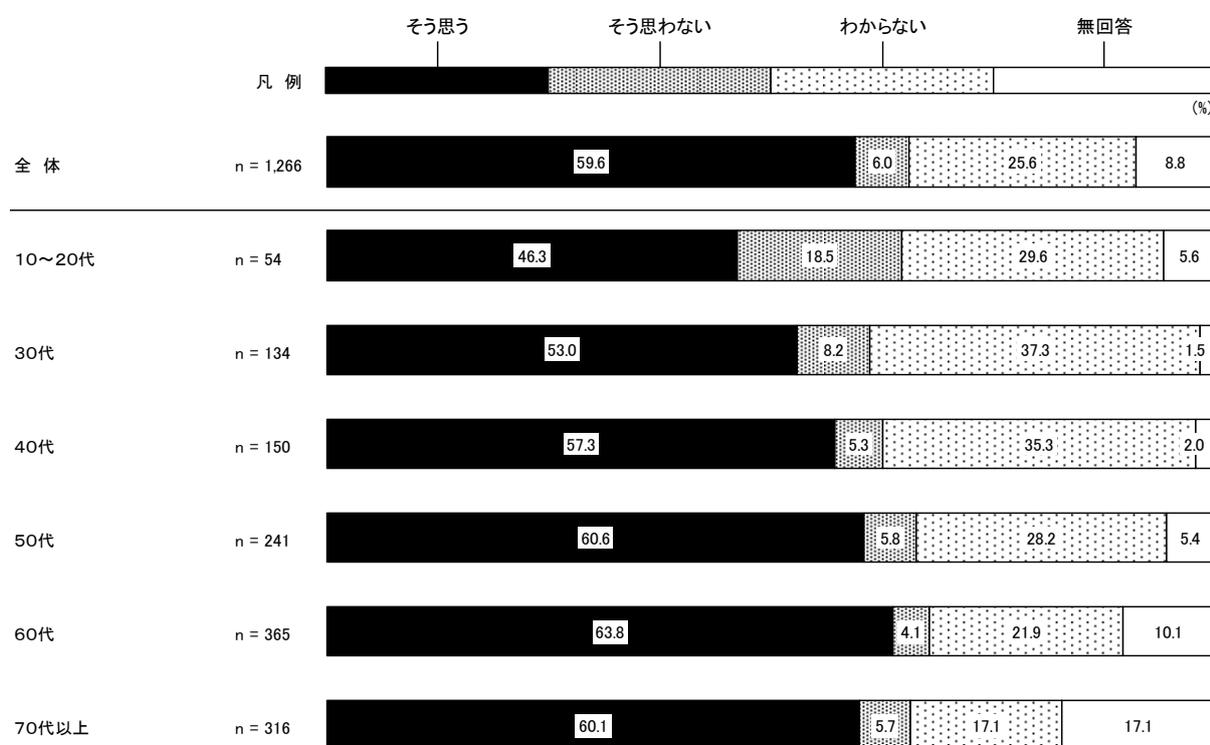
【問9で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問9-3 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

双葉町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が59.6%と最も高く、次いで「わからない」が25.6%、「そう思わない」が6.0%となっている。

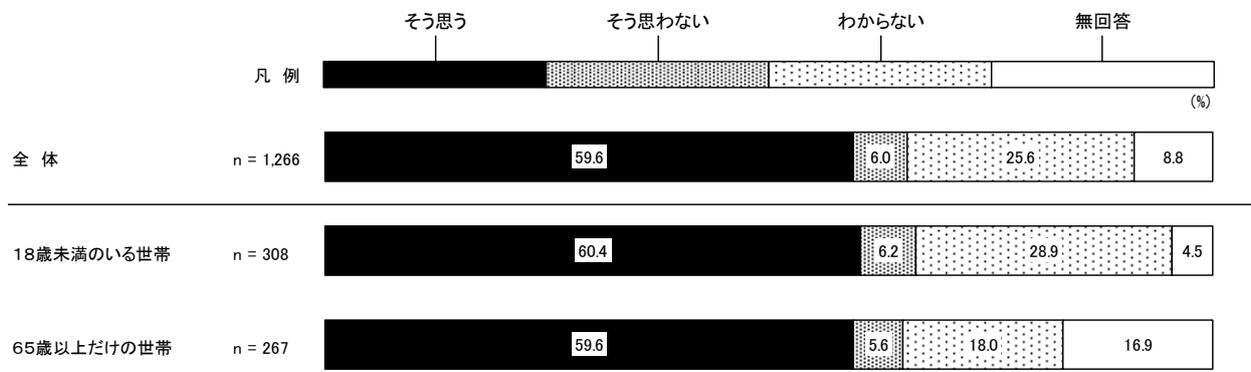
回答者の年齢別にみると、「そう思う」は10～20代が46.3%と半数を下回るが、30代以降は「そう思う」が半数以上を占める。

<図表3-3-8-1 双葉町との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>

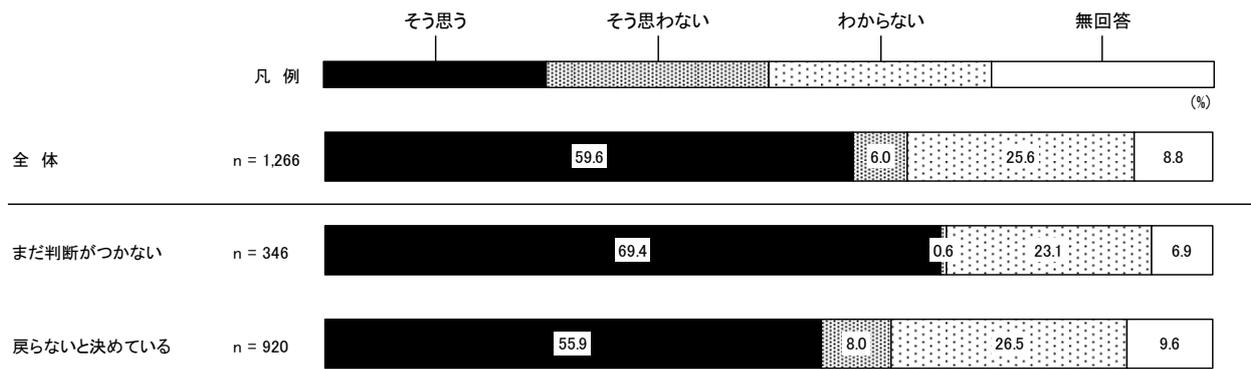


世帯構成別にみると、「そう思う」はいずれの世帯構成でも半数以上を占める。
 双葉町の帰還意向別にみると、「そう思う」はいずれの帰還意向でも半数以上を占める。

<図表3-3-8-2 双葉町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



<図表3-3-8-3 双葉町との“つながり”を保ちたいか（双葉町への帰還意向別）>



3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

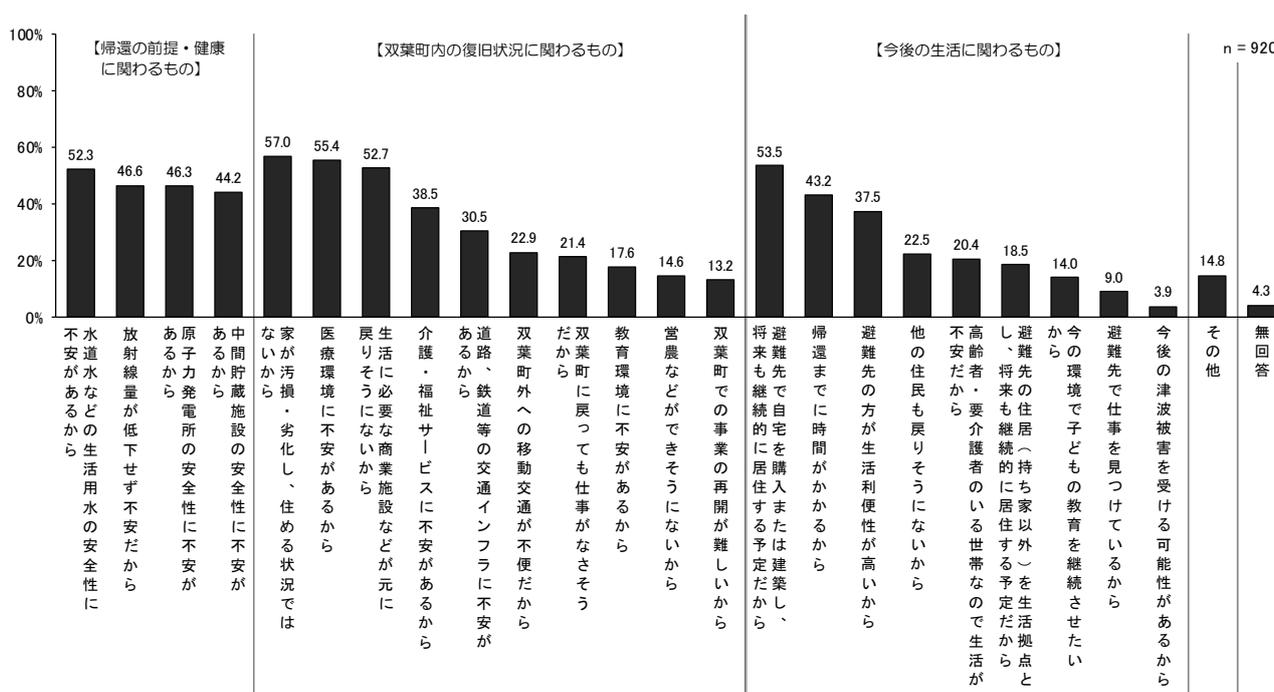
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方うかがいます。】

問9-7 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援についてお答えください。

(1) 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が52.3%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が46.6%、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が46.3%となっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が57.0%と最も高く、次いで「医療環境に不安があるから」が55.4%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が52.7%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから」が53.5%と最も高く、次いで「帰還までに時間がかかるから」が43.2%、「避難先の方が生活利便性が高いから」が37.5%となっている。

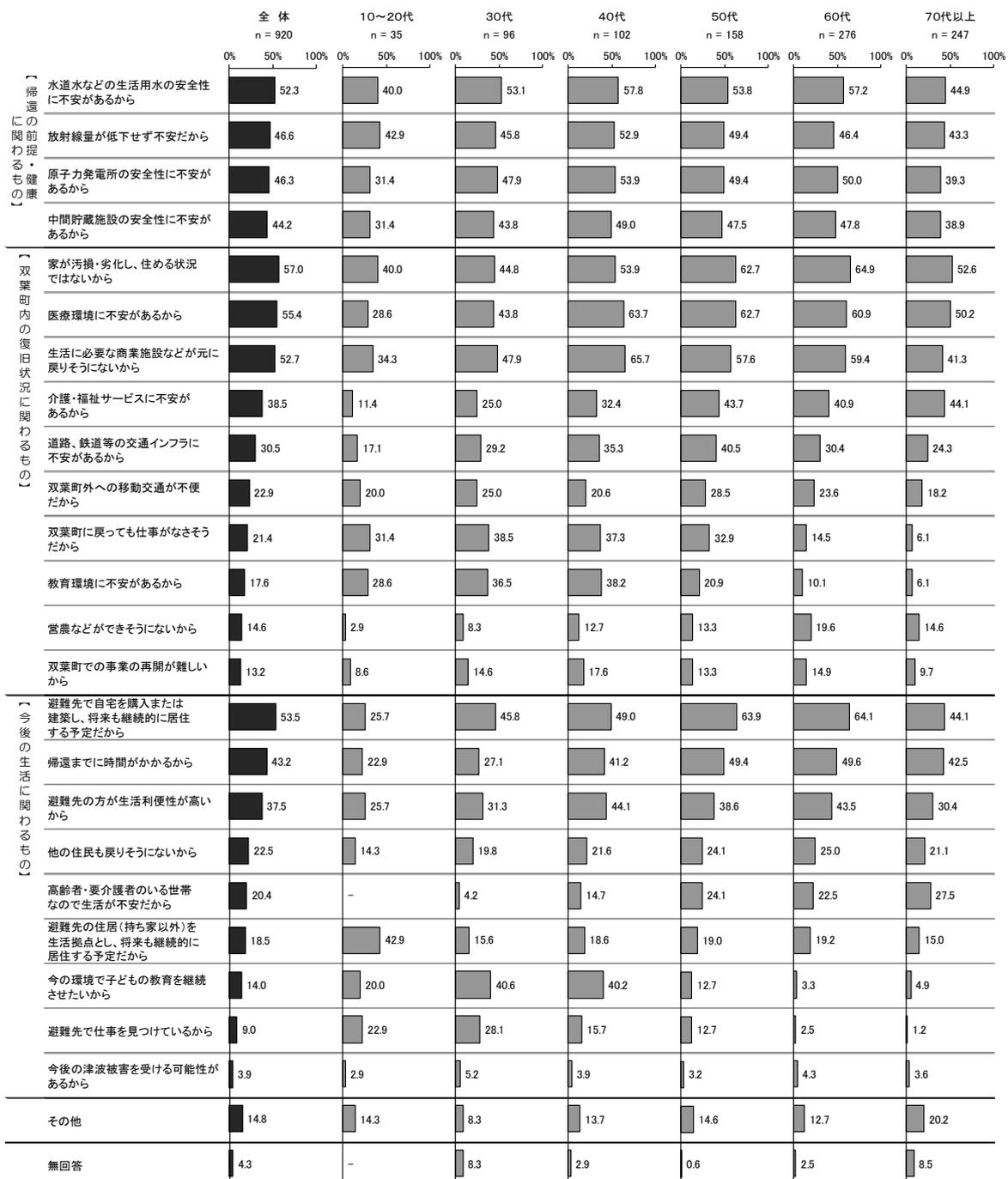
<図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由>



III 調査結果

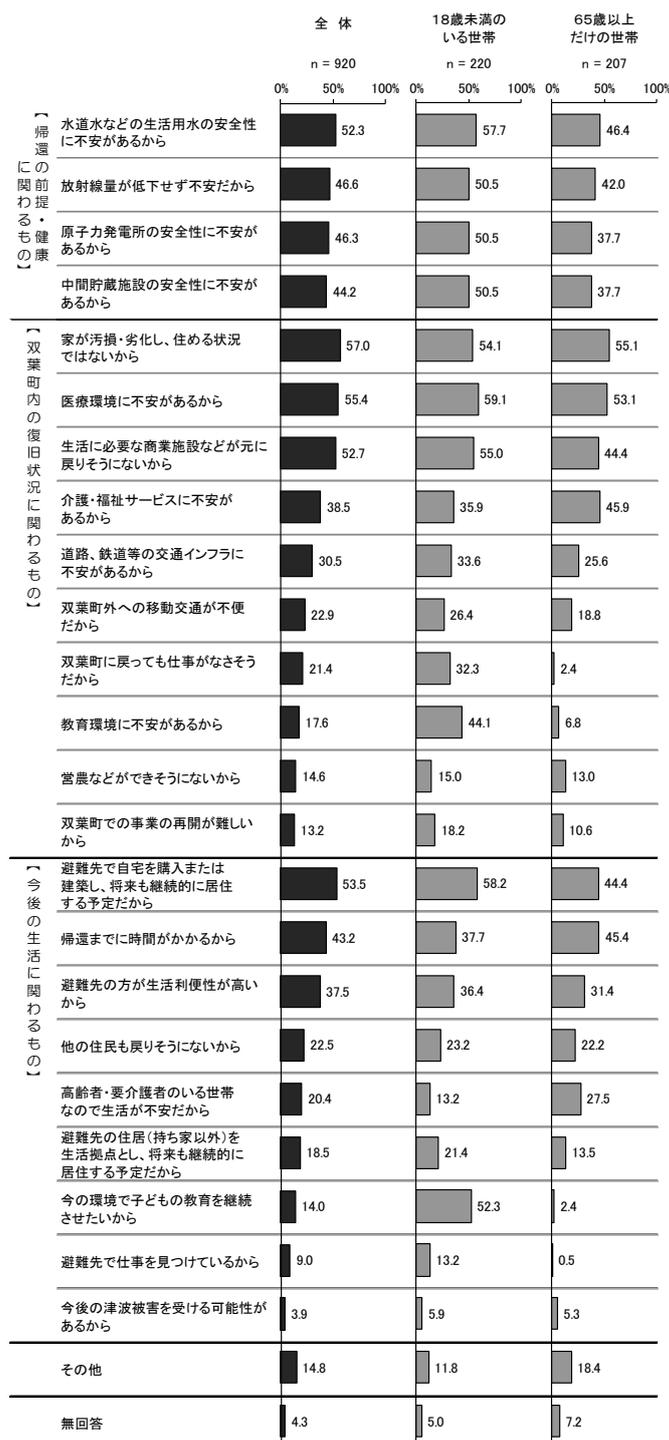
回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」は40代はいずれも半数以上を占めており、他の年齢と比べ高くなっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は50代（62.7%）、60代（64.9%）で、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は40代（65.7%）、60代（59.4%）で、他の年齢と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから」は50代（63.9%）、60代（64.1%）、「帰還までに時間がかかるから」は50代（49.4%）、60代（49.6%）で、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代（40.6%）、40代（40.2%）で、「避難先で仕事を見つけているから」は10～20代（22.9%）、30代（28.1%）で、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）＞



世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯はいずれも5割を超えており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯は「双葉町に戻っても仕事がなさそうだから」が32.3%、「教育環境に不安があるから」が44.1%と、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯が27.5%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18歳未満のいる世帯が52.3%となっており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



3-3-10 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

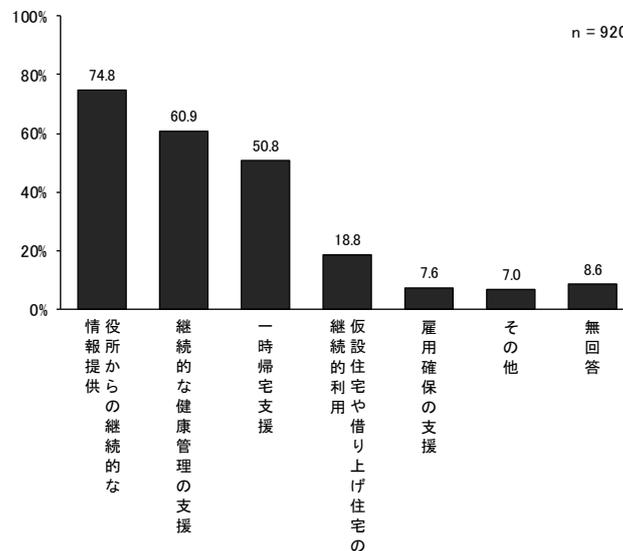
問9-7 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援についてお答えください。

(2) 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。
(〇はいくつでも)

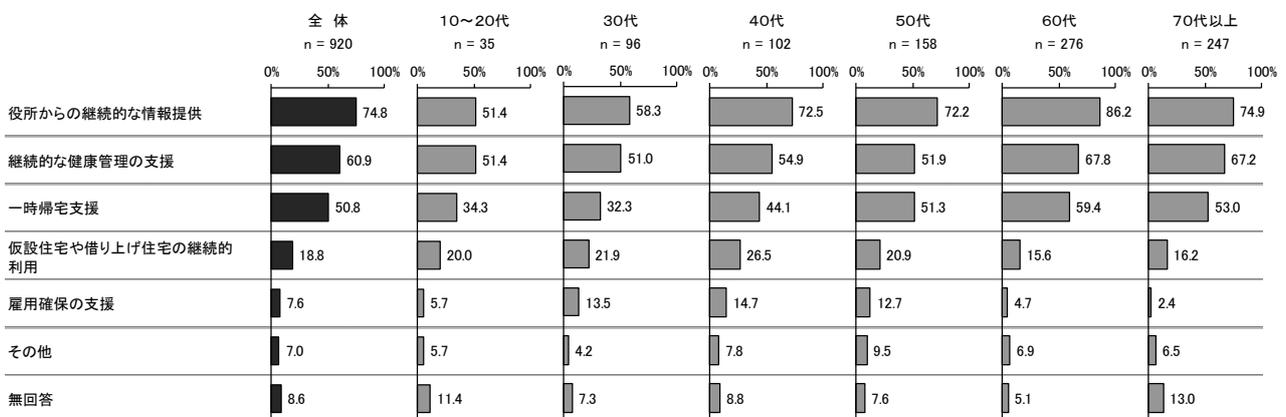
帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「役所からの継続的な情報提供」が74.8%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が60.9%、「一時帰宅支援」が50.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「役所からの継続的な情報提供」は、全ての年齢で半数以上を占め、40代以上は7割を超える。

<図表3-3-10-1 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>

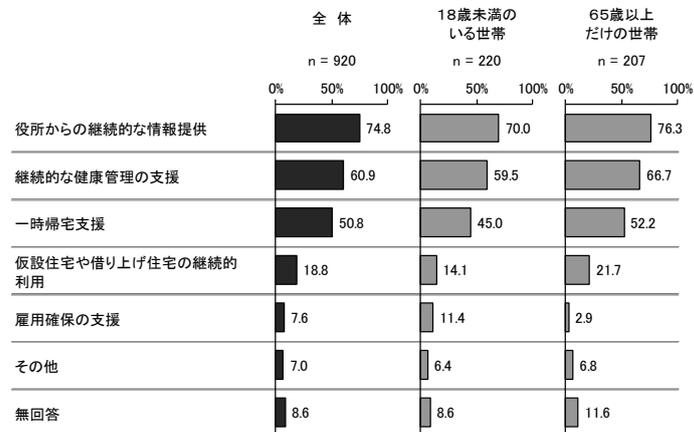


<図表3-3-10-2 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、「役所からの継続的な情報提供」は、世帯構成による違いはあまり見られない。「継続的な健康管理の支援」は、18歳未満のいる世帯は59.5%、65歳以上だけの世帯は66.7%となっている。

<図表3-3-10-3 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



3-3-11 帰還しない場合に居住を希望する自治体

(1) 帰還しない場合に居住を希望する自治体

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

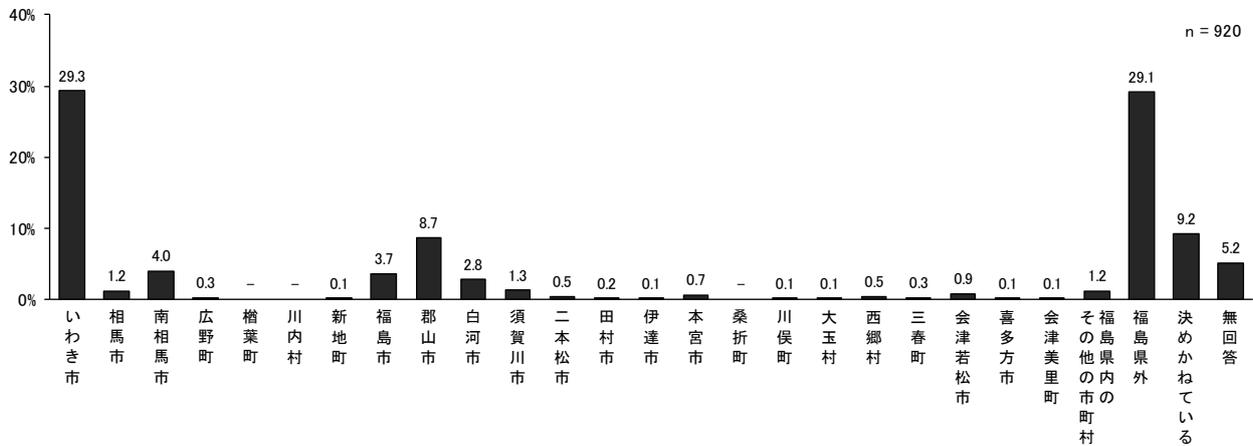
問9-8 居住について教えてください。

(1) 帰還しない場合に、将来的に、居住を希望する（既に居住している場合を含む）自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（○は1つ）

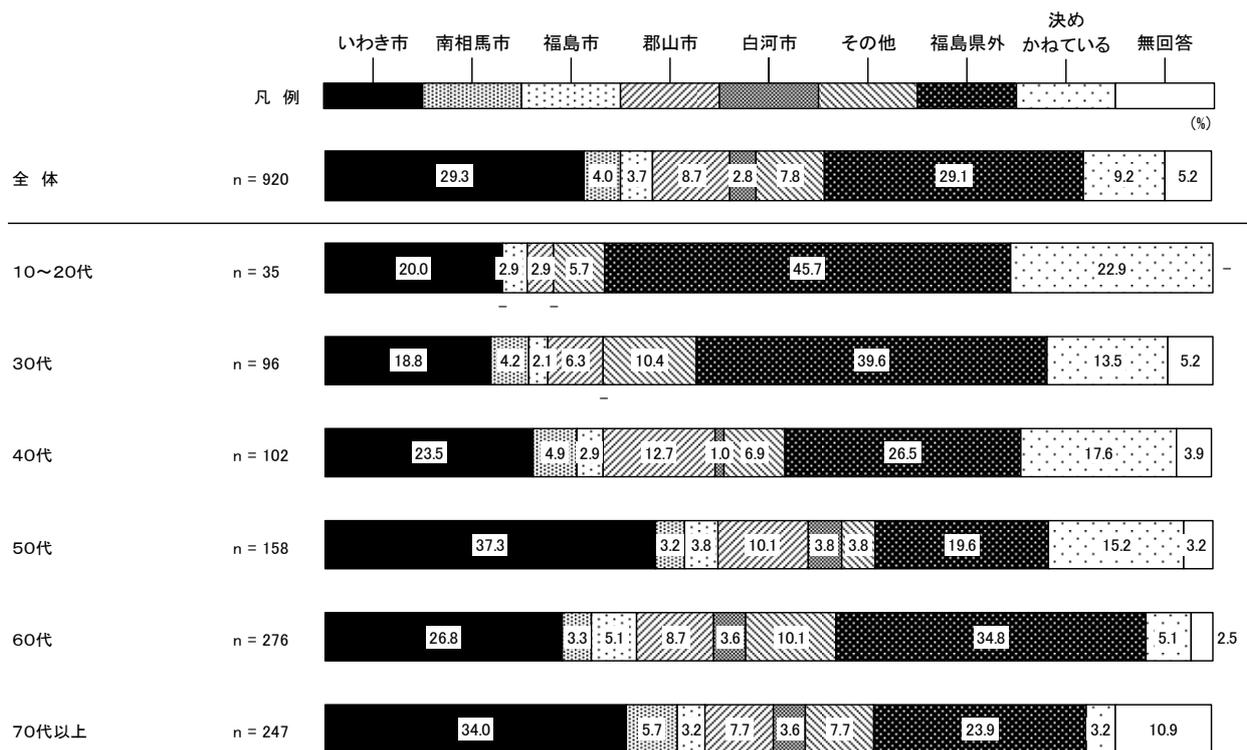
帰還しない場合に居住を希望する自治体については、「いわき市」が29.3%と最も高く、次いで「福島県外」が29.1%、「決めかねている」が9.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「いわき市」は、50代（37.3%）、70代以上（34.0%）で、「福島県外」は、10～20代（45.7%）、30代（39.6%）、60代（34.8%）で他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-11-1 帰還しない場合に居住を希望する自治体>



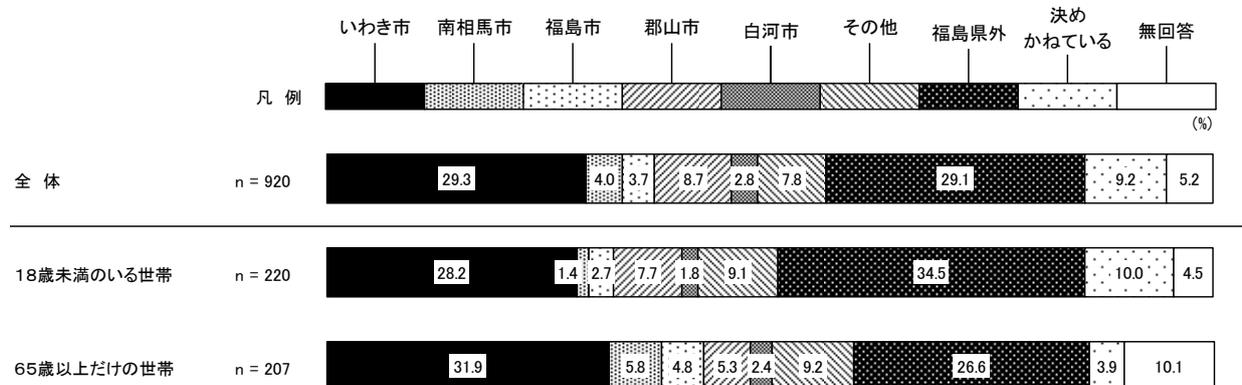
<図表3-3-11-2 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（年齢別）>



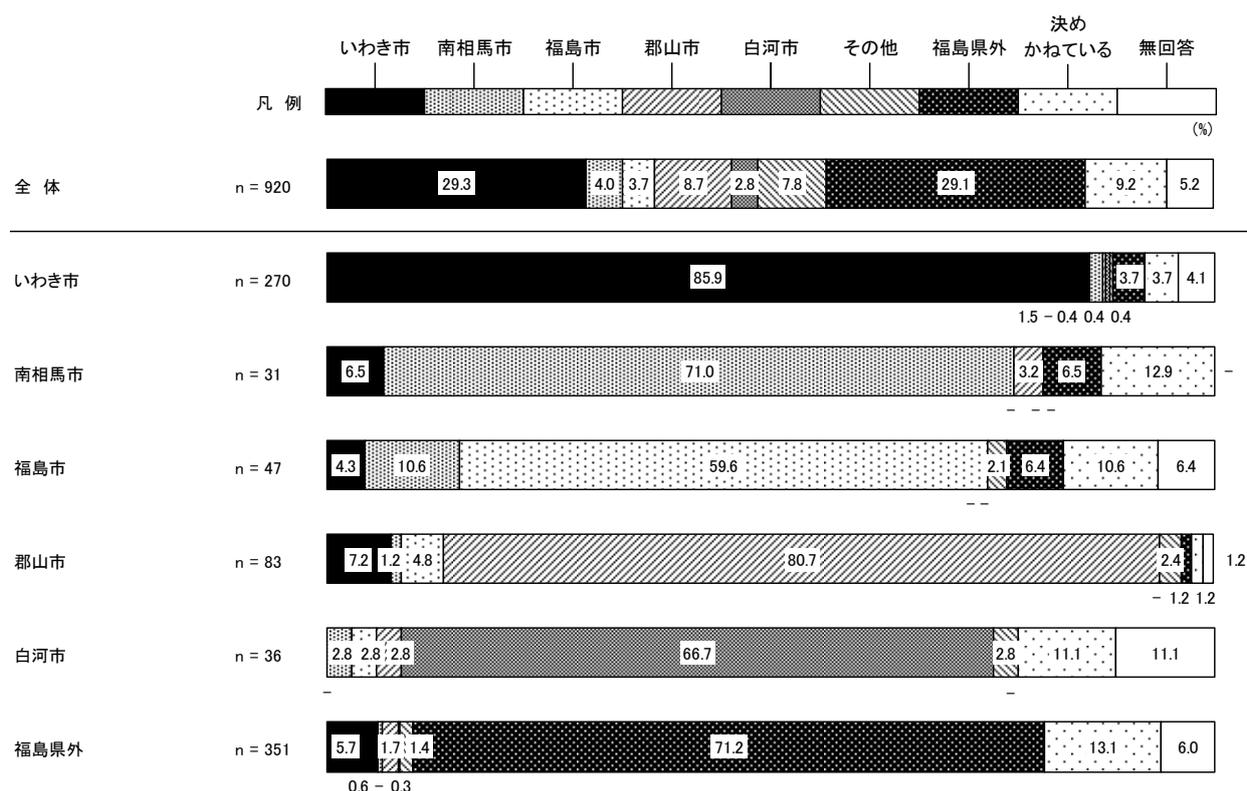
世帯構成別にみると、「いわき市」は、世帯構成による違いはあまり見られない。「福島県外」は、18歳未満のいる世帯が34.5%となっており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、全ての自治体で同じ自治体での居住を希望する割合が高くなっている。

＜図表3-3-11-3 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（世帯構成別）＞



＜図表3-3-11-4 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）＞



(2) 帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名

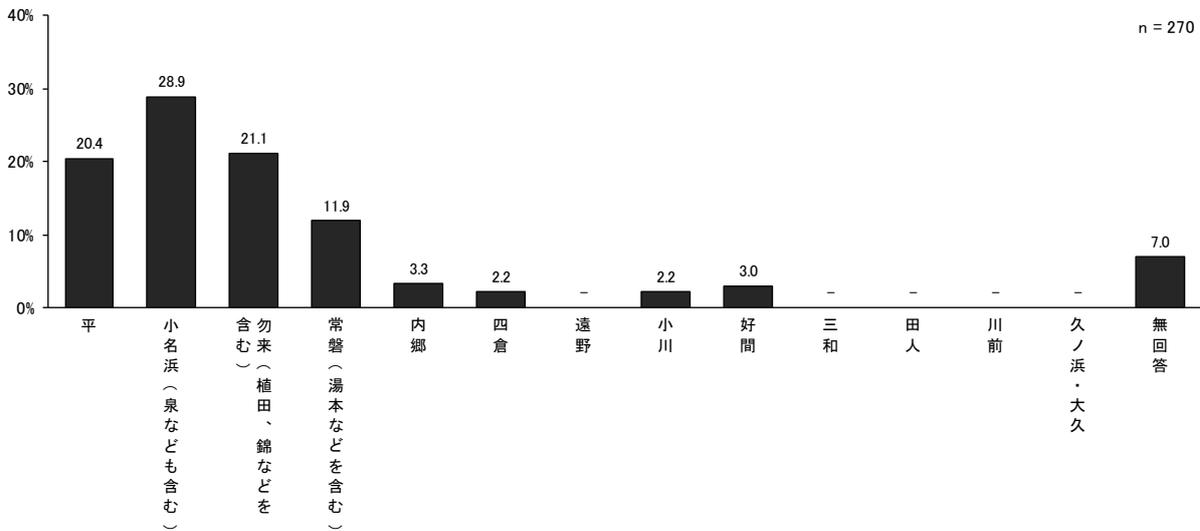
【問8-6で「3. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問8-9 (1) 当面の避難先または定住先として、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

※いわき市については地区名を教えてください。(〇は1つ)

帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名については、「小名浜（泉なども含む）」が28.9%と最も高く、次いで「勿来（植田、錦などを含む）」が21.1%、「平」が20.4%となっている。

<図表3-3-11-5 帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名>



<図表3-3-11-6 帰還しない場合に居住を希望するいわき市の地区名（主な避難先自治体別）>

	n	(%)								
		平	小名浜 (泉なども含む)	勿来 (植田、錦などを含む)	常磐 (湯本などを含む)	内郷	四倉	小川	好間	無回答
全体	270	20.4	28.9	21.1	11.9	3.3	2.2	2.2	3.0	7.0
いわき市	232	20.7	29.7	21.6	11.6	3.9	2.6	2.2	2.2	5.6
南相馬市	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
福島市	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-
郡山市	6	16.7	16.7	33.3	-	-	-	-	16.7	16.7
白河市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県外	20	10.0	25.0	15.0	20.0	-	-	-	5.0	25.0

3-3-12 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方うかがいます。】

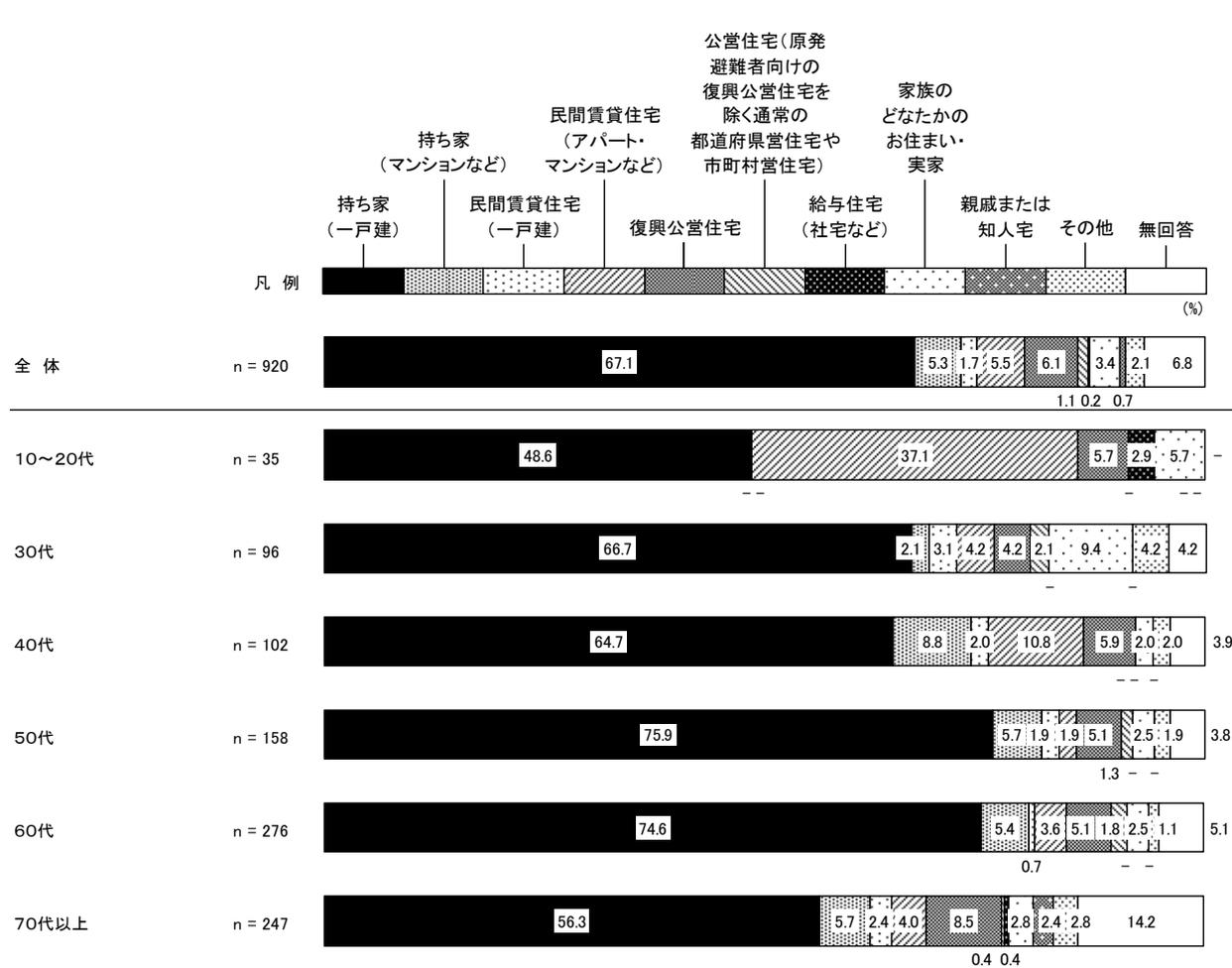
問9-8 居住について教えてください。

(2) 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が67.1%と最も高く、「持ち家（マンションなど）」（5.3%）を合わせた<持ち家>は72.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、30～60代では7割前後を占める。一方、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」は、10～20代では37.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-12-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）>

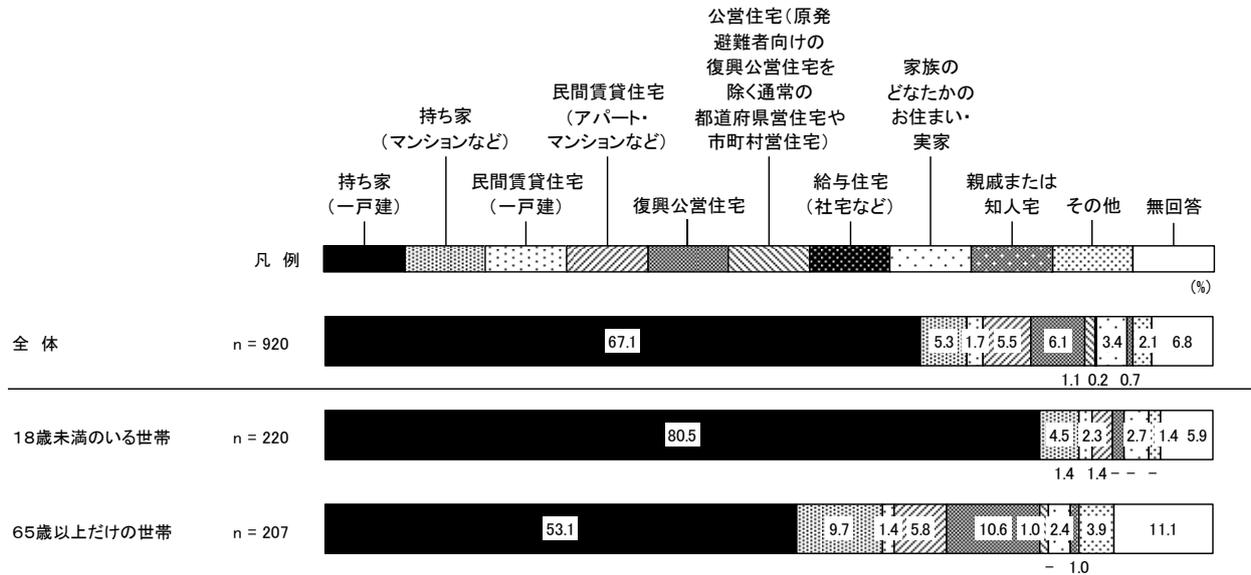


III 調査結果

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「持ち家（一戸建）」が80.5%と、65歳以上の世帯と比べ高くなっている。

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、全ての行政区で「持ち家（一戸建）」の割合が最も高くなっている。

＜図表3-3-12-2 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（世帯構成別）＞



＜図表3-3-12-3 帰還しない場合に居住を希望する主な自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

	n	持ち家(一戸建)	持ち家(マンション)	民間賃貸住宅(一戸建)	民間賃貸住宅(マンション)	復興公営住宅	公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く通常の都道府県営住宅や市町村営住宅)	給与住宅(社宅など)	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚または知人宅	その他	無回答
全体	920	67.1	5.3	1.7	5.5	6.1	1.1	0.2	3.4	0.7	2.1	6.8
新山	144	59.7	4.2	1.4	4.9	11.1	-	-	6.9	-	3.5	8.3
下条	64	81.3	1.6	1.6	1.6	7.8	-	-	1.6	-	-	4.7
郡山	54	77.8	3.7	-	1.9	-	1.9	-	1.9	1.9	3.7	7.4
細谷	25	72.0	4.0	-	-	4.0	4.0	-	-	-	8.0	8.0
三字	115	64.3	3.5	-	9.6	9.6	1.7	-	3.5	-	4.3	3.5
山田	50	76.0	2.0	2.0	10.0	4.0	2.0	-	-	-	-	4.0
石熊	22	81.8	-	-	-	9.1	4.5	-	4.5	-	-	-
長塚一	146	65.8	8.2	4.1	4.8	4.8	0.7	-	2.1	0.7	0.7	8.2
長塚二	107	62.6	10.3	-	9.3	5.6	0.9	0.9	3.7	1.9	0.9	3.7
下長塚	25	64.0	12.0	4.0	12.0	-	-	-	-	-	-	8.0
羽鳥	41	68.3	7.3	2.4	4.9	4.9	-	-	2.4	2.4	-	7.3
寺松	22	50.0	4.5	-	-	9.1	9.1	-	-	-	4.5	22.7
渋川	13	84.6	-	-	-	-	-	7.7	-	-	-	7.7
鴻草	38	68.4	5.3	2.6	-	2.6	-	-	10.5	2.6	2.6	5.3
中田	7	57.1	-	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	14.3
両竹	8	87.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-
浜野	23	65.2	-	4.3	4.3	-	-	-	4.3	-	-	21.7
その他	9	33.3	22.2	-	22.2	11.1	-	-	-	-	11.1	-
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

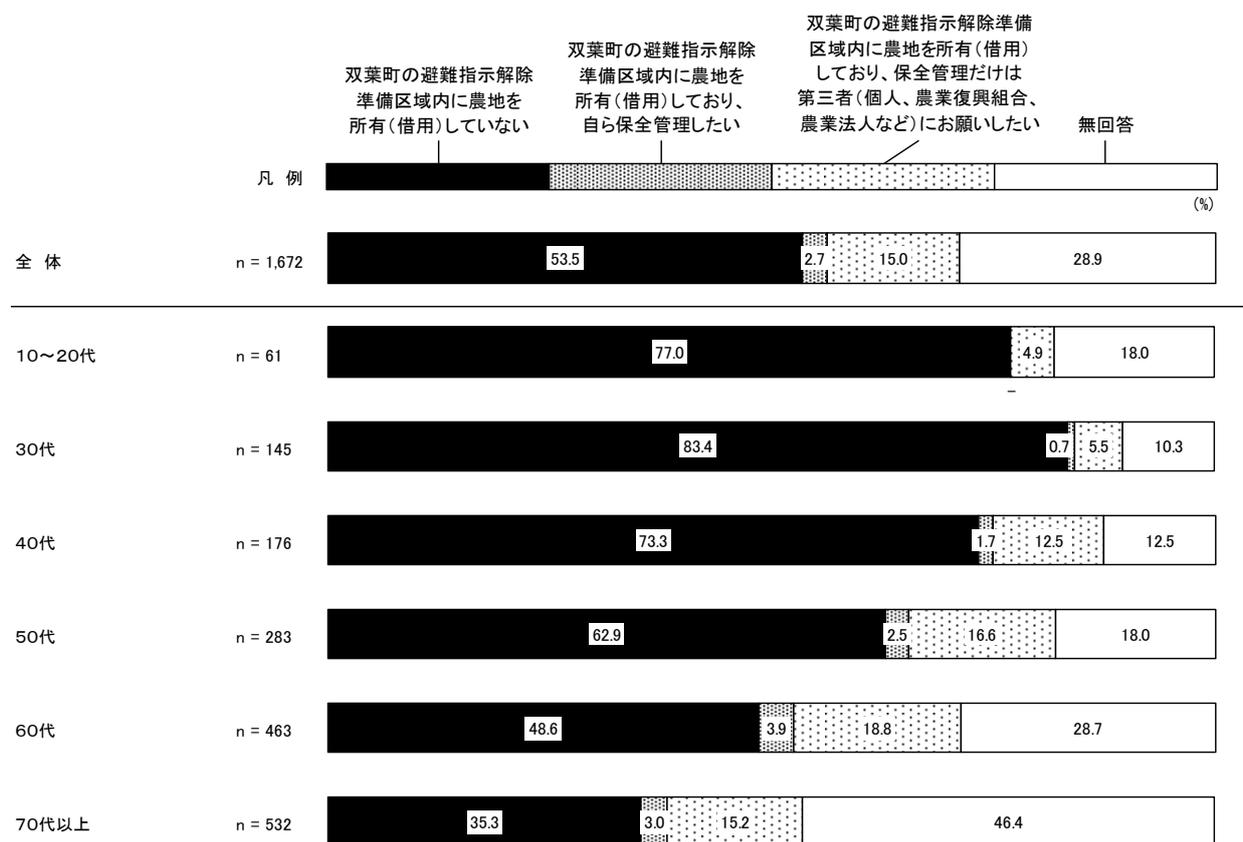
3-3-13 避難指示解除準備区域内の農地の所有・借用及び管理方法の希望

問10 避難指示解除準備区域内における農地の所有・借用の状況と、その管理方法に係る希望についてお聞かせください。(〇は1つ)

避難指示解除準備区域内における農地の所有・借用および管理方法の希望については、「双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有（借用）していない」が53.5%と最も高く、次いで「双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有（借用）しており、保安全管理だけは第三者（個人、農業復興組合、農業法人など）にお願いしたい」が15.0%、「双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有（借用）しており、自ら保安全管理したい」が2.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有（借用）しており、保安全管理だけは第三者（個人、農業復興組合、農業法人など）にお願いしたい」は、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなり、40代以降では1割を超えている。

<図表3-3-13-1 避難指示解除準備区域内における農地の所有・借用および管理方法の希望（年齢別）>



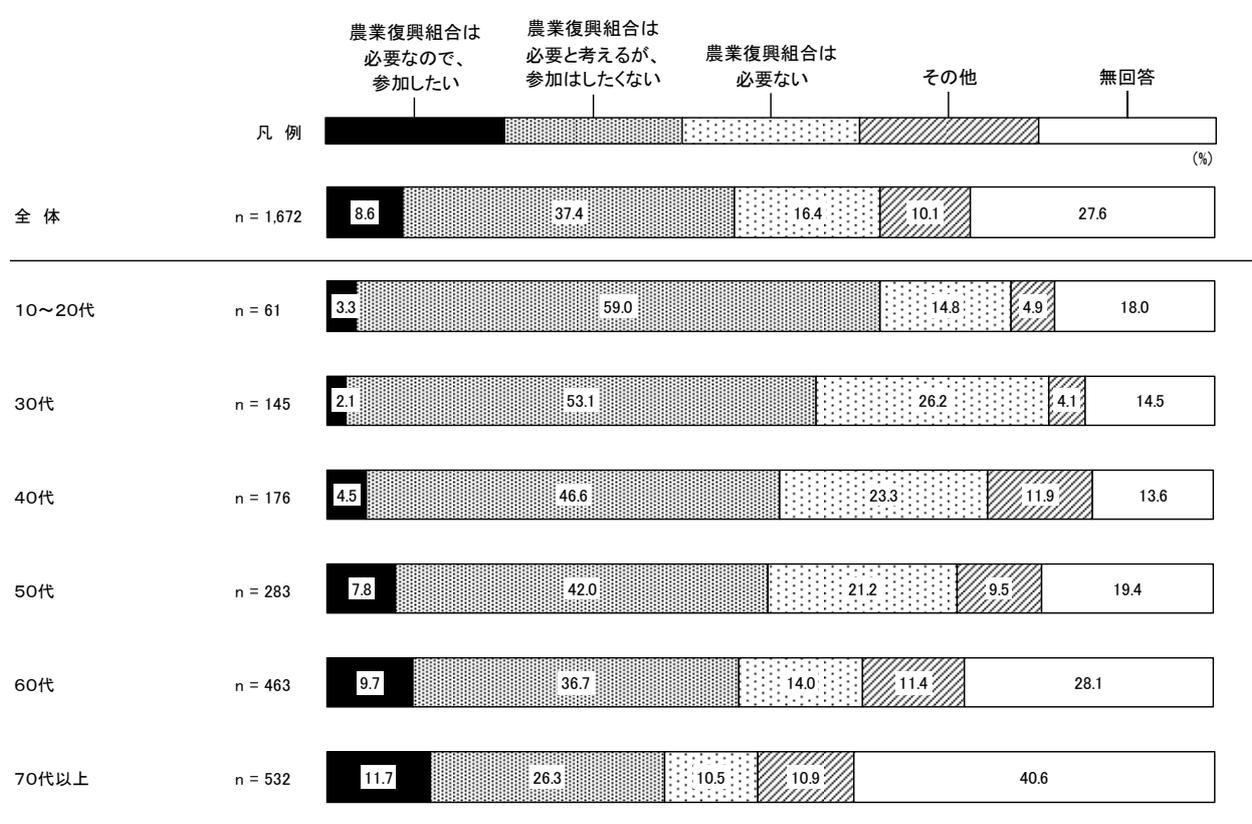
3-3-14 農業復興組合の必要性および参加意向

問10-1 除染後の農地の保全を行うために、農業復興組合は必要と考えますか。また、農業復興組合へ参加したいとお考えですか。(〇は1つ)

農業復興組合の必要性および参加意向については、「農業復興組合は必要と考えるが、参加はしたくない」が37.4%と最も高く、次いで「農業復興組合は必要なので、参加したい」が8.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～30代では「農業復興組合は必要と考えるが、参加はしたくない」が半数以上を占めている。

<図表3-3-14-1 農業復興組合の必要性および参加意向（年齢別）>



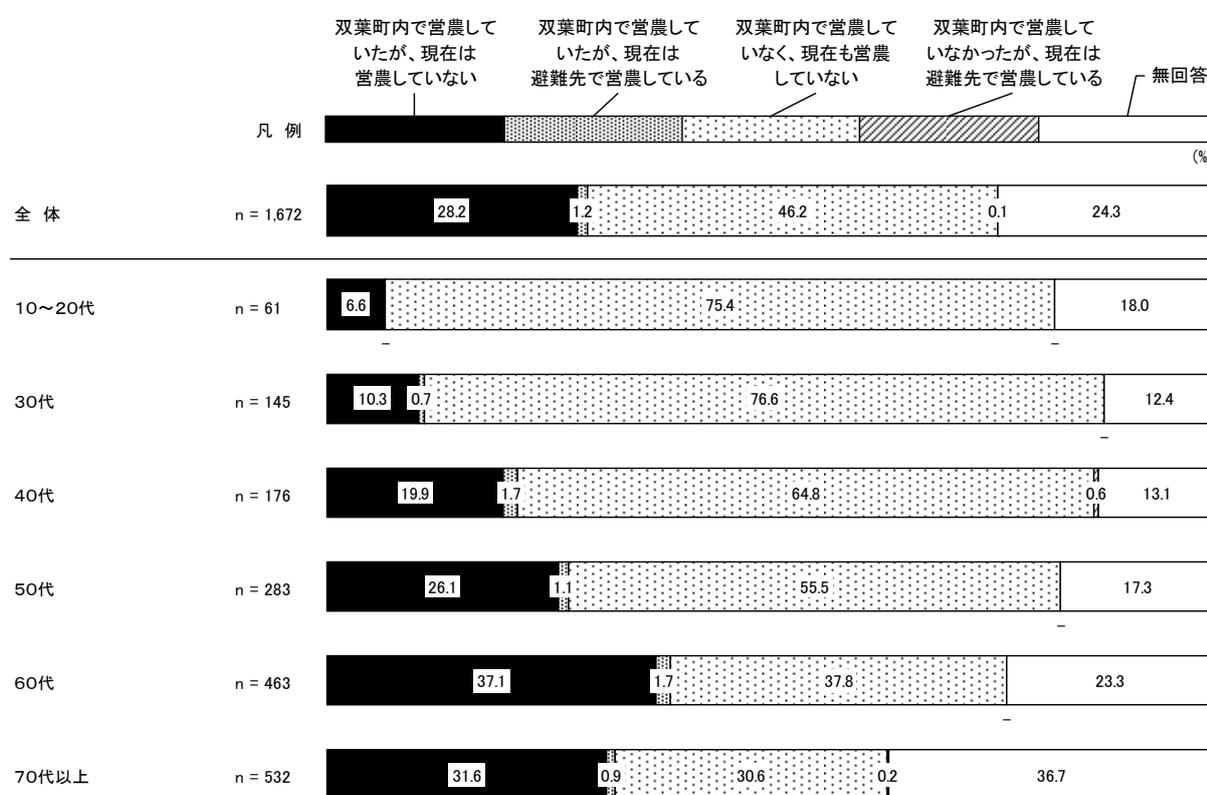
3-3-15 双葉町内での震災発生以前と現在の営農状況

問10-2 震災発生以前の営農状況と現在の営農状況について教えてください。(〇は1つ)

双葉町内での震災発生以前と現在の営農状況については、「双葉町内で営農していなく、現在も営農していない」が46.2%と最も高く、次いで「双葉町内で営農していたが、現在は営農していない」が28.2%、「双葉町内で営農していたが、現在は避難先で営農している」が1.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「双葉町内で営農していたが、現在は営農していない」は60代が37.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-15-1 双葉町内での震災発生以前と現在の営農状況(年齢別)>



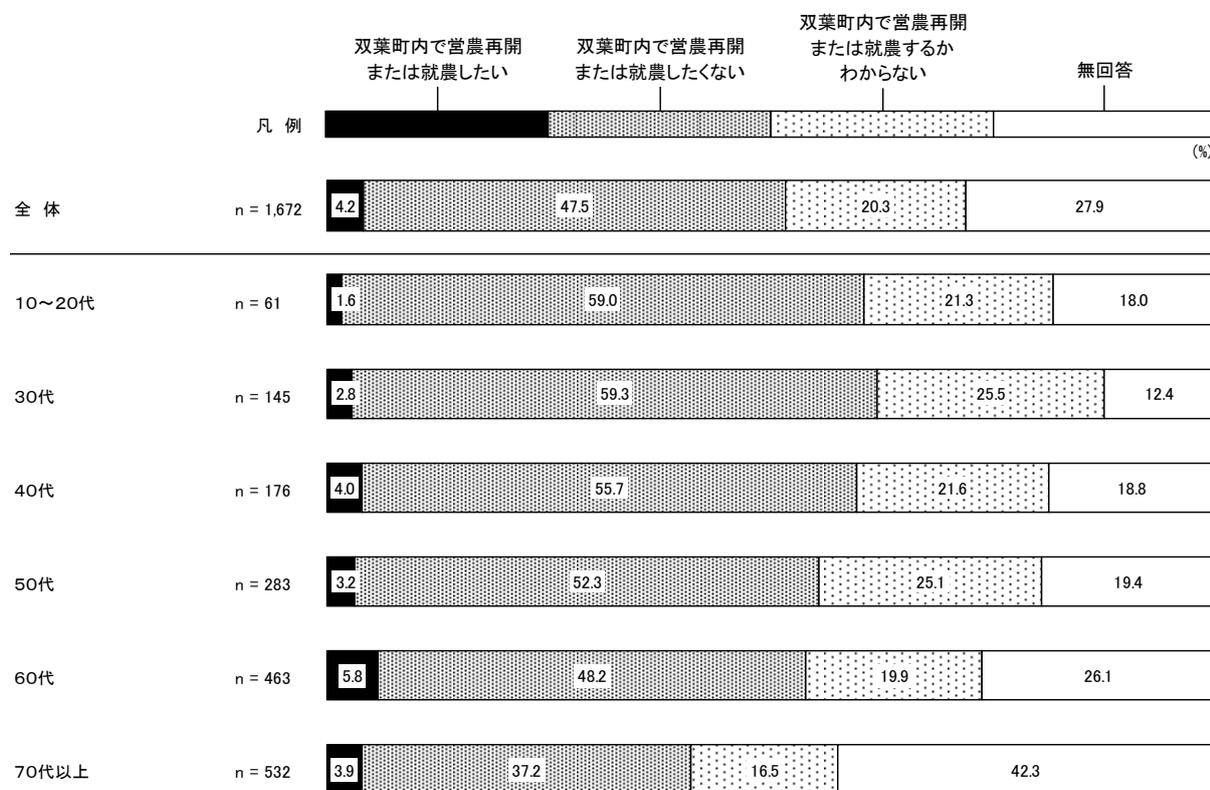
3-3-16 双葉町の避難指示が解除された場合の営農意向

問10-3 将来、双葉町の避難指示が解除された場合、町内で営農を行いたいですか。(〇は1つ)

双葉町の避難指示が解除された場合の営農意向については、「双葉町内で営農再開または就農したくない」が47.5%と最も高く、次いで「双葉町内で営農再開または就農するかわからない」が20.3%、「双葉町内で営農再開または就農したい」が4.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～50代では「双葉町内で営農再開または就農したくない」が半数以上を占めている。

<図表3-3-16-1 双葉町の避難指示が解除された場合の営農意向(年齢別)>



3-3-17 営農を再開または就農する場合の試験栽培への興味

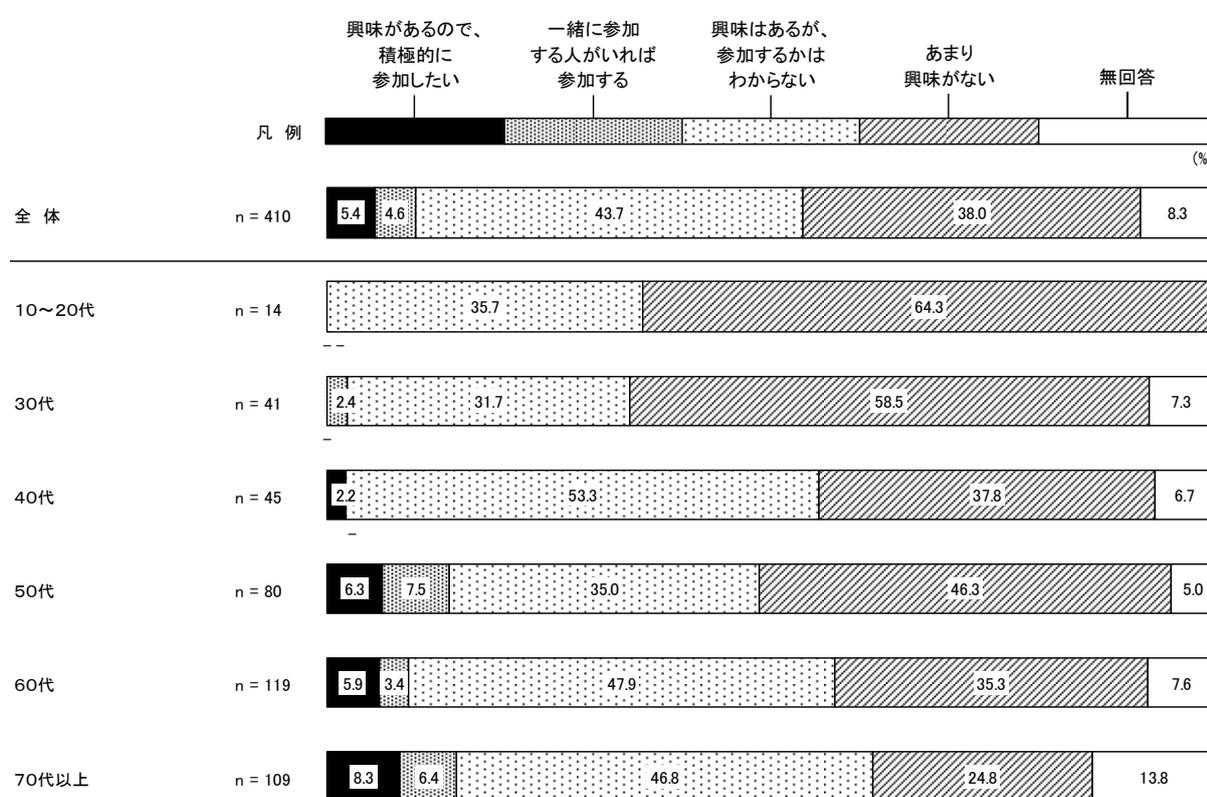
【問10-3で「1. 双葉町内で営農再開または就農したい」「3. 双葉町内で営農再開または就農するかわからない」と回答した方にうかがいます。】

問10-4 営農を再開または就農する場合に、試験栽培などを行うことに興味がありますか。(〇は1つ)

営農を再開または就農する場合の試験栽培への興味については、「興味はあるが、参加するかはわからない」が43.7%と最も高く、次いで「あまり興味がない」が38.0%、「興味があるので、積極的に参加したい」が5.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「興味はあるが、参加するかはわからない」は40代(53.3%)、「あまり興味がない」は30代(58.5%)、50代(46.3%)で、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-17-1 営農を再開または就農する場合の試験栽培への興味(年齢別)＞



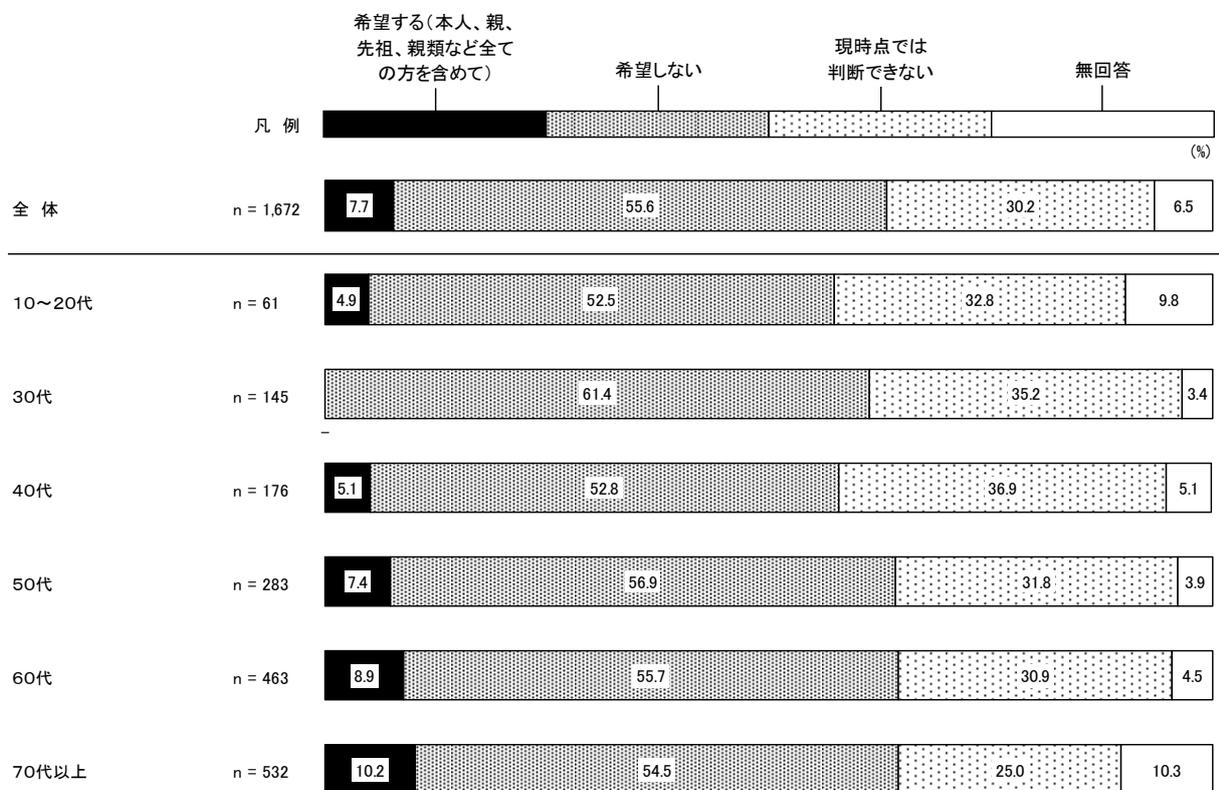
3-3-18 双葉町内での新しい墓地の取得意向

問11 町内に墓地の新設を検討していますが、双葉町内で新しい墓地の取得を希望しますか。(〇は1つ)

双葉町内での新しい墓地の取得意向については、「希望しない」が55.6%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が30.2%、「希望する(本人、親、先祖、親類など全ての方を含めて)」が7.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「希望しない」は30代(61.4%)で、「現時点では判断できない」は30代(35.2%)、40代(36.9%)で、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-18-1 双葉町内での新しい墓地の取得意向(年齢別)>



3-3-19 双葉町内に墓地の取得を希望する理由

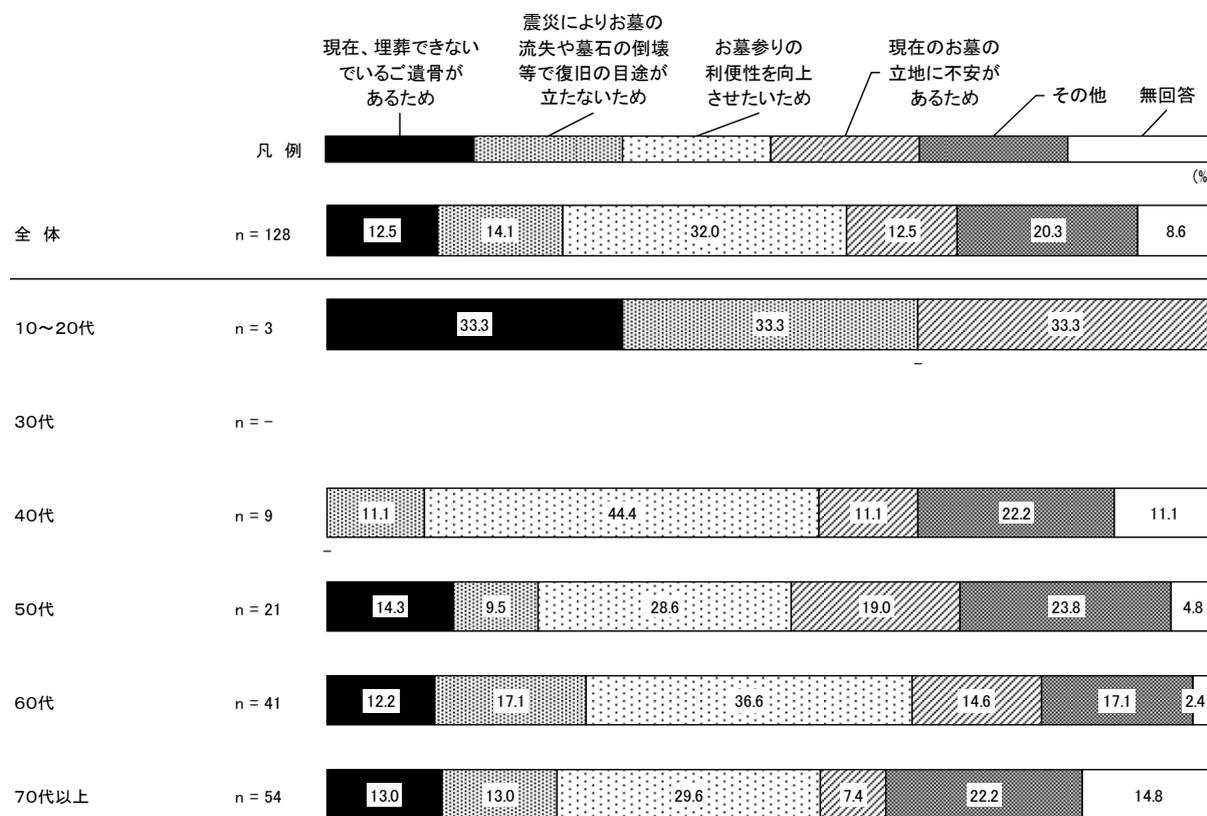
【問11で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問11-1 墓地の取得を希望している理由は何ですか。(〇は1つ)

双葉町内に墓地の取得を希望する理由については、「お墓参りの利便性を向上させたいため」が32.0%と最も高く、次いで「震災によりお墓の流失や墓石の倒壊等で復旧の目途が立たないため」が14.1%、「現在、埋葬できないご遺骨があるため」、「現在のお墓の立地に不安があるため」がそれぞれ12.5%となっている。

回答者の年齢別にみても、「お墓参りの利便性を向上させたいため」は60代が36.6%、70代以上が29.6%と最も高くなっている。

＜図表3-3-19-1 双葉町内に墓地の取得を希望する理由（年齢別）＞



3-3-20 双葉町内に墓地を取得してから墓石建立までの期間

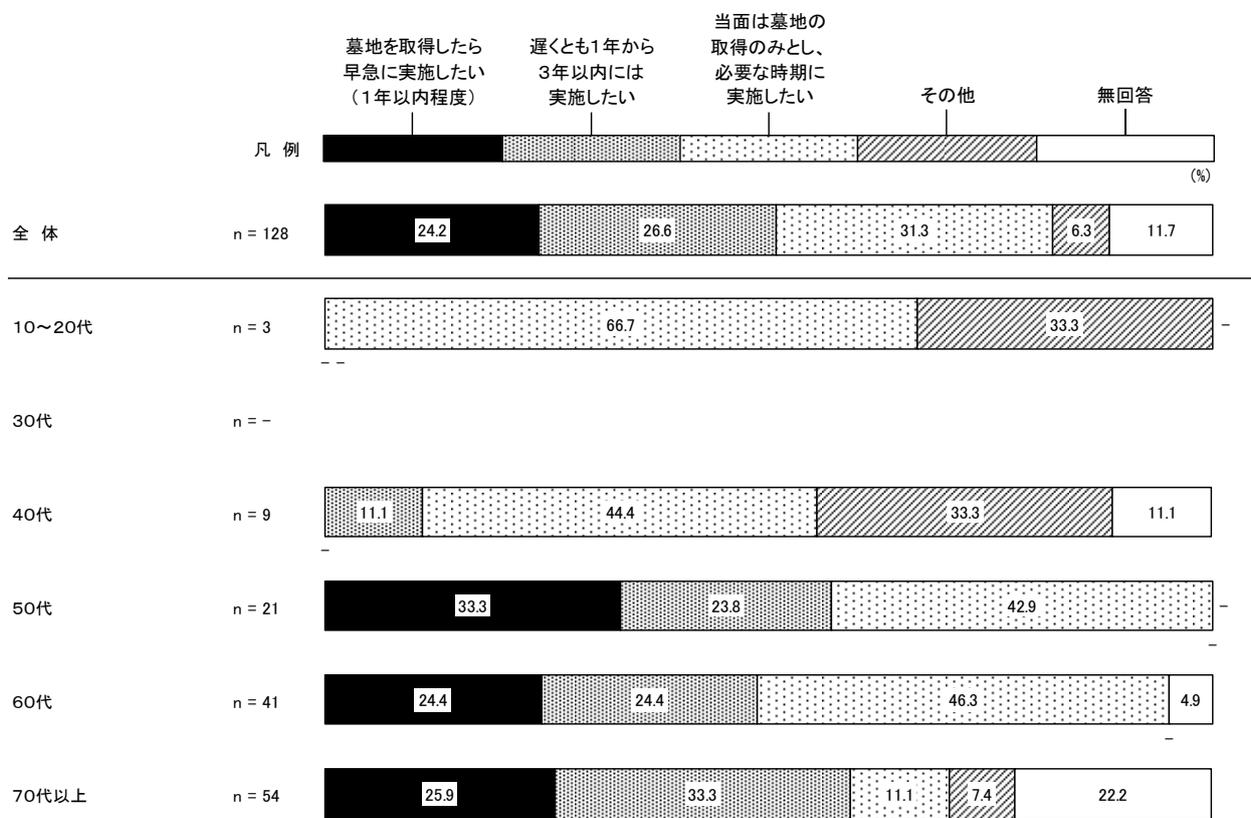
【問11で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問11-2 墓地を取得してから、どの程度の期間内に墓石の建立などを実施したいですか。(〇は1つ)

双葉町内に墓地を取得してから墓石建立までの期間については、「当面は墓地の取得のみとし、必要な時期に実施したい」が31.3%と最も高く、次いで「遅くとも1年から3年以内には実施したい」が26.6%、「墓地を取得したら早急に実施したい(1年以内程度)」が24.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、60代では「当面は墓地の取得のみとし、必要な時期に実施したい」が46.3%、70代以上では「遅くとも1年から3年以内には実施したい」が33.3%で最も高くなっている。

＜図表3-3-20-1 双葉町内に墓地を取得してから墓石建立までの期間（年齢別）＞



3-3-21 町営墓地が新設される場合の要望

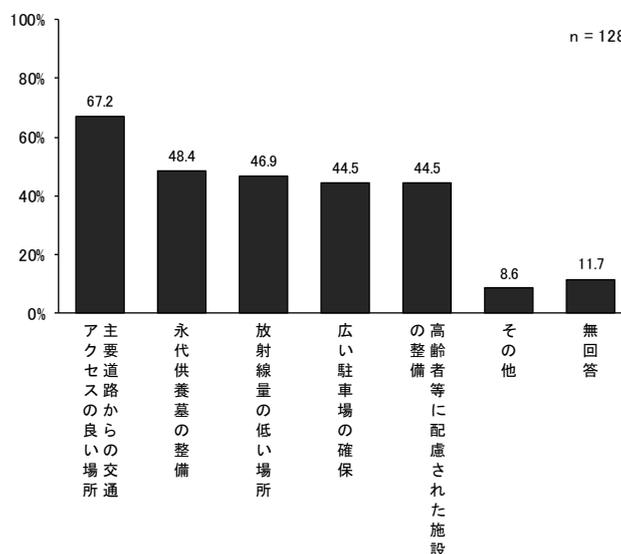
【問11で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問11-3 町内に町営墓地が新設される場合、立地やお墓などについてのご要望等をお答えください。
(〇はいくつでも)

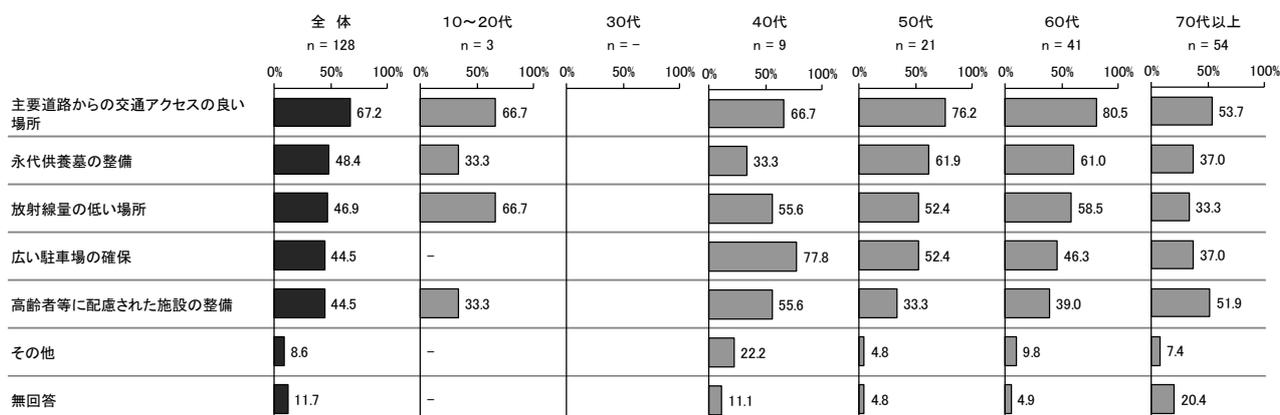
町営墓地が新設される場合の要望については、「主要道路からの交通アクセスの良い場所」が67.2%と最も高く、次いで「永代供養墓の整備」が48.4%、「放射線量の低い場所」が46.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「主要道路からの交通アクセスの良い場所」は60代(80.5%)、70代以上(53.7%)とともに最も高くなっているが、「永代供養墓の整備」は60代で61.0%、「高齢者に配慮された施設の整備」は70代以上で51.9%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-21-1 町営墓地が新設される場合の要望>



<図表3-3-21-2 町営墓地が新設される場合の要望(年齢別)>



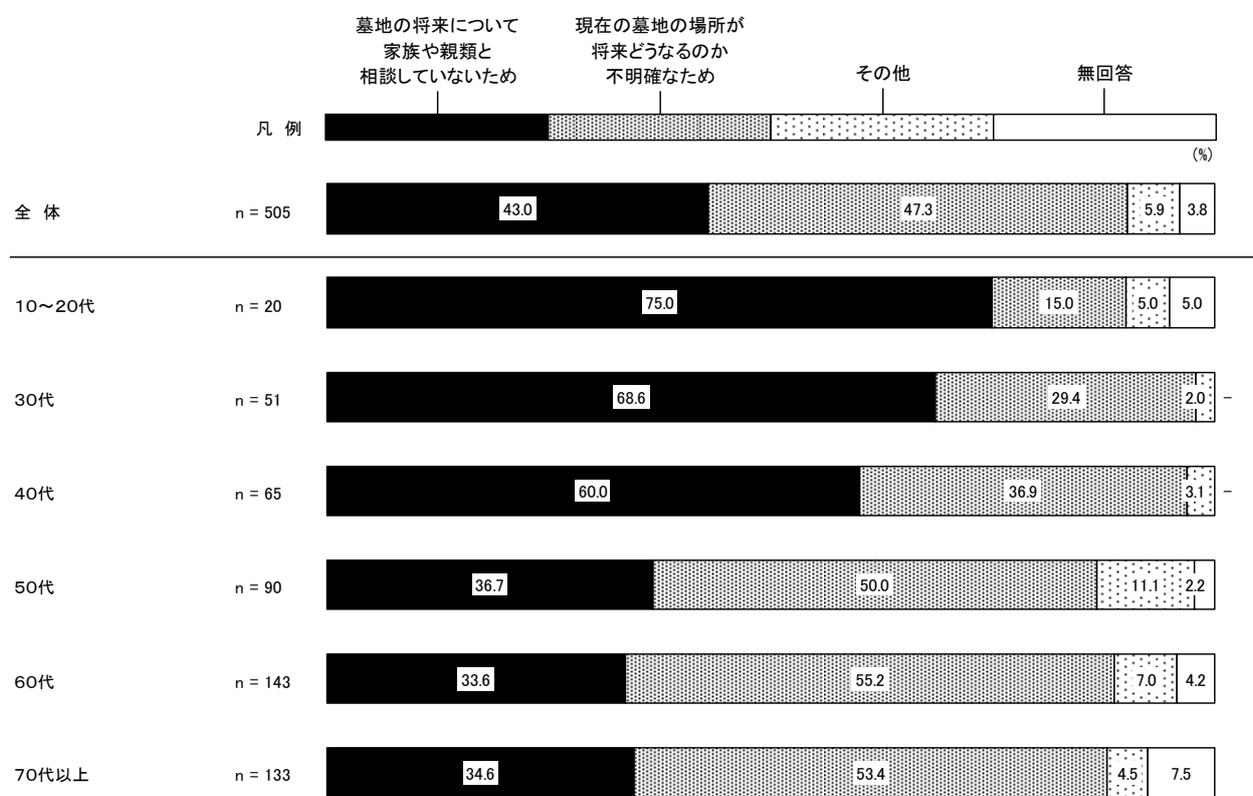
3-3-22 双葉町内での墓地の取得を現時点で判断できない理由

【問11で「3. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】
 問11-5 墓地の取得を現時点で判断できない理由は何ですか。(〇は1つ)

双葉町内での墓地の取得を現時点で判断できない理由については、「現在の墓地の場所が将来どうなるのか不明確なため」が47.3%と最も高く、次いで「墓地の将来について家族や親類と相談していないため」が43.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、40代以下では「墓地の将来について家族や親類と相談していないため」が、50代以上では「現在の墓地の場所が将来どうなるのか不明確なため」が半数以上を占める。

<図表3-3-22-1 双葉町内での墓地の取得を現時点で判断できない理由（年齢別）>



3-3-23 双葉町内に墓地の取得を希望しない理由

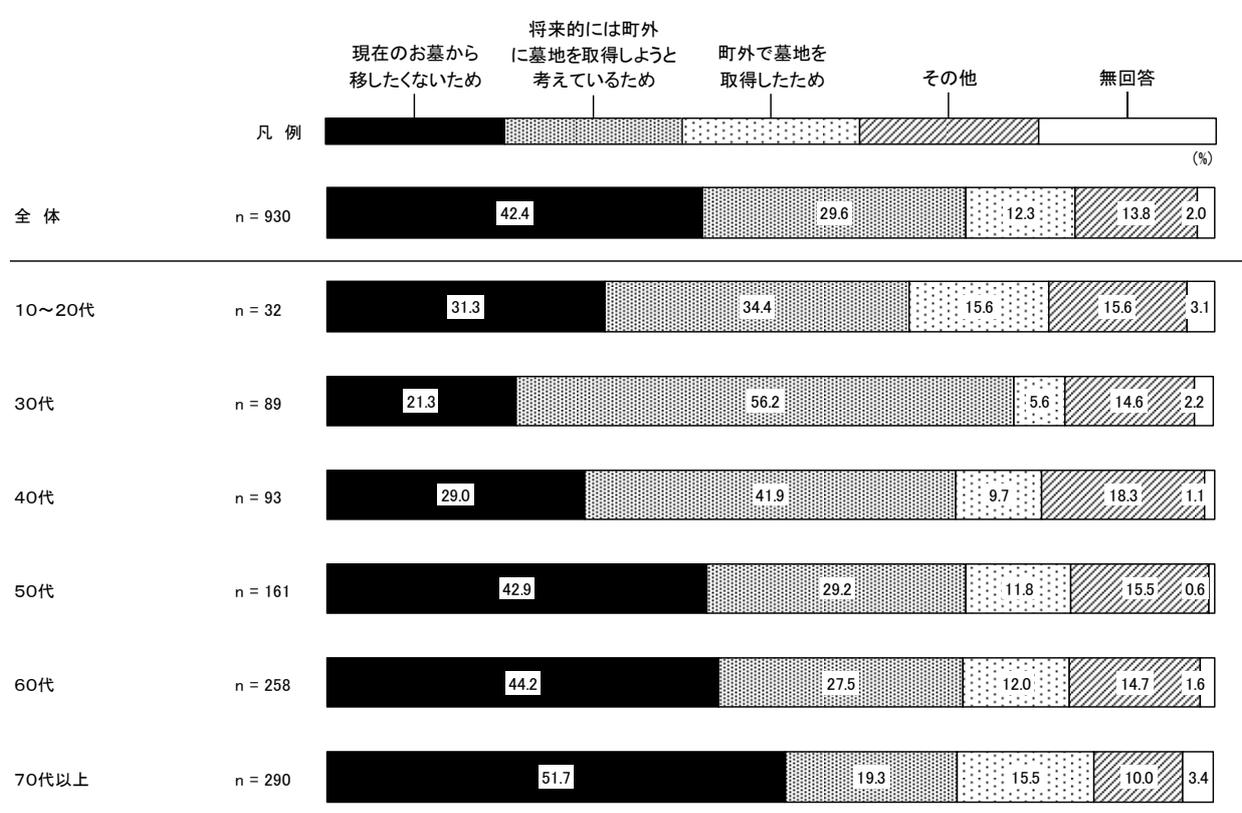
【問11で「2. 希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問11-4 墓地の取得を希望しない理由は何ですか。(〇は1つ)

双葉町内に墓地の取得を希望しない理由については、「現在のお墓から移したくないため」が42.4%と最も高く、次いで「将来的には町外に墓地を取得しようと考えているため」が29.6%、「町外で墓地を取得したため」が12.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、30代以降、年齢が高くなるにつれ「現在のお墓から移したくないため」の占める割合が高くなり、70代以上では半数以上を占める。一方、取得意向のある世帯あるいは町外で墓地を取得した世帯（将来的には町外に墓地を取得しようと考えているため・町外で墓地を取得したため）は、30代が61.8%、40代が51.6%、10~20代が50.0%と半数以上を占める。

＜図表3-3-23-1 双葉町内に墓地の取得を希望しない理由（年齢別）＞

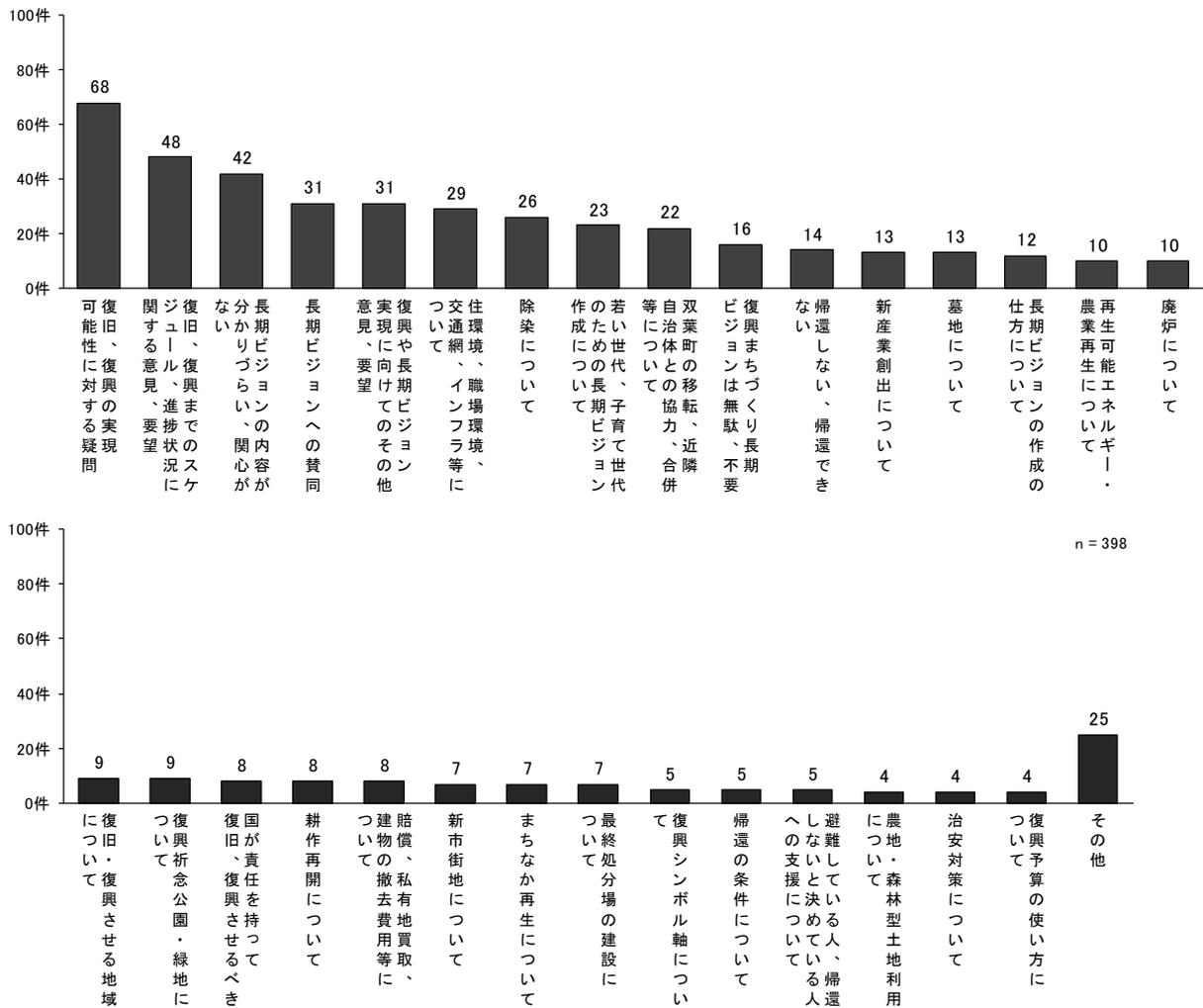


3-3-24 双葉町復興まちづくり長期ビジョンに関する意見

問12 「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」に関するご意見があればお書きください。

双葉町復興まちづくり長期ビジョンに関する意見については、「復旧、復興の実現可能性に対する疑問」が68件と最も多く、次いで「復旧、復興までのスケジュール、進捗状況に関する意見、要望」が48件、「長期ビジョンの内容が分かりづらい、関心がない」が42件となっている。

<図表3-3-24-1 双葉町復興まちづくり長期ビジョンに関する意見>



3-4 意見・要望

問 13 避難期間中の住宅や居住環境や、生活において困っていること、改善を求めること等があればお書きください（医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど）。また、国や福島県、双葉町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、568 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

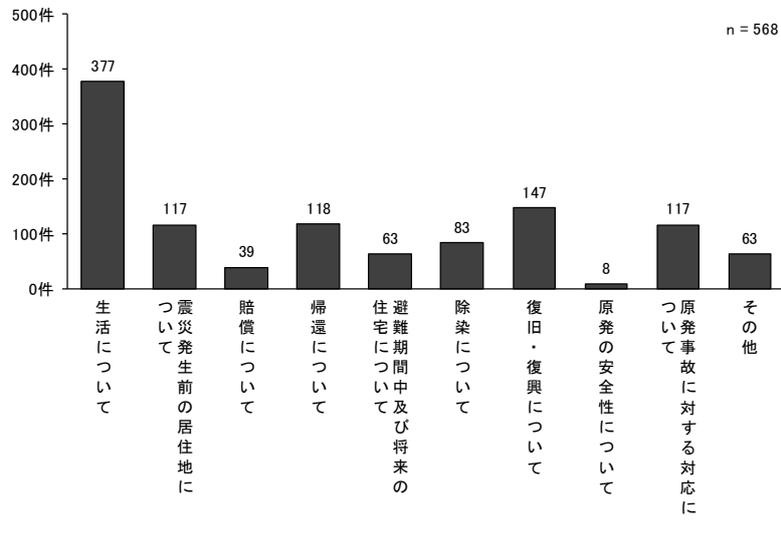
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が377件と最も多く、次いで「復旧・復興について」が147件、「帰還について」が118件となっている。

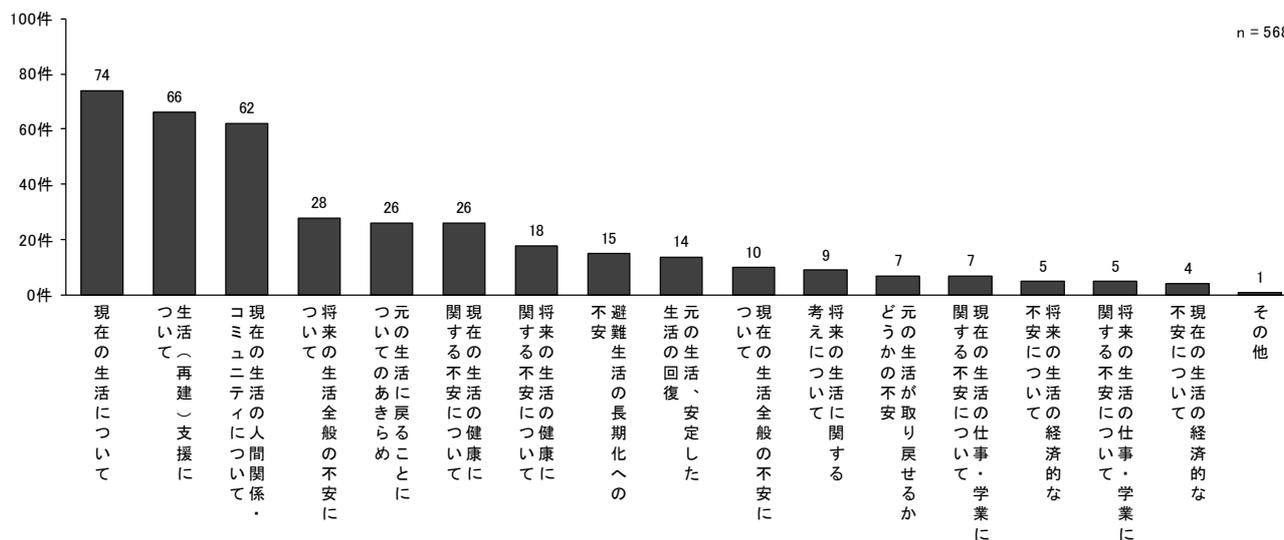
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活について」が74件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が66件、「現在の生活の人間関係・コミュニティについて」が62件となっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[現在の生活について]

- 困っていることは無い。とても優遇されています。(30代)
- 5年近くたち、大分落ち着いた。しかし、“避難民”としての目は消えない。(50代)
- 今、いわき市に居住していますが、双葉町の事、忘れた事ありません。いつまでも双葉町です。(60代)

[生活（再建）支援について]

- 借り上げ住宅・高速道路無料措置を延長してほしい。(40代)
- 国民健康保険でない為、医療費が控除になっていないので、不公平な部分がある。(50代)
- 引越し費用ですが、県内に戻る人には補助が出るようですが、県外の場合は出ないのは平等性に欠けるのでは…。今までの援助の仕方にも平等性が無いと思っていました。色々と事情が有り県内に戻れない方が多いと思いますのでもう少し、平等にして欲しいと思います。(60代)

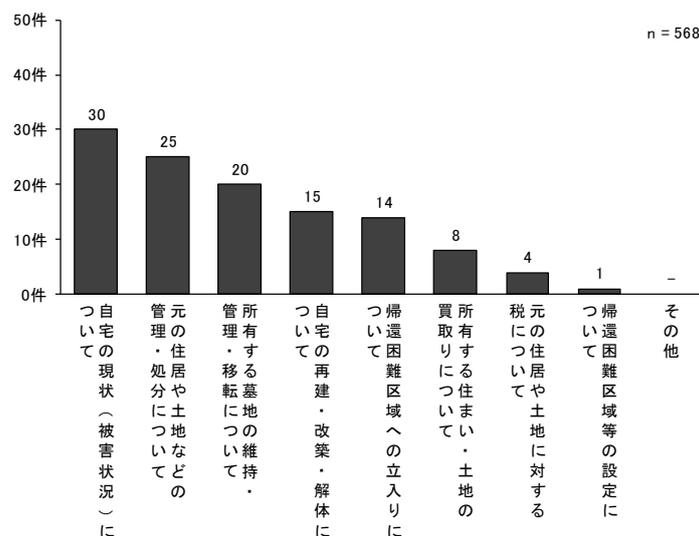
[現在の生活の人間関係・コミュニティについて]

- 被災者という事で自分やまわりも差別されることがあるので、そういう時の相談窓口等があればと思います。(30代)
- 同じ浜通り、双葉郡の人でも区域の違いにより恨み、妬みを言われる。子ども達も同様である。これから先もそれにじっと耐えていかなければならないかと思うとつらい。(50代)
- 原発事故によって永年薬かれてきたコミュニティが破壊され、その修復が出来ずに落ち込む日々が続いています。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が30件と最も多く、次いで「元の住居や土地などの管理・処分について」が25件、「所有する墓地の維持・管理・移転について」が20件となっている。

<図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- 小動物が野生化し、繁殖し続けていて、家の中まで進入し、糞まみれの状態を目のあたりにしている。熊やサルが目撃されたとの噂もあり、不安な人も多いのでは？（50代）
- 双葉町の自宅は、破損、汚染が激しく、片づけのできる状況ではないため、荒れ果てています。万が一の事を考えると、とても不安です。できるだけ、早く解体等の対策を立てていただきたく思います。（60代）
- 一時帰宅をしては、片付け、ゴミ出しをはじめました。東電さんの運搬の協力には、大変助かっています。今後も出来たら、と思っています。（70代以上）

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 今後、家の固定資産税がどうなるのか、解体しなくてはいけないのかなど、方向性も分からない。どうしたらよいのか？（40代）
- 気になるのは、双葉町にある自宅建物と土地です。長期ビジョンでは、新産業創出ゾーンのエリアにありますが、将来、町等を買取る事もあるのでしょうか？前向きな検討お願いいたします。（50代）
- 私有地が今回中間貯蔵施設の予定地で売却した場合に、双葉町の住所はどうなるのか？（墓地も含む）（60代）

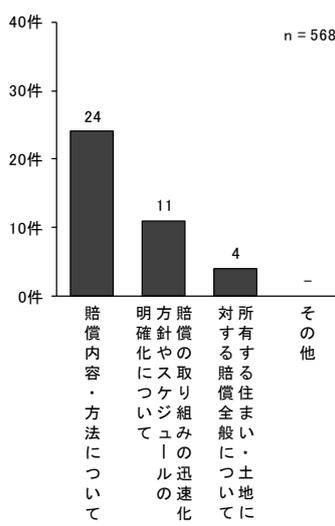
【所有する墓地の維持・管理・移転について】

- 町内に墓地を新設する件についてですが、私の兄弟達もこれから高齢化すると共に、遠くから帰省する場合、費用もかかるため、比較的大きな町コミュニティができる市町村（なこそ等）にも町営の墓地があればいいのでは、と思っています。（50代）
- 住居と墓地の売却をしたい。（60代）
- 町外に墓地の移転をしようと動いてみたが、最終的に風評被害が怖いからという理由で断わってくる所が殆どである。遠い為、お墓参りもなかなか難しくなってきたので、町の方で情報提供をして頂けると有難い。よろしくお願いします。（70代以上）

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が24件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化・方針やスケジュールの明確化について」が11件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が4件となっている

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 賠償に関するお金を早く東電が払うことが重要。現在の東電は、昔よりは良くなったが、まだ消極的。もっと東電に対し、対応を良くするように言うことが必要。担当者によっては対応もひどいときがある。あくまでも国の指針が目安であって、東電が作ったルールが指針ではないことを強く言ってほしい。(30代)
- ADRの決定に法的拘束力を持たせて、東京電力の賠償に反映させていただきたい。(50代)
- 国への要望ですが、私たちは原発事故で安住の地（生活拠点）を奪われた（追いやられた）のですから、元気で生きて居られる内に、早く、住民一人、一人の心境を理解して、今後の賠償に真摯に取り組んで欲しいです。(60代)

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 職業差別で賠償が不十分です。請求から半年以上、説明なし。町からもきつく言って下さい。(30代)
- 原発事故から4年の月日がたつが、大量の放射能を浴びせられ、現在でもセシウム・プルトニウム…等内部被爆が蓄積され続けているのに、未だに被爆させられた賠償がないのは、どういうことでしょうか？1日も早く、賠償して下さい。生きている間に！(60代)
- 国と東電が被害者に誠実に向き合い、生活再建に必要な賠償金を早く支払って欲しいと思っています。それがあってはじめて、長期ビジョンも考えられるようになります。(70代以上)

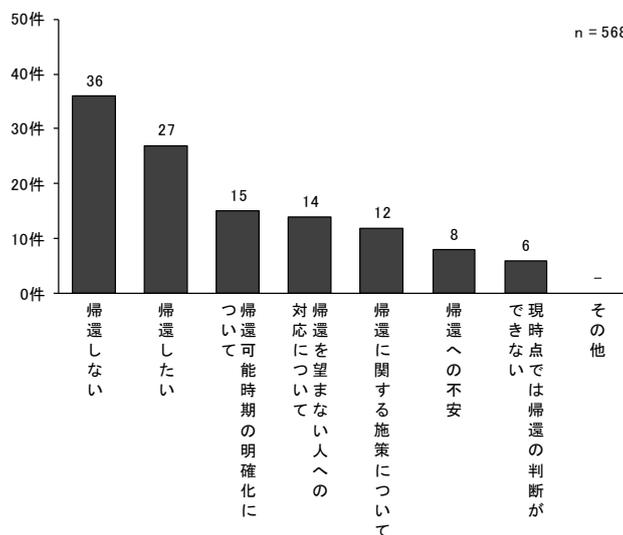
[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 世界史に残るような原発事故にあった我々、被害者は何ら悪い事などしていない。あってはならない事件の被害にあっています。双葉町に住んでいた時の土地の広さや、家の大きさ、環境を、今避難しているところに求めようとすると、最低でも3億かかることが調べてわかりました。東電でやっている補償では生活の再建が出来ません。(40代)
- 双葉町の自宅及び宅地は荒れる一方です。帰宅する度に精神的にダメージが大きいです。いつまでも双葉の自宅のこを引きずることなくするために、国や福島県での買い上げをして頂ければと思っております。(60代)
- 避難生活も長くなり家の汚損・劣化し住める状況ではないし、中間貯蔵施設が近いし、これから先、その場所で生活出来るとは考えられません。国・県などで買い取って頂きたいです。(60代)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還しない」が36件と最も多く、次いで「帰還したい」が27件、「帰還可能時期の明確化について」が15件となっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還しない】

- 姉妹で東京に住んでいます。2人とも大学を卒業したら関東に就職希望です。実際に現地で復興に関わる事が出来ませんが、間接的、または別の形で県外からお手伝いできたらと思います。(10～20代)
- 私個人としては、町民として、生まれ育った町に40年以上も生活しており環境状況的に、生活出来る町には、致らないと思っています。今後の生活を安定させられる、補償が必要と、感じております。町民全体に思いを傾けていただきたいと考えます。(40代)
- 避難生活も長くなり家の汚損・劣化し住める状況ではないし、中間貯蔵施設が近いし、これから先、その場所で生活出来るとは考えられないです。国・県などで買い取って頂きたいです。(60代)

【帰還したい】

- 震災前の双葉町に戻してほしい。自分の子供に「ここがママの生まれた町だよ」と見せてあげたいが見せることもできないし、福島県の話さえできない。知り合いにも双葉出身だとは言えない。昔の生活に戻してほしい。それだけです。(30代)
- 先祖代々生まれ育った土地でのこりの人生を過ごしたい。なるべく早く、小さくていいので家を再建したい。(40代)
- 将来は必ず戻れる状況になると思っている。子供や孫達が、いつかは戻ってくれることを、信じている。(60代)

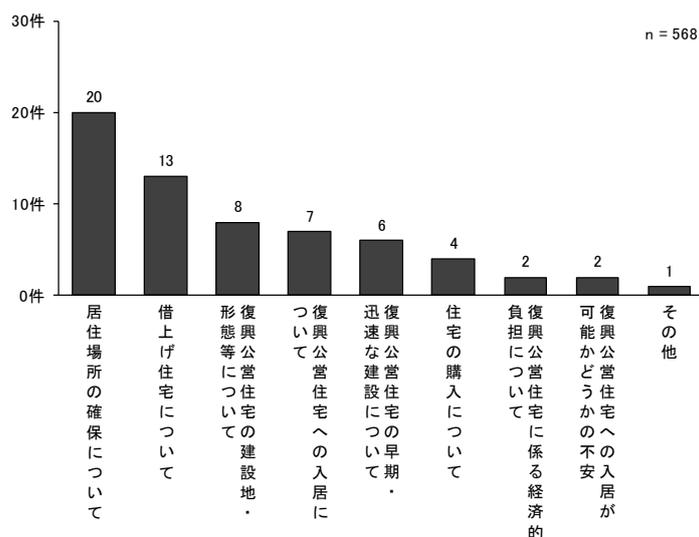
【帰還可能時期の明確化について】

- 国に対する要望です。帰還時期の明確な解答、お願いしたい。(40代)
- 今後、帰還が出来るのか出来ないのか。また、帰還出来るのならいつ出来るのか、具体的に教えてほしい。(50代)
- 帰還できる目安はある程度示すことができないでしょうか。たとえば5年とか8年とか。長期間であるとは聞きますが。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が20件と最も多く、次いで「借上げ住宅について」が13件、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が8件となっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 復興住宅の募集のことは定期的に教えて欲しいです。自分でネットで詳しく調べないと分からないことがたくさんで、何回も問い合わせることになります。ネットでできない方のためにも、書類などで復興住宅のお知らせなどが欲しいです。(10~20代)
- 今、住んでいる所が応急仮設住宅なので、期限があっていつ出されるか不安の中にいます。地域の皆さんにも慣れ、仕事にも生活にも慣れて来た事に対して、知らない土地で生活して行くことのむずかしさや厳しさもあると思うのです。どうか、ずっと今の生活が一日でも長く、同じ場所で生活して行けるようにご配慮の程よろしくをお願いします。(50代)
- 住居を持ってない方に安心して住める住居が欲しい。1年後ではなく、10年先を見た住居がほしい。(60代)

【借上げ住宅について】

- いつまで今の借り上げ公営住宅に住まわせてもらえるか不安です。(10~20代)
- 借り上げアパートから賃主の都合で退去させられた。理由も分からず、また自分でアパートを1から探し引越しをせざるを得なかった。制度の改善を至急実施してほしい。(30代)
- 一人暮らしの為、なかなか先の事が考えられず出来れば借上期間、医療免除期間などの更なる延長をして頂きたいと思います。(50代)

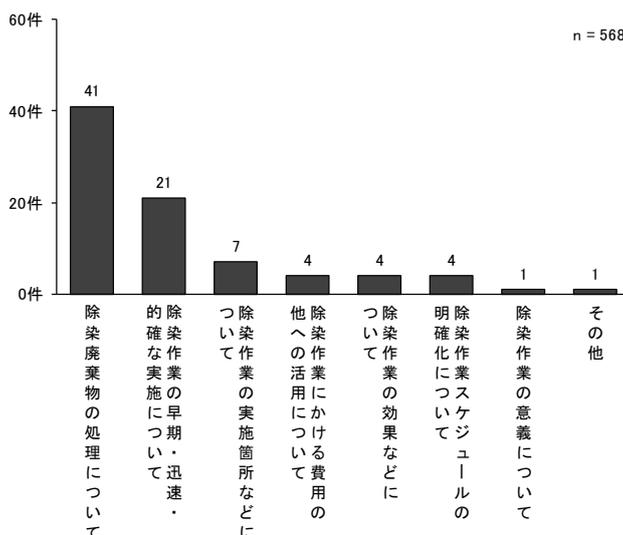
【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- 犬を知人に預けているが復興住宅等ペット可が少なすぎて引きとる事が出来ない。もっとペット可を増やしてほしい。(40代)
- 復興公営住宅の整備で、双葉町は、勿来酒井に108戸と多数を占めるが、町民の意向とかけ離れていると思う。北好間に双葉町分の集合棟を建てるべきである。勿来では、応募する人は、少ないと思う。(50代)
- 友人もたくさんいたので戻りたい気持ちはあります。ただ、高齢のため一人ぐらしができなくなってしまったので、もし帰るとすれば高齢者用の住宅のようなものでないと生活できないと思います。(70代以上)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染廃棄物の処理について」が41件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が21件、「除染作業の実施箇所などについて」が7件となっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染廃棄物の処理について】

- 双葉、大熊に最終処分場を建設するべき。原発にも責任はあるが、原発を認めていた福島県、立地町にも責任がある。(30代)
- 中間貯蔵施設・最終処分場は震災復興には絶対必要なので、施設の進捗が最重要となります。現在指定された地区に拘らないで、双葉町・大熊町全域で指定し賛同される地権者から集約し区域を設定した方が、結果早いのではと考えます。反対者を説得するのは難しいのでは、それより賛同者を募った方が早いと思われれます。(60代)
- 放射能物質を全国に分散しないで山田二区三区等、帰れない所があるのだから一ヶ所に集約すべきである。(70代以上)

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 廃炉作業が継続している中で帰還は難しいと思う。また、除染がなくては住めないという事で、終わりのない除染が続けば廃棄物は増えるばかり。帰りたい、願いをかなえたいという気持ちはとてもわかりますが、長期ビジョンをかなえるにはまだまだ時間をかけたほうがいいと思います。(30代)
- 少しでも除染を進めて、帰宅困難区域から、脱してほしい。(50代)
- 自由に出入りできるように除染をしてください。希望します。高齢なので早く望みます。(70代以上)

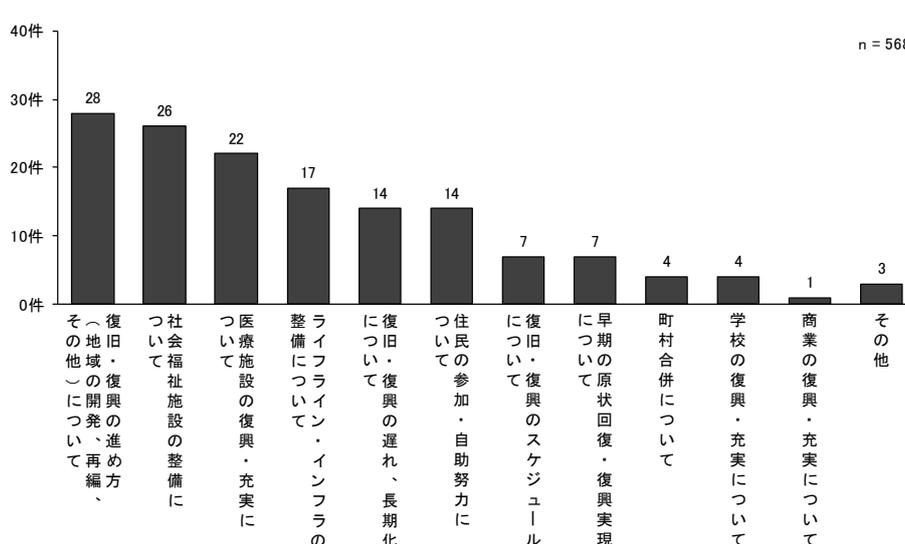
【除染作業の実施箇所などについて】

- 農地の除染を早期に実施してほしい。(50代)
- 双葉北小の後ろの住宅は、放射線量が高く、一時帰宅もあまりできない状態である。除染してほしい。(60代)
- 家のまわりも除染してほしい。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発・再編・その他）」についてが28件と最も多く、次いで「社会福祉施設の整備について」が26件、「医療施設の復興・充実について」が22件となっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- ・ 双葉郡を市にして国が管理して人が住まない地域にするとか。福島県に県外から人がたくさん来てくれるように、日本初となるものを作るなどして復興して欲しい。(10~20代)
- ・ 今回の震災や原発事故を教訓とした町作りを期待します。双葉町へ帰る事を願う方々、新しい町作りを担う方々、住む場所が豊かで経済的にも潤うような、帰る人にも、そこで新たに生活してみたいと思えるような復興を期待します。全国から人が集まるような町作りを期待、願っています。(30代)
- ・ 目で見える様に一步一步すすめて、現地に町民を集めて、説明会を開きつつ、現地で要望を聞き、町民全体で長期ビジョンを進めてください。(70代以上)

【社会福祉施設の整備について】

- ・ 町の復興は、いわき市に仮の町を作る事で終わってしまう気がします。県内に避難している人はいわき市以外にも千数百人おり、県の中心の郡山市に第2の拠点を作るべきです。町の支所、介護施設、社会福祉協議会、集会所（公民館）の集合型の拠点が重要です。(50代)
- ・ 避難で家族がバラバラになっています。老後が心配です。やがて、国民年金で入れる特別養護老人ホーム等があれば安心して暮らせると思います。(60代)
- ・ 特に余生短い高齢者にとっては、介護・福祉の充実・避難地での居住・コミュニティの在り方・医療への支援を一層早急に進めていただくよう、国県、避難（地）先自治体へのはたらきかけを強めることが重要かと考えます。(70代以上)

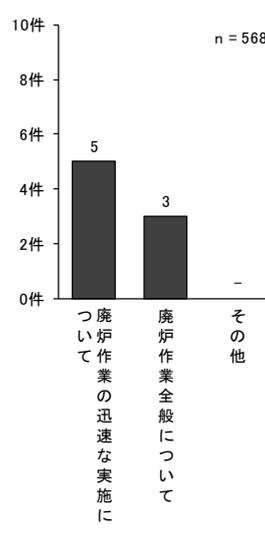
【医療施設の復興・充実について】

- ・ 甲状腺検査や血液検査の徹底（子供達の）。双葉の学校（いわき市）ばかり優遇しないで、平等にしてみらいたい。(40代)
- ・ まずは内、外、神、精、整など他の応診、治療の出来る様な総合病院の確保。又、リハビリ等が出来る様に、更にそれらの医師の確保、その他歯科、眼科等の治療の受けられる様な医院等を、まずは、町内に無くしては始まらない。(50代)
- ・ この4年9ヶ月で心身共にたいへん疲れてしまった。長期的なメンタルケアをお願いしたい。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が5件、「廃炉作業全般について」3件となっている。

＜図表3-4-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業の迅速な実施について]

- 復興は、ライフライン整備、町のイメージアップが最優先、原発廃炉もイメージアップにつながります。風評被害を払拭することが一番大事である。(50代)
- 来年の3月で5年間の避難生活ですが時々怒りとあきらめが強くなっています。町は、希望が目に見える様にして下さい。お願いします。(50代)
- 原子力損害の賠償と原発廃炉の促進。(70代以上)

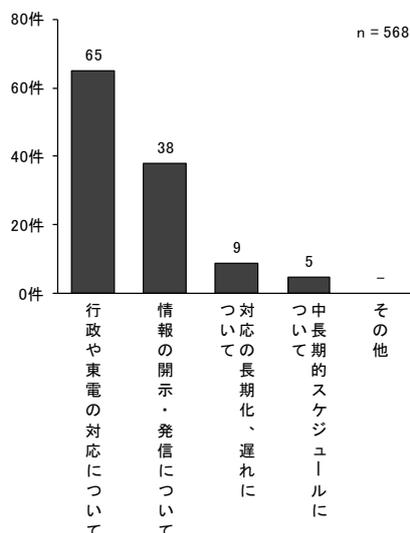
[廃炉作業全般について]

- 廃炉迄長期間かかる現状から、双葉町に戻るの難しいと判断し、別の地に住宅を求めました。(60代)
- 第1原発、第2原発の廃炉が完了して、原発事故の収束と考えるが、その見通しは。(70代以上)
- 現在福島第一原子力発電所は、作業員の皆様の献身的な努力で、現状としての安全を保っていただいていると思います。一方汚染水が増えて処理に困っている状況そして、溶けたウラン燃料の実体が、5年経った現在も不明のまま、水を入れて冷やし放射線を閉じているのみの実体は、浜通りに地震が、たびたび生じている現在、また大きな地震が生じた場合の発電所は、大丈夫なのか不安です。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が65件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が38件、「対応の長期化・遅れについて」が9件となっている。

＜図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- このままななあでズルズルいけばうまくまらめこまれてしまう。周辺町村をきちんと連携して、今後の東電、国への対応を強く出してほしい。(10～20代)
- 双葉町として、新規就労しても以前の年収には届かないので、以前の年収を補償してもらえる様に東電に対して、訴訟を起こしてほしい。(50代)
- 福島市内に行政サービス出張所を希望。郡山も、いわきも遠い。週1日でもよいので。地域在住の町民とのコミュニケーションの機会が少なくなった。もう少し、増やしてほしい。(70代以上)

【情報の開示・発信について】

- 戻る予定はないのですが、双葉町の様子は、これからもお知らせしてほしいです。多くの方がそれぞれ不安や困り感をもって生活していると思いますが、双葉町の取り組みについて応援している人も多いと思います。たくさんのご苦労があると思いますが、これからもよろしくお願いします。(10～20代)
- 避難先の自治体に向けて、受け入れ側は国や県からいくら位入ってきているのかを、知らせてあげてほしいです。ご近所から税金も払ってないくせにゴミを捨てるなどと言われて、とても困っています。(40代)
- 復興の進捗状況を、いつまでに、どのようにして進めていくのか時系列で示し、公報などで報告、発表をお願いしたい。(60代)

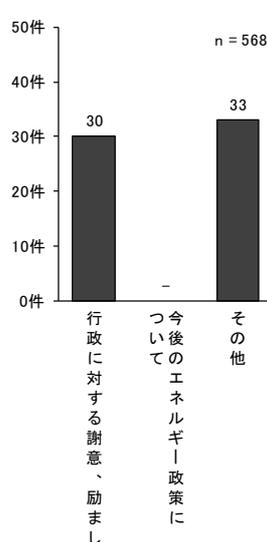
【対応の長期化、遅れについて】

- 「原発避難」という状態を国が説明していないからか、全国の地方自治体により理解がバラバラで、いつも役場（移住先）に行くと、話が長く、同じ話を何度もして、面倒で、大変不自由をしている。東日本大震災及び、原発事故避難は、「いつの話をしている？」というような対応で、とくに大昔の話になっている。もう少し、全国の役所に通達しておくべき。(30代)
- 双葉町は全て遅れている。もっと津波被害者の事を考えろ。何をやるにしても対応が悪い。浪江町や大熊町がすでに行っている事を、双葉町はこれからやろうとしている。説明してほしい。(50代)
- 双葉町が目に見える形での「先に進んでいる」と実感できるものがほとんどない。他町村と比べ「置き去り」の感じさえする。とにかく、除染を進めなければ先へは行けない。国に対し、中間貯蔵受入れを表明したのであればそれと引き代えに強気に働きかけてほしい。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意・励まし」が30件となっている。

〈図表3-4-11 その他についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 復興に携わっている人々に感謝しています。大変だと思いますが、これからも、双葉町民含め、被災者のためにもがんばって下さい。心からお願いいたします。(10~20代)
- 本当にまったくな事態ですよね。5年を迎えようとしていますが、前をむいて、生活していきます。双葉町役場の方々、本当にお疲れ様です。これからも宜しくお願いします。町民皆で、乗り切って行きましようね。(40代)
- 復興に努力している皆さんに感謝しています。双葉町は、いつの日か、見事に復興し、世界中の人々をアッと言わせる、大偉業を成しとげると確信しています。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

双葉町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

- ・震災発生時、双葉町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。
- ・ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。
- ・現在、世帯が何ヶ所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**にご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
- ・の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。
- ・**調査票は記名式でお願いしております**。よろしければ、最初のページに「氏名」、「住所」、「連絡先」をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、双葉町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**12月28日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-904-848

[設置期間：12月15日（火）～28日（月）10時～17時]
土・日・祝を除く

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 生活拠点課
Tel 024-521-8617

双葉町に関することについて

双葉町

〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19番地の4
双葉町いわき事務所 復興推進課
電話：0246-84-5203（直通）

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、町民の皆さまの今後の生活設計などについてどのような考えをお持ちかを把握するため、町民の皆さまのご意見やご要望などをお伺いすることを目的として実施しております。

現在、これまでにお聞きしている今後の居住についてご意向等に関する調査の結果をもとに、復興公営住宅の迅速な整備に努めております。また、早期に仮設住宅等から安定的な居住へお移り頂き生活環境が改善されるよう、継続して復興公営住宅の進捗状況や募集状況などを情報提供していきたいと考えております。

本調査でお聞きした貴重なご意見やご要望は、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料として活用させていただいております。多くの町民の皆さまの声を反映した「町民一人一人の復興」「町の復興」が進められるよう、ご協力をお願いします。

また、本調査を踏まえまして、双葉町から町民の皆さまに有益な情報を提供する場合や改めて確認のためにご連絡させていただく場合などがありますので、氏名、現在のご住所、ご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居が確約となるわけではありませんのでご注意ください。

F1 あなたの氏名を教えてください

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------|--------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト | |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 | ⇒問3へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) | ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) | ⇒問3へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 | 〔具体的に〕 |
| 6. 公務員 | | |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | | |
|-------------------|-----------|--------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 | |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 | |
| 3. 製造業 | 9. 教育 | |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 | |
| 5. 運輸業 | 11. その他 | 〔具体的に〕 |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | | |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|-------------------|
| 1. 新山 | 8. 長塚一 | 15. 中田 |
| 2. 下条 | 9. 長塚二 | 16. 両竹 |
| 3. 郡山 | 10. 下長塚 | 17. 浜野 |
| 4. 細谷 | 11. 羽鳥 | 18. その他 |
| 5. 三字 | 12. 寺松 | 19. (わからない場合は、住所を |
| 6. 山田 | 13. 渋川 | 記載してください) |
| 7. 石熊 | 14. 鴻草 | [] |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 [具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |]] |

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(○は1つ)

【 福島県内 】		
【 浜 通 り 】	【 中 通 り 】	【 会 津 】
1. いわき市	8. 福島市	21. 会津若松市
2. 相馬市	9. 郡山市	22. 喜多方市
3. 南相馬市	10. 白河市	23. 会津美里町
4. 広野町	11. 須賀川市	【 そ の 他 】
5. 檜葉町	12. 二本松市	24. 1～23 以外の市町村
6. 川内村	13. 田村市	→具体的にご記入ください
7. 新地町	14. 伊達市	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 0 auto;"></div> (市・町・村)
	15. 本宮市	
	16. 桑折町	
	17. 川俣町	
	18. 大玉村	
	19. 西郷村	
	20. 三春町	
【 福島県外 】		
25. 福島県外		
→具体的にご記入ください		
<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 0 auto;"></div> (都・道・府・県)	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 0 auto;"></div> (市・町・村・区)	

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1)「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

IV 参考資料

(2)「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18歳以上65歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) 2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅 などの借り上げ型。無償) 3. 公営住宅(2は除く。有償) 4. 民間賃貸住宅(有償) 5. 給与住宅(社宅など)	6. 家族のどなたかのお住まい・実家 7. 親戚・知人宅 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) 9. その他 [具体的に]
--	---

※復興公営住宅へ入居している方については、「3.公営住宅(1は除く。有償)」を選択してください。

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

同封資料「福島県復興公営住宅入居者の募集について」を
ご覧いただきからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません。

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1. 既に当選または入居が決定している(入居している) | } ⇒問 8-1 へ |
| 2. 入居の申し込み中である | |
| 3. 今後、入居申し込みしたい | |
| 4. 現時点では判断できない ⇒問 8-3 へ | |
| 5. 入居を希望しない ⇒問 8-5 へ | |

【復興公営住宅へ「既に当選または入居が決定している(入居している)」方、「入居の申し込み中である」方、「今後、入居申し込みしたい」方(問8で「1」、「2」、「3」と回答した方)にうかがいます。】

問 8-1 入居が決定している(入居している)、入居の申し込み中または入居を希望する復興公営住宅の地域(自治体名)、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

(1)自治体名を教えてください。

	復興公営住宅(生活拠点)を整備済み または整備中の市町村									市 町 村 その 他の	入分 居散 しし ない
	福 島 市	会 津 若 松 市	郡 山 市	い わ き 市 ↓ ※	二 本 松 市	南 相 馬 市	白 河 市	三 春 町	広 野 町		
<1世帯目> (○は1つ)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ()	
<2世帯目> (○は1つ)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ()	11

※1 家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方(希望も含む)は、<2世帯目>の列にもお答えください。

※2 「10. その他の市町村」を選択した場合は、()内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

※3 「4. いわき市」を選択した場合には、問 8-1(2)をご記入後、問 8-1(3)もご回答ください。

IV 参考資料

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※現在ご一緒にお住まいのご家族について、ご記入ください。

	ア) 未就学児 (小学校入学前)	イ) 小学生	ウ) 中学生	エ) 15歳以上 18歳未満 (中学生を除く)	オ) 18歳以上 65歳未満	カ) 65歳以上
<1世帯目>	人	人	人	人	人	人
<2世帯目>	人	人	人	人	人	人

【問8-1 (1) <1世帯目>あるいは<2世帯目>で「4. いわき市」と回答した方にうかがいます。】

(3) いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

※問8で「1. 既に当選または入居が決定している(入居している)」方は、いわき市勿来酒井地区に応募することはできませんので、「2. 希望しない」を選択してください。

※問8で「2. 入居の申し込み中である」方は、現在申し込み中の応募に当選せず、再度申し込みを行う場合を想定してお答えください。

	希望する	希望しない	判断できない
<1世帯目> (○は1つ)	1	2	3
<2世帯目> (○は1つ)	1	2	3

➤ 問8-2へ

【復興公営住宅へ「既に当選または入居が決定している(入居している)」方、「入居の申し込み中である」方、「今後、入居申し込みしたい」方(問8で「1」、「2」、「3」と回答した方)にうかがいます。】

問8-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。

(○は3つまで)

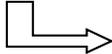
1. 避難住民同士の交流会等の開催	5. 子どもの学習支援
2. 地元住民との交流会等の開催	6. 健康相談員の設置
3. 高齢者向けの見守り(巡回等)	7. その他 [具体的に]
4. コミュニティバスなどの交通支援	

➤ 問9へ

【問 8 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-3 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。
(○はいくつでも)

1. 持ち家の購入または建築を検討しているから
2. できれば応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)に住み続けたいから
3. 集合住宅ではなく一戸建に住みたいから(希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから)
4. 希望する復興公営住宅でペットを飼えない(飼えるかわからない)から
5. 高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから
6. 復興公営住宅の周辺環境がわからないから
7. 近所にどのような人が住むかわからないから
8. 自身の生活の見通しがたっていないから
9. 原子力損害賠償の状況がわからないから
10. 家賃を支払うことになるから
11. その他 (具体的に)

 [問 8-4 へ](#)

【問 8 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-4 あなたは、いつ頃までには判断したいと考えていますか。(○は1つ)
(参考)現時点の復興公営住宅の最終募集時期は平成 28 年 6 月頃を予定

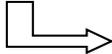
1. 平成28年3月まで
2. 平成29年3月まで
3. 平成30年3月まで
4. その他(具体的に)

 [問 8-6 へ](#)

【問 8 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-5 あなたが入居を希望しない理由は何ですか。(○は1つ)

1. 避難後に自宅を購入または建築したから(自分または家族)
2. 住居(持ち家、応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)以外)を確保できたので、復興公営住宅へ入居の必要がないため
3. 復興公営住宅へ入居するより、応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)への継続入居を希望しているため
4. 復興公営住宅の整備に関する不満があるため
(具体的に)
5. その他
(具体的に)

 [問 8-6 へ](#)

IV 参考資料

【問 8 で「4. 現時点では判断できない」「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-6 あなたは今後の住居をどのようにお考えですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------|
| 1. 今の住居で継続して暮らしたい | ⇒問 8-7 へ |
| 2. 現時点ではわからない、判断できない | ⇒問 8-8 へ |
| 3. 現在居住している住居から引っ越したい | ⇒問 8-9 へ |

【問 8-6 で「1. 今の住居で継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 8-7 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 今のコミュニティになじんでいるから | 9. 今の住宅の家賃が無償だから(家賃が賠償対象になっているから) |
| 2. 立地が気に入っているから | 10. 引っ越しを繰り返すのがいやだから |
| 3. 間取り等今の住宅が気に入っているから | 11. 避難指示が解除された後も双葉町へ戻らないと決めているから |
| 4. 現在の職場が近くて便利だから | 12. その他 (具体的に |
| 5. 買い物等の日常生活に便利だから |) |
| 6. 防犯上安心だから | |
| 7. 子どもを転校させたくないから | |
| 8. 自分または家族の持ち家だから(避難後に自宅を購入または建築したから) | |

└─> 問 9 へ

【問 8-6 で「2. 現時点ではわからない、判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-8 復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 家族が別々の地域で暮らしているため |
| 2. 家族の意向と本人の希望が一致しないため |
| 3. 子どもの将来を考えて判断したいため |
| 4. 高齢者がいる世帯であることを考慮すると判断が難しいため |
| 5. 仕事の都合でどこを生活拠点にできるか不明確のため |
| 6. 判断するために考慮することが多すぎるため |
| 7. 双葉町へ帰還することを優先して考えているため |
| 8. 双葉町へ帰還するかどうか判断してから決定したいため |
| 9. その他(具体的に |

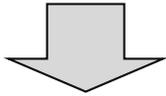
└─> 問 9 へ

ここからの設問は、同封資料の「(参考資料)
「(参考資料) 避難指示解除準備区域 (両竹・浜野地区)」

【すべての方にうかがいます。】

問 9 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えで

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)



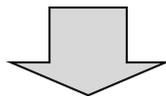
「1」を選んだ方は、
問 9-1-1 および問 9-1-2 へ

問 9-1-1 何年以内であれば待てますか。(○は1つ)

1. 3年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 帰れるまで待つ

問 9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない



問 9-4 へ

問 9-2-1 双葉町へ戻ることを

1. 避難指示解除となる時期の
2. 道路、鉄道、学校、病院な
3. どの程度の住民が戻るかの
4. 放射線量の低下の目途、
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に
7. 放射線の人体への影響に
8. 働く場の確保の目途
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関す
11. その他(具体的に
12. 現時点で家族間の意見が
13. 現時点ではどのような情報

問 9-2-2 上記「1」から「11」で

選択肢番号	

問 9-3 双葉町との“つながり”

1. そう思う

【将来的な希望とは】

町は、すでに恒久的な住宅を取得した方や、復興公営住宅に転居した方であっても、いつかは双葉町へ帰還したいという希望をお持ちである限り、帰還に向けた様々な支援を実施していきたいと考えております。そのための具体的な支援内容についても、町民の皆さまからのご意見を踏まえ、検討して参ります。

また、町は、現在の住居と双葉町内の住居を往来する「二地域居住」が、まずは皆様の現実的な選択肢になるだろうと考えております。公営住宅等を始めとする生活環境の整備を進めることはもちろん、町内における雇用の場の整備等を進め、町の魅力を高めて参ります。

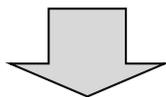
いてお聞かせください。

双葉町復興まちづくり長期ビジョン（概要）」
の復興の進め方について」をご覧くださいからお答えください。

すか。「1」から「3」の中から1つ選び、それぞれの質問にお答えください。（○は1つ）

2. まだ判断がつかない

3. 戻らないと決めている



「2」を選んだ方は、
問 9-2-1 および問 9-2-2 へ

「3」を選んだ方は、
問 9-3 へ

判断するために必要なことを教えてください。（○はいくつでも）

目安に関する情報
どの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
状況
除染成果の状況

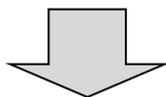
関する情報(事故収束や廃炉の状況)
関する情報

る情報

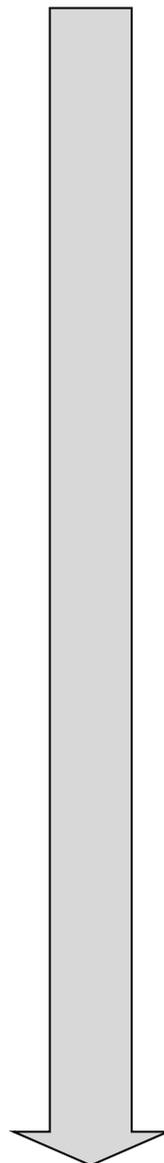
分かれており、帰還意向について回答できない
があれば判断できるかわからない

重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

具体的な条件・内容



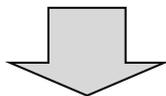
問 9-3 へ



を保ちたいと思いますか。（○は1つ）

2. そう思わない

3. わからない



問 9 で「2. まだ判断がつかない」を選んだ方は問 10 へ

問 9 で「3. 戻らないと決めている」を選んだ方は問 9-7 へ

IV 参考資料

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4 震災時に居住されていた双葉町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。重視したいものから順に選択肢番号欄に3つまで選んで、具体的な内容の欄に支援の具体的な内容をご記入ください。

1. 除染対策(被ばく低減対策)
2. 住宅の修繕や建て替えへの支援
3. 商業施設の再開や新設
4. 医療、介護福祉施設の再開や新設
5. 学校や教育施設の再開や新設
6. 公共交通機関の再開
7. 雇用確保・就業支援
8. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善
9. 地域のきずな維持やコミュニティへの支援
10. 原子力発電所の廃炉に関する情報の提供
11. 中間貯蔵施設に関する情報の提供
12. その他
13. 特になし ⇒次の「具体的な内容」への記載は省略し、問 11 へ

優先順位	選択肢番号	具体的な内容
(例) 1番目	(例) 4	(例) ○○病院の再開
1番目		
2番目		
3番目		

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 9-5 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)
2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい
3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい
4. 民間賃貸住宅(一戸建)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
6. 公営住宅
7. 給与住宅(社宅など)
8. 家族のどなたかのお住まい・実家
9. 親戚・知人宅
10. その他(具体的に)
11. 現時点では判断できない

問 9-5 で「1」、「4」から「11」を選んだ方は問 10 へ

問 9-5 で「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」を選んだ方は問 9-6 へ

問 9-5 で「3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい」を選んだ方は問 9-6 へ

【問 9-5 で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 9-6 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから
2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから
3. 双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから
4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから
5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから
6. 元の持ち家が中間貯蔵施設の予定地内だから
7. その他(具体的に)

問 10 へ

【問 9 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-7 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援についてお答えください。

(1) 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 中間貯蔵施設の安全性に不安があるから
4. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【双葉町内の復旧状況に関わるもの】

5. 双葉町に戻っても仕事がなさそうだから
6. 双葉町での事業の再開が難しいから
7. 営農などができそうにないから
8. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
9. 双葉町外への移動交通が不便だから
10. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
11. 医療環境に不安があるから
12. 介護・福祉サービスに不安があるから
13. 教育環境に不安があるから
14. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

15. 避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから
16. 避難先の住居(持ち家以外)を生活拠点とし、将来も継続的に居住する予定だから
17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 他の住民も戻りそうにないから
19. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
20. 帰還までに時間がかかるから
21. 避難先で仕事を見つけているから
22. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
23. 避難先の方が生活利便性が高いから
24. その他 (具体的に)

(2) 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 仮設住宅や借り上げ住宅の継続的利用
4. 役所からの継続的な情報提供
5. 一時帰宅支援
6. その他 (具体的に)

問 9-8 へ

営農に関するご意向についてお聞かせください。

同封資料「営農再開と就農に向けた取り組み」をご覧くださいからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 10 避難指示解除準備区域内における農地の所有・借用の状況と、その管理方法に係る希望についてお聞かせください。(○は1つ)

1. 双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有(借用)していない
2. 双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有(借用)しており、自ら保全管理したい
3. 双葉町の避難指示解除準備区域内に農地を所有(借用)しており、保全管理だけは第三者(個人、農業復興組合、農業法人など)にお願いしたい

【すべての方にうかがいます。】

問 10-1 除染後の農地の保全を行うために、農業復興組合は必要と考えますか。また、農業復興組合へ参加したいとお考えですか。(○は1つ)

1. 農業復興組合は必要なので、参加したい
2. 農業復興組合は必要と考えるが、参加はしたくない
3. 農業復興組合は必要ない
4. その他(具体的に)

【すべての方にうかがいます。】

問 10-2 震災発生以前の営農状況と現在の営農状況について教えてください。(○は1つ)

1. 双葉町内で営農していたが、現在は営農していない
2. 双葉町内で営農していたが、現在は避難先で営農している
3. 双葉町内で営農してなく、現在も営農していない
4. 双葉町内で営農していなかったが、現在は避難先で営農している

【すべての方にうかがいます。】

問 10-3 将来、双葉町の避難指示が解除された場合、町内で営農を行いたいですか。(○は1つ)

1. 双葉町内で営農再開または就農したい ⇒問 10-4 へ
2. 双葉町内で営農再開または就農したくない
(理由を具体的に) ⇒問 11 へ
3. 双葉町内で営農再開または就農するかわからない ⇒問 10-4 へ

【問 10-3 で「1. 双葉町内で営農再開または就農したい」「3. 双葉町内で営農再開または就農するかわからない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 営農を再開または就農する場合に、試験栽培などを行うことに興味がありますか。(○は1つ)

1. 興味があるので、積極的に参加したい
2. 一緒に参加する人がいれば参加する
3. 興味はあるが、参加するかはわからない
4. あまり興味がない

→ 問 11 へ

墓地に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 11 町内に墓地の新設を検討していますが、双葉町内で新しい墓地の取得を希望しますか。
(○は1つ)

- | | | | |
|-----------------------------------|-----------|----------------|-----------|
| 1. 希望する(本人、親、先祖、親類など
全ての方を含めて) | ⇒問 11-1 へ | 2. 希望しない | ⇒問 11-4 へ |
| | | 3. 現時点では判断できない | ⇒問 11-5 へ |

【問 11 で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 墓地の取得を希望している理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 現在、埋葬できないでいるご遺骨があるため | 4. 現在のお墓の立地に不安があるため |
| 2. 震災によりお墓の流失や墓石の倒壊等で
復旧の目途が立たないため | 5. その他 [具体的に] |
| 3. お墓参りの利便性を向上させたいため | |

【問 11 で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 11-2 墓地を取得してから、どの程度の期間内に墓石の建立などを実施したいですか。
(○は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 墓地を取得したら早急に実施したい(1年以内程度) |
| 2. 遅くとも1年から3年以内には実施したい |
| 3. 当面は墓地の取得のみとし、必要な時期に実施したい |
| 4. その他(具体的に) |

【問 11 で「1. 希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 11-3 町内に町営墓地が新設される場合、立地やお墓などについてのご要望等をお答えください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 主要道路からの交通アクセスの
良い場所 | 5. 永代供養墓の整備
※墓参りに行けない方や墓守不在の場合に、
墓地管理者や寺社等にてご供養と管理を
していくお墓です |
| 2. 放射線量の低い場所 | 6. その他 [具体的に] |
| 3. 広い駐車場の確保 | |
| 4. 高齢者等に配慮された施設の整備 | |

→ 問 12 へ

【問 11 で「2. 希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 11-4 墓地の取得を希望しない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 現在のお墓から移したくないため | 3. 町外で墓地を取得したため |
| 2. 将来的には町外に墓地を取得
しようと考えているため | 4. その他 [具体的に] |

→ 問 12 へ

【問 11 で「3. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 11-5 墓地の取得を現時点で判断できない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1. 墓地の将来について家族や
親類と相談していないため | 2. 現在の墓地の場所が将来どうなるのか不明確なため |
| | 3. その他(具体的に) |

→ 問 12 へ

国や福島県、双葉町へのご意見などについてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

同封資料「(参考資料) 双葉町復興まちづくり長期ビジョン(概要)」
「(参考資料) 避難指示解除準備区域(両竹・浜野地区)の復興の進め方について」を
ご覧いただきからお答えください。

問 12 「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」に関するご意見があればお書きください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 避難期間中の住宅や居住環境や、生活において困っていること、改善を求めること等があればお書きください(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)。また、国や福島県、双葉町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
12月28日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**双葉町 住民意向調査
報告書**

平成28年3月

復興庁 福島県 双葉町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

